

明治十二年二月 下冊

氏奚股
著
心理學

文部省印行

心理學下冊目錄

第二區 情ヲ論ス

發端題目

第一篇 此學ノ此部ノ旨趣難易并ニ切要ナルヲ論ス 一

第二篇 感性ノ分解并ニ彙類ヲ論ス 一二

諸家感性ノ大部分、記傳ノ略

第一部 單純ナル情緒ヲ論ス

第一情 本能上ノ情緒ヲ論ス

第一章 愉快并ニ其反對タル悒鬱ト名クル心意上ノ一般ノ形狀 三一

第二章	朋友ノ死ニ於ケル憂悶	三七
第三章	他人ノ幸福愛患ニ就テ生スル同感	四三
第二篇	道理上ノ情緒ヲ論ス	五七
第一章	自己優劣ノ觀ヨリ發スル歡喜悲哀ノ情緒	五七
第二章	笑樂ノ享樂	六五
第三章	新珍奇異ノ享樂	八九
第四章	美妙高妙ノ享樂	九五
第五章	躬行ノ正直ナルニ於テノ自得悻悻ナルニ於テノ悔恨	一一〇
第二部	情款ヲ論ス	一一八
第一篇	善意ノ情款	一一八

第一章	親族ノ愛	一二一
第二章	朋友ノ愛	一三〇
第三章	恩人ノ愛	一四〇
第四章	住處并ニ木園ノ愛	一四五
第二篇	惡意ノ情款ヲ論ス	一五三
第一章	怨恨并ニ其諸類嫉妬猜忌報復	一五三
第三部	欲ヲ論ス	一七七
第一篇	欲ノ情狀并ニ彙類ヲ論ス	一七七
第二篇	形體ノ資質ヨリ生スル諸欲ヲ論ス	一八三
第三篇	心意ノ資質ヨリ生スル諸欲ヲ論ス	一九一
第一章	幸福ヲ願フノ欲	一九一
第二章	知識ヲ求ムルノ欲	二〇五

第三章 權勢ノ欲

二二一

第四章 權勢ノ欲一定ノ變化ニ因テ勝ヲ好ミ、
所有ヲ好ムノ欲トナル者

二一七

第五章 結交ノ欲

二二三

第六章 貴重ヲ受ル欲

二四一

第五篇 希望并ニ恐懼ヲ論ス

二五一

第三區 意ヲ論ス

一一

發端總論

第一篇 意ノ情狀ヲ論ス

一

第一章 意ノ發作中ニ含メル元本

六

第二章 此元本ノ講究

八

第二篇 意ト他ノ心裏諸勢力トノ關係ヲ論ス

三二

第三篇 意ノ自在ヲ論ス

四六

第一章 意ノ自在ノ說ヲ執ル考

四九

第二章 其直ナル據證

五九

第四篇 前論ト相係ハル疑問ノ一說ヲ論ス

七一

第一章 意ニ反スル撰擇

七一

第二章 吾人行フヘキ偏尙ナキ事ヲ行フ勢力

七五

第三章 動機ノ響動

八二

第一 意ハ必陽象ノ自然ニ向フ者ナリヤ

八二

第二 意ハ動機ノ最強キ者ニ因テ定メラル
、者ナリヤ

八五

第三 動機ハ源因ニシテ執意ハ應效ナリヤ

八七

第五篇 教門中一定ノ眞理ト一連絡ニ於テ觀タ

九七

ル意ノ説ツ一派ヲ論ス

第一章 人ノ心意上ニ上帝ノ及ホス所ノ力 九八

第二章 人已カ身上ニ及ホス力 一〇九

第六篇 意ノ強弱ヲ論ス 一一六

第七篇 記傳ノ略○意ノ自在ノ説ニ就テ爭論ノ 一二三

概略

引用書

下冊目次畢

心理學下冊

第二區 情ヲ論ス

發端題目

第一篇 此學ノ此部ノ旨趣難易并ニ切要ナルヲ論ス

此科學ノ新ナル一部ヲ講究セムト欲スルニ臨ミ此書ノ緒言ニ既ニ論
シタルコトナレド心ノ此勢力ニ就テ尙暫時其分解ト彙類トニ復歸シ
テ論スルヲ良トス讀者須ラク追懷スヘシ心ノ能力ハ其分解ニ於テ智
情意ノ三大部ニ分チ第一部ニハ思慮知識ノ諸勢力ヲ包含シ第二部ニ
ハ感動ノ勢力第三部ニハ意ノ勢力ヲ包含セシコトヲ而シテ此三大部
ノ中第一ノ勢力ハ既ニ前諸篇ニ論究シタルヲ以テ今ハ將ニ第二ニ説

分解ノ端緒

亞墨利加聯邦神教學士約瑟奚般著
日本 西周譯

二大部ノ
差異ヲ論
ス

キ至ルヘシ

心ノ發動ノ中ニテ此部下前ノ部ト異ナルハ猶感スルコト、思慮スル
コト、異ナルカ如ク其區別ハ大ニ且較著ナレハ人苟モ自己ノ心ニ就
キテ其運用ノ如何ヲ知ル者ハ誰カ之ヲ誤解スル者アラム、縱ヒ人皆之ヲ
解釋スルコト能ハズトモ又所謂情ハ何如ニシテ生スルト云フヲ審ニ
説話ニ得ズモ其差異アルヲ知ルハ人皆然ラサル莫シ故ニ吾人其意義
ヲ定メ得ルト然セサルトニ拘ハラズ思慮スルコト、感スルコトハ其
行爲ニ差異アリテ心ノ情狀中全ク別ナル意識ヲ有スルハ十分ナリト
ス今日生平ノ言語ニモ固ヨリ此差別アリテ教育アル人モ教育ナキ人
モ同シク之ヲ用井農夫モ學者モ均シク之ヲ認メ世界ノ文章ニハ總ヘ
テ之ヲ識セリ

二者ノ關

此二部ノ勢力交互ニ相關スル理ニ就キテハ智ハ本來情ニ先タテ情中

係ヲ論ス

ニハ智アリテ智ニ頼ル者ナリ故ニ預メ或物ヲ認識スルコトナケレハ
感動アルコトナシ感動ハ物體ヲ觀ルニ因テ提醒セラル者ナリ但シ
余爰ニ感動ト云フハ勿論心上ノ感動ヲ指スニテ單素ナル形體上ノ感
覺ヲ指スニハ非ス故ニ一ノ情愛アレハ必情愛ノ目的アリ一ノ好欲ア
レハ必好ニ欲スル物體アリテ其物體ハ情ノ心裏ニ提醒セラレサル前
ニ先初頭ニ智ニテ之ヲ理會スル者ナリ吾人今愛スル時ハ或物ヲ愛シ
欲スル時ハ或物ヲ欲シ或ハ恐レ或ハ願ヒ或ハ惡ム時ハ必其物アリ而
シテ其物タルヤ多少明亮ニ定メ得ヘキ形質アリテ以テ此感動ヲ提起
シ且其智ニテ此物ヲ理會シ若クハ知覺スルコトノ明亮活潑ナル度ニ
準シテ感動ノ強弱モ生スルナリ

感動ノ強
弱ハ智ノ
強弱ニ關

是ヲ以テ感性ノ品級勢力即此心ノ感動ヲ受ケル強弱ハ靈智ノ勢力ノ
品級健俊ニ關シ一定ノ界限内ニテハ其一ト他ノ一ト其差等同等ナリ

スルヲ論

靈智ニ感
動ノ波及
スルヲ論

トス、故ニ人其心強剛健俊ナル者ハ其情ノ感動萎靡ニ成ルル人ヨリモ、
 一層強ク美爾頓格朗空拿破崙空不斯等ノ若キ皆尋常ノ人ニ超脱セル
 ハ特智ノ知覺ノ明亮強健ナルノミナラス感動ノ力モ亦相若ケルナリ、
 蓋シ此中ニ彼ノ諸人ノ俊傑タル秘密ノ存セルハ亦尠少ニ非ルナリ、凡ソ古
 今説術ノ大家ノ雄辯ナル文段中ニテ吾人ノ意思ヲ挑起シ其言辭ノ我
 ニ貫徹スルハ特ニカノ嚴正ナル致知學ニ依テ抗拒ス可ラサルノ權力
 ヲ以テ刻薄ニ辯倒シタル所ニハ非ス、凡ヘテ其熾シカ如キ憤怒ヲ以テ
 其敵手ノ詭論ヲ挫折シ偽題ヲ粉塵ニシテ其論證ト抗論トヲ悉皆掃蕩
 シ盡シテ火ノ原ヲ焚シカ如シト云フニハ非ス、テモステニスアレシ德謨斯底尼斯波哥空不
 斯等ノ談論ニハ此例トナスヘキ所許多アリ
 又一方ニ就キテハ智ノ形容ニハ何レノ時ニテモ此心ノ感動ヲ受クル
 形質強弱ニ關スルコト少カラスト云フモ亦真ナラスト謂フ可ラス、其

ス

心ノ能力
中ニテ此
部ノ切要
ナルヲ論
ス

感性敏捷活潑ナル者ハ靈智上ノ理會ニ於テモ亦均シク一層速ニ一層
 強クシテ想像知覺妄想且論辯ステ依テ以テ速カニナリ、恰モ電氣ニ抵
 觸スルカ如ク因リテ以テ活動スルニ至ルナリ
 其感性ノ遲鈍緩慢ナル人ハ其智モ殆ト必愚蠢蒙昧ナリ、若吾人奇怪ナ
 ル事ナレバ感動ナキ人ヲ見ルヲ得ハ其靈智ノ度禽獸ニ勝サル極メテ
 僅少ナルヘシ
 感性ノ性質ハ此ノ如キヲ以テ此心ノ作用中ニテ此部ノ切要タルハ一
 自ニシテ瞭然タリ、蓋シ人々行爲ノ源ハ斯ニ在リテ總ヘテ人性ノ學即吾
 徒ノ從事スル所ニ就キテハ斯ニ頭緒アルヲ知ルナリ、凡ソ人生行爲ノ問
 題中其組織シテ異常ナル者ニ通曉セムト欲シ、歷世ノ史乘社會ノ情狀
 凡ヘテ吾人ノ性情ニ通曉セムト欲セハ能感性ノ性質ニ通シ其理ニ明
 ナラサル可ラス、此中ニ此世界紛錯ノ事ヲ行爲ニ施サシムル動機存シ、

不羅昂ノ
説ヲ引ク

又此中ニ、人ヲシテ、人生ノ大劇場ニ於テ、繽紛交錯變化己マサルノ戲臺
中ニ居ラシムルノ源由存スルナリ、故ニ總ヘテ、人々ノ氣力ニ衝動ヲ發
揮シ、其方向ヲ指定シ、人々ノ品性ヲ調成シ、人々ノ履歴ヲ造爲シ、人々ノ
運命ヲ定ムル者ハ、人々ノ情欲ナラサルハ莫シ、是ヲ以テ、人ヲ知り、世界
ヲ知ルト云フハ、之ヲ有力的ニ説話セハ、人ノ心腸ヲ知ルニ在ルノミ
人性ニ在リテ、此部ノ切要タルコトハ、次ノ學士多馬不羅昂ノ文段中ニ
能叙述セル所ナリ

曰ク、吾人性ヲ稟クル此心ノ靈智ノ形狀ニ就キテ視レハ、蓋ソ所謂情ナル
者ナシト雖モ、記念辨決想念ノ爲ノ若キ凡ヘテ其諸種ノ形狀ヲ具セル
者タルヘシ、然レモ凡ヘテ此等ニ伴フニ情ヲ以テセサル時ハ、唯靈智ノ
官能ノミコシテ、其貴重ヲ欠クコトハ、幾何ナルヘキ、凡ヘテ吾人此活
潑ナル感動アリテ、而シテ後ニ細密ナル注意ヲ提起シ、記念ヲシテ、永ク

六

懷裏ニ保タシムルコトアリ、又此活潑ナル感動アリテ、而シテ後ニ眞理
ヲ愛シ、榮華ヲ愛シ、衆人ヲ愛シ、辨決ヲシテ、倦ムコトナカラシムルコト
アリ、若此愛微リセハ、吾人知識ノ開達宣布ヲ要スモ、之ヲ稱揚スルニ陸
續トシテ、辨決ヲ勞セハ、豈其中心ニ歡フニ至ラムヤ、又此活潑ナル感動
アリテ、吾人カノ想像力ノ奇觀ヲ觀察シ、又カノ天然不易ノ一層奇觀ヲ
ル美妙ヲ觀察シ、心ニ感興悅樂スル所アリ、蓋ソ天然ノ美妙ノ若キハ、常ニ
存スル所ナリト雖モ、所謂之ニ模倣スルハ、即此感動ヨリ生スル所ニシ
テ、之ヲ眞ノ模倣トナスナリ、是ヲ以テ、吾人心上ノ他ノ官能ノミニ依レ
ハ、唯寰宇中、動靜機關ノ看客タルニ過キス、唯此情アリテ、始メテ能、吾人
ヲシテ、天地ノ大ナルヲ感シ、人ヲ愛シ、神ヲ尊フコトヲ知ラシムルナリ
ト云々

情ノ好

不氏又曰ク、然ルニ、余上ニ論シタル所ハ、吾人ノ情ヲ、比喻シテ、其至好

七

ス可ラサ
ルヲ論ス

形容ヲ述ヘタルナリ。此等ノ情ハ極メテ好ミスヘシト雖也、又其好ミス
ヘキヲ以テ隨テ又恐ルヘキ形容ニ出ルコトアリ、然レモ其恐ルヘキ所モ
亦吾人ノ觀察ニ供シテ切要ナラサルニハ非ス、蓋シ情ハ吾人ノ敵ニシテ
吾人畢生ノ戰ニ於テ之ト死闘ヲナサ、ルヲ得ス、故ニ此吾人ヲ攻撃ス
ル敵ニ就キテハ、吾人先其以テ我ヲ攻撃スル軍器兵略ニ悉ク通曉スル
ヲ善シトシ、又吾人若敗ヲ取ラハ、其以テ我ヲ待ツ所ノ苦楚何如ヲ知悉
シ、並ニ若捷ヲ獲ルトキハ、我カ福祿何如ヲ知悉シ、以テ能ク我カ戰爭ヲ
シテ強クシテ撓マヌ我カ勝利ヲシテ、一層必然ナラシムルヲ善シトス、
吾人ノ情中此殊ニ怕ルヘキ種類ノ目錄中ニハ、何レコトモ所謂情欲ト
云フ者ヲ兼、此欲即人生ニ罪業ヲ生シ、慘苦ニ陷ラシムル者ニシテ寸陰
ト雖也、其疆域ヲ管轄スルニ解ルノ時アレハ、常ニ我カ福祉ヲ蠶食シ、竟
ニ悔恨以テ其暴威ヲ怖ル、ニ至ルノ外、我カ德域酸削シテ、毫モ餘地ナ

此講習ノ
難キヲ論
ス

キニ至ル、此ノ如クニシテ猶未タ全ク壞爛セサル者ハ、其心腸猶善ヲ好
ムノ意ヲ存シ、逡巡躊躇猶恢復ヲ望ムヘキ者アリト雖也、悲哉、此情欲ハ、
孱弱ナル犠牲ヲ屠殺ニ促シテ、竟ニ凋衰萎靡再萌生ス可ラサルニ至ル、
譬ヘハ、カノ渺茫タル沙漠ニ、暴烈ノ大風起ルカ如シ、特リ目前觀ル所ノ
沙堆ヲ飛揚シ、旋渦ヲナシテ、天ニ朝スルノミナラス、其蒼然僅々ノ地ヲ
存シ、礪礪一望ノ中ニ、稍藹然タラムト欲スルモ、之カ爲ニ嫩葉枯殘シ、再
其萌芽ヲ望ム可ラサルカ如シ、
吾人ノ性中、此感性ノ部ヲ講習スルニハ、一難事アリト云フ説ニ就キテ、
姑ク一言ヲ載スルコト切要タリ、感性ハ、其真個ノ性質ニ於テ、感發興起
ノ品性ヲ有ス、故ニ正シキ辨決ニ必用タル、淡靜ニシテ、不偏ナル觀察省
察ヲナスニ、一ノ阻礙ニシテ、心ノ發動中ニテモ、此部ノ講究ハ、成功ヲ得
ルニ、特別ノ難事タリト謂ヘリ、今願望、恐懼、憤怒等ノ如キ、活潑ナル情ノ

是此科學
ノ此部ニ
限ルコト
ナラサル
ヲ論ス

發動スル瞬間ニハ、此心詳細ニ反省ヲナサムトモ殊ニ混亂ニ屬シ、
而テ其感發ヲ制スル時ハ、切要ナル時間ハ、既ニ己ニ過クルナリト、是
士低瓦的氏カ其決行道德力緒言中ニ殊ニ此難事タルヲ表章シテ、其證
ニ虎謨ノ説ヲ引カレシ所ナリ

然ルニ問題ナル難事ハ、其實凡ヘテ心理ノ科學ニ屬シ、獨其中ノ此部ニ
ノミ限ル事ニ非ルノ一タリ、而シテ士低瓦的氏ノ援ケル文段ニ於テ、虎
謨ノ意モ、然ガナリト見ユ、今吾人何ニテモ、情ノ方ニ興起セル時ニ、辨折ノ
眼力ヲ以テ、我カ自己心意ノ作用ヲ、視察スルニ、固ヨリ便法ヲ得ヌ、又機
會ニ非スト謂フハ、固ヨリ眞コシテ、是獨僅ニ感發セル時ニ、之ヲナシテ、
其當ヲ得サル耳ナラス、論辯ノ如キ想像ノ如キ、追憶ノ如キ、靈知ノ作用
ト雖モ、專心ニ注意ヲ要スル時ハ、亦爲ス可ラサル事ニ屬ス、此ノ如キ時、
吾人自己ヲ、視察セムトスル瞬間ニハ、此心ノ用、既ニ己ニ前時ノ如クナ

報知ヲ得
ルノ源由
ヲ論ス

ラスシテ、我カ視察セムト、欲スル經驗ノ目的ハ、既ニ間歇シ、論辯、想像、追
憶ハ、歇ミテ、我ハ、唯我ヲ視察スルノミ、故ニ、吾人、智ト情トニ拘ハラヌ、無
二脚基ト頼ムヘキ者ハ、平日、記性ニ據ルカ如ク、後來能、尋思シテ、其時ノ
心ノ發動情狀、其作用ノ云々ナリシコトヲ、拾集スルニ在リ、是吾人、感性
ノ作用ニ就キテモ、又靈智ノ作用ニ就キテモ、情與感發ノ度、殊ニ甚シク
シテ、現時ノ意識ヲ攪擾シ、自己心裏ニ經過セシコト、後來追想スルコト、
能ハサルニ至ルニ非ルヨリハ、皆能ナシ得ヘキ所ナリ

又且、吾徒、全ク自己ノ視察ニノミ、依頼スルヲ必トセス、之カ報知ヲ取ル
ノ源由ハ、二様アリテ、一ハ、我自己ノ心ヲ視察シ、一ハ、他人ノ上ヲ、視察ス
ルナリ、此後ノ源由ヨリシテ、吾人、此心ノ作用中ニテ、此部ノ性質ニ、通曉
スルコト、極メテ多シ、蓋、他人ノ感性ハ、吾人ノ監視ニ、供スルコト、一層多
クシテ、他人ノ靈智ノ情狀ヲ、視ルヨリモ、誤謬ニ、落ルコト、鮮シ、此等ノ時

ニハ、縱ヒ其瞬間ニ當リ、情欲旺盛ナル者ハ、自監視セムトストモ、感慨甚シク、之ニ堪フ可ラスト、雖ヒ、傍觀者ニ在リテハ、平心仔細ニ其情ノ效驗ヲ觀察シ、其現象ヲ表出シ得ヘシ故ニ、自己省察ト、同一ノ難事ヲ見サルナリ

第二篇 感性ノ分解并ニ彙類ヲ論ス

感性ト云フ語ノ意中ニ、以前示セル定義ニ準シ、何ニテモ、感動ノ性質タル者ヲ、包括シテ、一ニハ、思慮認識ヨリ、之ヲ差別シ、又一ニハ、此語ヲ亦嚴ニ、心ニ與ル感動ニ限リ、唯形體上ノ感覺ト云フ者ヨリ、區別ス、ソハ、乃此中ニ、一定ノ首タル區別アリテ、吾人、心ノ情狀中ニ、此一類存シテ、其中ニ、又甚著ルキ大區別、大差異ノ、在ルヘキコト、明ナリ、此差別ニ依リテ、吾人、之カ位置ヲ定メ、之カ分類ヲナスニ、至ルナリ、吾人ノ感動ハ、其數許多、其種諸様アリ、故ニ、十全ノ精確ヲ以テ、之ヲ枚舉彙類スルハ、爲シ得可ラサ

一定ノ差別ヲ表シ得ヘキヲ論ス

ルノ事ナリト雖ヒ、其中交互ニ類似差異ノ所一定シ、自然ニ區分シテ、一類一種トナルヘシ

普通ノ差別ヲ示ス

感性ノ諸狀諸様ヲ、一貫シテ、普通ノ一區別アリ、是初頭ニ於テ、明亮較著ナル者ニテ、即稱意、不稱意ノ別ナリ、凡ヘテ各種ノ感動ハ、其真個ノ性質中ニ、必此一ツヲ、具ヘサルコトナクシテ、一ハ、我ニ快樂タリ、一ハ、我ニ痛苦タリトス、此別、或時ヨリモ、甚較著ニシテ、烈シキコトアリ、又或時ハ、孰レニ在リテモ、其度極メテ僅少ニシテ、之ヲ覺ユルコトモ難ク、之ヲ定ムルコトモ難ク、論題ナル感動快樂痛苦ノ品性ヲ、合マサルニ非レ、其度極メテ薄キ者アリ、又或時ハ、二ツノ元行、兩ナカラ混合シテ、同一ノ感動ナレ、之ヲ受ル心ニ、一次ニ、快樂ト、痛苦トヲ、含ムコトアリ、然レ、其感動意ニ稱フニモ非ス、意ニ稱ハサルニモ非シテ、正シク、中立不偏ナリト、云フ者ニ至リテハ、余之ヲ理會スルコト能ハス、中立不偏ノ狀ハ、感性ノ

單純ナル
情ヲ論ス

發シタルニ非ス唯其欠ケタルニテ所謂無情(希臘語アパテオス)ト云フ
 語ニテ徵スル如ク心ノ此ノ如キ情狀ヲ表シテ尤適當ナリトス
 此普通較著ナル差別ヲ論過スレハ吾徒感性ノ中ニテ單純ナル情ト名
 シケ得ル一種ノ大類別ヲ見ル此中ニ人生上ノ喜憂二情ヲ含ミ之ヲ攪
 動スル目的ノ異ナルニ從ヒ諸種ノ變態ト諸種ノ度ヲ兼テタリ凡ヘテ
 心ノ情狀中ニテ一定較著ノ形容ヲ占ムルコトナクシテ吾人ノ發動中
 ニ喜悅若クハ愁鬱ノ色澤ヲ帶ヒサスル者ハ概シテ此中ニ入り而シテ
 又其感動一層特別ナル形容ニテ朋友ヲ喪シテ感スル悲哀悵鬱ノ若キ
 他人ノ幸福ニ就キテ同感ノ歡喜又其不幸ニ就キテ同感ノ憂悶ノ若キ
 自己ノ勝レタルコトヲ察シ若クハ其告示ヲ受ケテ生スル享樂ノ若キ
 譏刺ヲ受ケテ憤怒スルカ若キ或ハ笑謔或ハ新奇或ハ美妙ノ享樂ノ若
 キ皆此中ニ包含スル耳ナラス猶之ニ加ヘ行事ノ正シキ意識ヨリ發ス

其他本能
上ノ情ト
理性上ノ
情ノ差別
ヲ論ス

錯綜セル
品性ノ諸
情ヲ論ス

ル要足トカノ邪行ニ就キテ悔恨ノ熱情其度ノ甚シキハ懊惱ト名ツケ
 地上ノ生路ニ艱險ヲ生シ凍雲寒影ノ凋殘ヲ促スガ如キ凡ヘテ此等皆
 單純ナル情ニシテ之ヲ生セシムル目的ノ異ナルニ準シ種々ノ狀アリ
 然ルニ又此單純ナル情ニ諸種特別ノ形狀アル上ニ其一ハ他ノ者ヨリ
 品位ノ一層高キコトヲ知ルヘシ上ニ枚舉セシ中ニ後ニ示シタル諸情
 笑謔ヲ視新奇ヲ視美妙ヲ視正直ヲ視テ興起セル感動且一般ニ美妙學
 上ノ道德學上ニ屬スル情ノ若キハ是皆其品位一層高クシテ靈智開達ノ
 高度ヲ含メリト見ユルニ由リ之ヲ稱シテ理性上ノ情トシ以テ他ノ單
 純ナル情ニテ區別ノ爲ニ本能上ト名クル者ト差別スルナリ
 上ニ分解ニ從事シ了シタルヲ以テ今ハ次ニ既ニ論シタル者ヨリ異ナ
 ル一種ノ情ニ至ルヘシ是即錯綜セル品性ノ情ナリ是既ニ己ニ目的ニ

此種類ニ
猶小區別
アルヲ論
ス

於テ、好樂憂足若クハ、然ラサル若キ、單純ノ感動ニ非スシテ、情ヲ挑發スル目的ニ、善ヲ願ヒ、惡ヲ欲スルコト、多少定體アリ、且太甚ニシテ單純ノ情ト混スル者ナリ、故ニ、此感動ハ、能動ノ狀ヲ取り、客觀トナリ、此情ヲ蓄フル胸臆ヨリ、之ヲ喚起セシメ、目的マテ、自然ニ經過ス、然ルニ、其目的ニ就キテ、善ヲ願ヒ、惡ヲ欲スル欲ヨリ、カノ主觀ナル喜憂ノ元行モ、屢之ニ混同一和シテ、知ル可ラサルニ至ル、然レモ、此元行ハ、此錯綜セル情ノ中ニ、必少シ可ラサルノ、本體トシテ、存スルナリ

此種類中ニ、通常情款ト名ツクル諸情アリ、是亦小別シテ、善意ト、惡意トニ區分シ、以テ此情ニ依リテ、各自ノ目的ノ善ヲ願ヒ、惡ヲ欲スルヲ表スヘシ、カノ單純ナル情ハ、總ヘテ喜悅ト、其反體タル愁鬱トノ、諸體諸様アルカ如ク、情款モ亦愛情ト、其反體タル憎恨トノ、包涵セル一本ヨリ、多般各種ノ變化ヲ生スル者トス

情款ニ諸
種ノ目的
アルヲ論
ス

情款ハ之ヲ寄スル目的ノ異ナルニ從ヒテ、亦異ナル者ナリ、其善意ノ種類中ニテ、尤モ勝レタルハ、親族ノ愛、朋友ノ愛、恩人ノ愛、家國ノ愛ナリ、又惡意ノ情款中ニテ、世ニ尤モ切要タリト呼フ者ハ、自己ノ傷害ヲ厭惡スルノ感動、他人ノ邪行ヲ見テ、憤怒スルノ情、嫉妬ノ感動、及、此等ノ諸類ナリ

情欲ヲ論
ス

此諸種ノ情款、惡意善意共ニ、其生スルコト、常度ニ超エ、激昂勒スルニ堪ヘスシテ、業ニ己ニ、道理ノ管束ト、安定ナル省察トヲ受ケス、其情獨、人身全體ノ司令ヲ掌握シテ、他ニ、一層高キ切要アルニ、拘ハラヌ、其人ヲ逼迫シテ、漫ニ欲スル所ノ目的ニ、從ハシムルニ至リテハ、直ニ變シテ、我カ性ノ情欲トナル、此ノ如キニ及ヒテハ、吾人、此肉身ノ生ノ爲ニ、自家心裏ノ、戰鬥ト、紀律トニ、因リテ、之ヲ維持セムト、欲ストモ、亦一モ、存スル者ナシ

又諸情ノ中、其他ニ、一種類アリテ、其性質前ニ舉ケタル、首タルニ區分ト

言行

欲ヲ論ス

ハ其本體ヨリシテ異ナリトス。是即吾人ノ欲ナリ。此欲ハ二種類ノ者ニテ、其一、人ノ形體ノ性、其官具ノ狀ニ本ツク者ハ、飲食ノ欲、筋維發動ノ欲、休憩ノ欲等ノ如ク、何レニテモ、肉體ノ性ト其需用トニ供スル者ヲ世ニ之ヲ肉性欲ト名ツケタリ。其一ハ、此形骸ノ性ヨリモ、却テ此心ノ性ト需用トヨリ、生スル者ニシテ、肉體ノ欲、即肉性欲ヨリ、區別スル爲ニ、理性欲ト名ツケ得ヘシ。此中ニテ、尤切要ナルハ、幸福ノ欲、知識ノ欲、權勢ノ欲、社交ノ欲、名望ノ欲ナリ。

喜悅ハ其反體ニ愁鬱アリ、愛情ハ其反體ニ憎恨アルカ如ク、好欲ニモ亦其反體タル厭忌アリテ、其目的モ亦好欲ノ目的ト同シク、其數許多ナリ、富饒ノ欲ニハ其對面ニ貧乏ノ厭忌アリ、生存福祉ノ欲ハ、困難死亡ノ厭忌ト相對シテ立ツカ如シ、蓋シ此二ツノ者ハ譬ヘテ言ハハ、一感動ニ積極消極ノ二アルカ如シ。

願望恐懼
ヲ論ス

又吾人ノ情中ニハ、其他尙一種ノ切要ナル者アリテ、人生ノ禍福ニ關スルコト、殊ニ甚シク、吾人襟襟ヨリ以テ墳墓ニ至ルマテノ徑路ニ於テ、此光陰中ニ往來スルコト、蓋シ少ニ非ス、是即願望ト恐懼トナリ。然ルニ此二者ハ、其用タル切要ナリト雖、要スルニ亦好欲厭忌ノ本體稍變化ヲ受クル者ニ過キスシテ、感性ノ總別ニ於テ、同區ニ繫クヘク、即願望ハ、或善ヲ期シテ、冀望スルノ欲トシ、恐懼ハ、或惡ヲ兆シテ、之ヲ厭忌スルノ情トス。

分類ノ總
目ヲ論ス

上ニ舉ケタル三大種ハ、情緒、情欲、欲ニシテ、余ノ指ス所、果シテ人性上感性ノ諸種ニ、誤謬ナカラシメハ、縱ヒ其分解ト彙類トヲシテ、全然網羅シ悉スニ至ラズトモ、吾徒、當今ノ目的ニ供スルニハ、稍精密トスルニ足ルニ庶幾シ。

諸家感性ノ大部分記傳ノ略、

諸家ノ取
レル區別
ノ本則ヲ
知ルノ項
要ナルヲ
論ス

此題目ノ講究ハ、此事ニ係ハレル記傳ヲ、一瞥スルニ非レハ、全備ト謂フ可ラサルニ似タリ、吾徒、自己ノ講究ニハ、稍確定ノ效驗ヲ得テ、其斷言ニ至ルヲ得、タレ、尙又、此事ニ就キテ、諸家ノ見解ト、斷言トハ、何如ナリヤ、之ヲ知ルハ、亦有益ノ事タリ、諸家ノ取ラレシ所モ、猶靈智上ノ勢力ニ、於ケルカ如ク、感性ノ部ニ至テモ、亦其區分、彙類ノ本則ニ於テハ、其說、種々アリ、今此書ニテハ、唯其中、一層切要ナル者ヲ、吾徒ノ一覽ニ供スル耳、感性ノ事ヲ、論著セル諸家ノ中、或ハ、諸情ヲ、願望ト、恐懼ト、愛情ト、憎恨ト等ノ如ク、交互ニ相對シテ、配置シ、以テ此區別ノ本則ト、ナセルアリ、又或ハ、之ヲ人身上、社交上等トシテ、彙類セルアリ、又他ノ著者ハ、時ヲ主トシ、過去、現在、未來トシテ、類集セルアリ、又或著者ハ、本能上、理性上トシテ、分類セルアリ、然ルニ、吾人心性上ノ此部分ニ就キテ、論述スルニ、至リシ諸家ハ、專又然ラストイヘトモ、大率、之ヲ以テ、彝倫學、即道德上ノ事ヲ、目的

彙類ノ總
本則ヲ論
ス

希臘ノ諸
學派ヲ論
ス

トシテ、論セルコト多キカ故ニ、此ノ如キ目的ニハ、上ニ舉ケタル如キ區別ト、順序トヲ以テ、尤モ適當ナリトシテ、取ラレタルコト、凡ヘテ特ニ、性理學上ノ事ヲ、本旨トセルニ、非ルナリ、希臘人中ニテ、伯拉多派ノ諸人ハ、諸情ヲ、恐懼、好欲、喜悅、憂愁ノ四首情中ニ、含蓄ストナセリ、即、失望、厭忌ハ、憂愁中ニ含ミ、願望、勇敢、憤怒ハ、好欲中ニ、包在セルカ如シ、凡ヘテ希臘ニテハ、外物ニ攪挑セラレ、情ヲ動カスハ、此心ノ受動ノ狀ナルヲ以テ、一般ニ情欲ヲ名ケテ、パドネト云ヘリ、其意ハ、苦ヲ被ムルト、云フコトニテ、此語ヨリ、英語ノパスホス、憤、又パスヘチツ、激、等ノ語ハ、來リ、又此語ヨリ、拉丁ノパッシオ、煩、及、パチオル、惱ト云フ語出テ、而シテ、英語ノパスシウン、情、欲ト云フ語ハ、來レルナリ、士德衣加派ニテハ、特ニ、總ヘテノ諸情ヲ、徵シテ、パデイ、疾トシ、以テ、此心ノ紛亂ト視タリキ

豪多樂ノ區別

輓近ノ著者中ニテ、豪多樂ハ、感性ヲ二大類ニ分テ、喜悅ト、不喜悅トシ、喜悅中ニ、愛情、好欲、願望、歡樂、愉快ノ追懷ヲ括シ、不喜悅ノ中ニ、上ノ諸情ノ反對タル、憎惡、厭忌、恐懼、憂愁、不愉ノ追想ヲ、包テタリ

本源分派ノ別ヲ論ス

英吉利ニテ、或他ノ著家、瓜側克樓丕ノ如キハ、諸情ヲ窮メ、畢竟、驚、愛、惡ノ三本源ヨリ、枝別シタル者トシ、此三ツヲ第一元ノ情欲トシ、餘ハ皆、其分派トナセリ

哥顏ノ區別

哥顏ハ、其情欲論ト云ヘル、極メテ有益ナル書中ニ、感性ヲ分テ、情欲、情、情款ノ三ツトシ、此第一語ヲ以テ、此心ノ、或衝動スル原因ヨリ受ケタル、初頭ノ印象ヲ徵シ、第二語ヲ以テ、第一ノ印象ニ繼ケル、一層永キ感動ヲ徵セリ、是顔色ト、容貌動作トノ上ニ、露洩シテ、外ヨリ觀ルヘキ徵標アル者ナリ、而シテ、情款ト云フ語ニテハ、其目的タル物體ヨリ、此心ニ響動シタル、緩弛ナレト、一層永續スル者ヲ指セリ、又情欲ト、情款トヲ、此著家ハ、

學士來德ノ彙類

學士來德ハ、名ヲ創シテ、情ヲ能動ノ本元トシ、之ヲ三種ニ分テ、機關上、肉體上、理性上トナシ、第一種ニ、本能、并ニ慣習ヲ括シ、第二種ニ、吾人ノ肉欲、第三種ニ、吾人作用ノ一層高邁ナル本源ヲ、位置シタリ

士低瓦的ノ區別

獨格拉士低瓦的ハ、本能上、即、天賦ノ本元ト、理性上、即、管束ノ本元トノ二種トナシ、天賦ノ中ニ、肉欲、好欲、及、情款ヲ包括セシメ、管束ノ中ニ、自愛、及、道德上ノ能力ヲ列シタリ、又好欲ヲ、肉欲ヨリ區別シテ、好欲ハ、肉欲ノ如ク、形體ヨリ、生スル者ニ非ス、又時期ヲ定メテ、一定ノ間歇アリテ發シ、其目的ヲ達スルニ及ヒテハ、止息スル如キニ、非ストセリ、又情款ノ名目中ニ、凡ヘテ人性上、其目的トシテ、他人ニ對シ、或ハ善意ヲ示シ、或ハ惡意ヲ示ス所ノ、諸本元ヲ、包抱セシメタリ

不羅昂ノ區別

學士不羅昂ハ情ト云フ總名ヲ命シタル感性ヲ分チ、時間ト其發作トノ關係ヲ主トシ、直接、反顧、期望ト立テタリ、而シテ直接ノ中ニハ、道德上ノ感動ナラサル者ハ、愉快、恒鬱、驚動、及其對美妙ノ感動、及其對高妙ノ感動、笑樂ノ感動ヲ類集シ、又道德上ノ感動ニテハ、德ト不徳トヲ、差別スル情、愛惡ノ情、同感ノ情、驕傲恭謙ノ情ヲ、布列シタリ、而シテ反顧ノ中ニ、憤怒、感恩、悔恨、得意ヲ含メ、期望ノ中ニ、凡ヘテ吾人ノ好欲、恐怕ヲ、包テタリ、博士、阿咸ハ、感性ヲ二大部ニ分チ、天然ト、道德トナシ、天然ノ中ニ、情ト、欲トヲ、含マシメ、道德ノ中ニ、德義ノ情、操ト、獨知トヲ、包子、而シテ、欲ノ種類中ニ、本能、肉欲、偏癖、情款ヲ括シタリ、學士喜確ハ、感性ヲ、肉性、理性、精神ト云フ、三ノ受性中ニ、類別シ、肉性中ニ、本能、肉欲、天然ノ情款、私利ノ感動、不利ノ感動ヲ、舉列シ、理性ノ中ニ、美妙、學術、彝倫、敬神ノ感動ヲ、挿入シ、最後ノ精神受性ハ、此二者ヨリ、異ナリテ、

喜確ノ區別

阿咸ノ區別

以上ノ諸區別ヲ論ス

此二ノ如ク、其性分ニハ非ス、寧、其人ノ氣質品性ヨリ、生スル者トセリ、此彙別ノ種々ナル模範ヲ、講究シテ、辨析ヲナスハ、此書ノ疆界ニテ、禁スル所、亦此書ノ旨趣ノ要スル所ニモ、非ルナリ、然レ、唯之ヲ正言セハ、此分類ノ方法、諸種アリト雖、一モ全ク、浹洽セリト、謂フ可ラス、是皆、嚴ニ學術上ノ態度ニ、合セスシテ、譬ヘハ、哥顏ノ方法ノ如キ、吾人ノ感性ヲ舉リ、推窮シテ、自愛ト、社交ノ性トノ、二大本ニ出テ、タリトシ、一ハ、我カ自己ノ福祉ヲ、願フノ欲トシ、一ハ、他人ノ景況品性ニ、渉ル者トシ、而シテ、此第二ノ者ヲ、分解シテ、愛惡ト云フ、二ノ元首タル情款ニ、歸セリ、是此著家ノ說トスル所ナレ、其區別ノ專擅ナルカ故ニ、辨駁ニ、屬スヘキハ、一目ニ、シテ、亮然タリ、是寧、性理トシテ、論スルヨリモ、彝倫學ニ、屬スヘシ、今ソレ、單純ナル情ハ、本來此二大本ノ、何レヘモ、歸ス可ラサル者多ク、且又、一ニハ、情ト欲トノ、性理上ノ別異ハ、此類別中ニ、全

ク脱却セルナリ、總テ上ニ擧ケタル方法ハ、其他ノ諸種モ實ニ此同一論ニ當ルナリ

士低瓦的ノ區別ヲ論ス

士低瓦的氏ノ分類ニ於テ、其論駁スヘキハ、自愛ノ元ト、并ニ又道義ノ能力トハ、兩ナカラ、實ニ吾人ノ性中ニ賦與セラレタル者ナルコト、他ノ性分本能上ノ者ニ異ナルナシ、然ルニ、士氏ハ、道義ノ能力ヲ、他ノ情ノ天賦、即、本能ト、稱スル者ヨリ、區別シテ、之ヲ理性ノ元トシテ、類列セリ、且又肉欲ハ、唯欲ノ一種、其一異狀ナリ、而シテ、自愛モ、唯其一異狀ニテ、吾人自己ノ福祉ヲ欲スル者ナルニ、併セテ之ヲ混合セリ

阿咸ノ區別ヲ論ス

阿咸氏ノ區別ハ、同一理ニ據テ、尙一層論駁ニ供スヘキ者ナリ、其感性ヲ分ナテ、二大類トシ、天然ト、道德トノ情操トナセリト雖、是事實ニ於テモ、又名義ニ於テモ、差別アルコトニ非ス、其道德ノ情操ト、稱セル者モ、亦吾人ノ性分上ニ本ツキテ、眞實ニ天然タルコトヲ失ハス、亦猶吾人ノ欲

彝倫學ト、性理學ト、講究ノ異ナルヲ論ス

ト、情款トノ如シ、又天然ト云フ語ハ、本來道德ト云フ語ト、相對シテ、差別アリテ、相反スル意ヲ、徵スルニ非ス、士氏ノ用井タル本能ト、理性トノ若キハ、辨駁ス可ラスト、云フニハ非レ、果シテ、此ノ如キ差別ノ、存スルアラハ、其見解ノ區別ヲ、尤モ能ク精密ニ、名狀シタル者ト、謂フヘシ
ソレ、書ヲ著ハスニ、其本旨ハ、道德彝倫ノ科學ニ就キテ、其本理ヲ、辨明スルニ在ル時ハ、自愛ノ元ヲ、他ノ諸情ヨリ、簡拔シテ、各自ニ、之ヲ列スルコト、固ヨリ願フ所ニシテ、カノ社交ノ元、道義ノ情操ノ若キハ、人ノ道德上ノ、品性躬行ニ、一層直説ニ涉ル者ナレハ、總ヘテ、之ト區別スヘシ、然レ、嚴密ニ、性理ヲ論スルニ至リテハ、其正鵠唯人心ノ現象ヲ取リ、之ヲ、其天然ノ次序ニ、排列シテ、以テ、其義ヲ表明スルニ在ルヲ以テ、其分類中ニ、上ノ法則ヲ取ルハ、爲ス可ラサル事タル、著明ナリ、此ノ時ハ、心ノ諸運用ト、諸情トヲ、視察シテ、之ヲ、排列スルニ、致知學上、又道學上ノ差別ニ、涉ラヌシ

テ、唯專其性。理上ノ差別ヲ類別スヘシ、此ノ如ク、見解ヲ立レハ、道義ノ情操ト雖、是皆感動ノ性アリテ、感性ニ屬シ、絶エテ靈智ノ覺性ニ屬セザレハ、之ヲ單純ナル情ニ、位スヘクシテ、天性ヨリ、他ノ同種類ノ感動ト、異ナルニ非ルナリ、譬ヘハ、吾人過去ノ事ニ就キテ、正シキ行爲ヲ觀テ、心ニ嘉樂ヲ覺エ、又邪ナル行爲ヲ觀テ、心ニ痛苦ヲ覺ユルカ如キ、其嘉樂ト痛苦ト、此心ニ感スルハ、之ヲ他ノ事ニ因リテ、感スル所ノ嘉樂ト痛苦トニ、異ナリトセムヤ、是唯、此感動ヲ喚起スル目的ノ異ナル耳、是皆其本體ニ就キテハ、同一類ニシテ、其差異アルハ、類ノ同シカラサルニ非ス、種ノ異ナル耳、故ニ、上ノ二者ノ若キハ、喜悅ト憂愁ト、同一類ノ元ヨリ、物ニ因リテ、變化ノ加ハリタルニシテ、其相異ナルモ、情ノ欲ヨリ異ナリ、又愛惡ノ情款ヨリ異ナル如ク、差異アルニ非ルナリ。

學士丕羅昂ノ彙類法ハ、彝倫學ニ涉レルニ非レ、均シク、性理學ニ涉レ

丕羅昂ノ

區別ヲ駁ス

ルニモ非ス、諸種ノ情ノ時ト相關スルハ、偶然ノ事ニ出テ、本體ヨリシテ、差アルニ非ス、且ソレ、其直接ノ情ト名ツクル者ト、少シモ時ノ意思ヲ含ムコトヲ、要セスシテ、生スル者トノ若キ、感性ノ部分ヲ擴メテ、全ク之ニ、配當スヘキ差異ニモ、非レハ、是虛粧タルニ、過キサルナリ。

第一部 單純ナル情緒ヲ論ス

第一篇 本能上ノ情緒ヲ論ス

感性ニ就キテ、做シタル分解ニ、之ヲ三大別ノ種類、即情緒、情款、欲ニ、排列シタルハ、讀者正ニ記得スヘキ所ナリ、而シテ、此三者、相通シテ、有スル所ノ性ハ、是皆、之ヲ提醒スル目的ヲ視テ、善トシ、惡トスルニ準シテ、此心ノ狀、自愉快ト、不快トヲ、覺ユルコトナリ。

三者ノ中ニテ、第一ニ、論スヘキ單純ナル情緒ハ、感動ノ一大部ヲ、包括セラル名ニテ、其中ニ、諸種ノ變態ト、度ノ強弱トアリト雖、約マル處、人生ノ

端緒ノ分解ヲ論ス

單純ナル情緒ノ性ヲ論ス

情緒ノ區別ヲ論ス

喜悅ト憂愁トヲ成ス者ナリ故ニ諸種ノ單純ナル情緒ハ其意義ヲ稍廣ク取ル時ハ喜悅ト憂愁トノ二概名中ニ包括スヘクシテ皆此總概セル一元ノ變態即人間ノ行事間ニ一元ノ盈虚消長スル者ノミ是皆一事一物ヲ善視シ惡視スル時ニ興發スル者ニテ且其事物ハ現在ニ之ヲ有シ現在ニ之ヲ享ケ或ハ現在ニ之ニ苦ム上ニアリ此ノ如ク現在ニ在ルヲ以テ欲ヨリハ異ナリトス欲ハ恒ニ一ノ善視シテ未ダ有スルヲ得サル物ノ上ニ在リ又現在ニ有セスニ之ニ達スルヲ得ヘシトシテ視タル伴象ニテ善視スル物ニ在ルナリ

此單純ナル情緒ノ中ニテ其一部ハ更ニ又本能上ト名ツケ得ヘシ是肉體ノ性ニ屬スル者ニテ殆ト大概ハ人獸共ニ之ヲ通シカノ理性ヲ含有シ若クハ理性ヲ以テ預之カ地ヲ爲シ且省察力ヲ兼テタル他ノ一層高キ部類ヨリ之ヲ差別スルナリ

故ニ此篇ニテ論スル所ハ此情緒中ノ第一種タリ

第一章 愉快并ニ其反對タル悵鬱ト名クル心意上ノ一般ノ形狀

此感動ノ性ヲ論ス

人皆時々己カ意識ニ供スル心ノ一形狀アリ是何ニテモ直ニ之ヲ喚起スル源由アルニ非レトモ精神概シテ活潑愉快ニシテ一定ノ限際アリテ個別ノ情ト稱スルニハ至ラサレトモ心裏隱々爽快ノ流通アリテ此靈魂ニ滿チ總ヘテ其諸溝洫ヲ通シテ流動スルカ如ク見ユルコトアリ是此所ニ就キテハ直ニ喜悅ト謂フ可ラスシテ喜悅ニ供スルノ質ナリ譬ヘバ之ヲ指シテ天ニ中スル太陽ノ見ルヘキカ如シトスルニ非スシテカノ蒼穹ニ洋溢セル光輝ノ和煦ニシテ上下ニ普徹シ其清明ナル活氣美氣ノ中ニ萬物ノ浴スルノ如キナリトスヘシ之ヲ永久歡喜ノ一種ト謂ヘルハ能ク名狀シタル者ナリ

此情生涯
各自ノ時
限ニ在テ
旺スルヲ
論ス

天稟ノ幸福ナル人アリ、此等ノ人ニハ、此情常ニ旺スルコト、見エ、何事
ニテモ、爽快歡喜ノ色アリ、又一ニハ、是ト全ク相反スル人アリ、凡ヘテ夙
歲ニ在リテハ、人皆其精神ノ喜悅ヲ常トシ、他時ヨリモ、一層旺スル者ナ
レト、晩暮ニ至ルニ從ヒ、此ノ如キヲ見ルハ、一層稀ナリ、是齡長クシテ、以
テ血液ヲ寒冷ナラシムルニ由ルモ、或ハ、人世ノ行路難ニ因リテ、此胸懷
ヲ屈シ、夙歲鵬飛鷹揚ノ志ヲ、矯メタルニ由ルモ、歲月既ニ逝クニ方リテ
ハ、吾人尋常此ノ如キ心腸ノ、恩波ヲ被ムルコト、少シトス、此時ニ方リテ
ハ、既ニ己ニ心ニ旺スル體格此愉快ニ非ス、此事ヲ、或人能巧ニ形容セル
語アリ、曰ク、吾徒ハ、幸福ハ、何カ故ニ、幸福ナルト云フコトヲ、知ルニ非レ
ハ、幸福ニ非ルナリ、吾徒、今猶歡喜ヲ受ルコトヲ得、且大ナル歡喜ニシテ、
我カ少時、思慮ナクシテ、歡欣シタリシヨリモ、一層大ナル歡喜ヲ享ルコ
トヲ得ルモ、吾徒ノ歡喜ハ、諸切要事件ノ、相通シテ、協同セル一源ヨリ來

相反セル
感動ヲ論
ス

ラサレハ、之ヲ歡喜トセサルヲ、如何セムヤ、然リト雖、老耄ノ極期ニ至
ルマテ、猶時々、此殆ト本能ニ屬シタル幸福ハ、稍閃光ヲ發シテ、猶他年ニ、
見ルカ如キコトアリ、其不意ニ發出スル、燦爛タル光輝ハ、時トシテ、冬夜
陰雲裏ニ、發スルコトアリト雖、吾徒之ヲ發スル景況ハ、絶エテ知ルコ
ト能ハサルナリト
上ニ舉ケタル心ノ此狀ト、相通シテ、全ク相反セル品性ノ一アリ、是常ニ、
悲惨ニ屬セル心腸ニテ、尋常鬱悒ト名クル者ナリ、其反對タル爽快ノ如
ク、是亦一定體ノ情タルヨリモ、寧、心ノ體格ノ如ク、何ニテモ、吾人之ニ歸
スヘキ、較著一定ノ源由ナクシテ、存スルコト屢ナリ、隱然タル憂患アリ、
若クハ、酷シキ苦楚ニ壓セラル、事、忽經過シタリト雖、心ニ猶冷淡肅
殺ノ光景存シ、カノ日蝕ノ數分、若クハ、皆既ノ時ノ如キ形狀ヲ、此ノ如ク
名狀スルナリ、人多ク其心ノ狀常ニ此ノ如クニシテ、時ヲ歴或ハ、生涯ノ

大半ニモ、渉ルコトアリ、非常ナル才智アリテ、感性殊ニ穎敏ナル人モ、此ノ如ク、精神常ニ沈歴ノ極ヲ受ケテ、光明ナル目的上ニ、暗黒ノ影ヲ覆ヒ、其生ヲ以テ、重任トスルニ、至ルコト、稀ナル事ニ非ス、其尋常、暗淡失意ノ如キ狀ハ、常ニ疾病ノ症ニ屬シ、體中一部ノ錯亂ヨリ、生スル者トシ、時トシテハ、延キテ、此心ノ一定永久ノ錯亂ニ、至ラシムルコトアリテ、狂癪ノ尤憐ムヘキ症ニ至リ、快復ノ望ナキニ、至ル者アリ、此ノ如キコト、鬱悒ナル人ニアリト雖、然レモ、多クハ、柔和ニシテ、愛スヘキ侯哀ノ若キ人ニ、在リトス、侯哀ハ英吉利ノ詩人、怯退ヲ以テ名アル者

玆ニ、余カ記述スル心ノ形狀、其一層和平ナル者ニ於テハ、所謂詩才ト名クル者ノ、元行トナルコト、稀ナル事ニ非ス、是即、人生ノ艱險攻撃ノ際ニ、遭遇シ、悲惨ナル經驗ヨリ生シ、又苦楚愛患ノ世界ヲ憐ミ、仁愛同憐ノ大、悲心ヨリ、生スル鬱悒ニシテ、カノ風琴ノ悲悽ノ聲ノ如ク、其風調ノ音樂

詩家ノ感性ノ元行ヲ論ス

ニ、幽邃閑雅ノ趣ヲ寓スルナリ、此ノ如キ者ハ、天尼孫ノ風調ニ多ク、又美爾頓ノ詩篇中、深愛アル如キ者、此類多ク、又殊ニハ、約翰科斯多ノ精神音調モ、此類ニシテ、科氏ハ、本來散文家ナリト雖、詩才中ニ就キテ、眞實高貴ノ種類中ノ一人ト、推スニ足レリ、凡ヘテ活潑敏捷ナル感性ハ、自然眞才ト伴生シテ、離ル可ラサル者ナルニ、又能此和平ナル鬱悒ト、相伴フコト屢ナリ、カノ眞ニ大ナル靈魂ハ、自天地ト相通シ、永遠ノ眞理ト、相通スル者ニシテ、亦此深沈ナレモ、和煦ナル悲悽ノ情アルハ、怪ムニ足ラス、是美爾頓カ、イル、パンセロソニ於テ、妙句ヲ吐ケル所ニシテ、之ヲ左ノ如クニ喚起セリ

- | | | | |
|---|--|---|---|
| 穆 <small>ム</small> 彼 <small>カ</small> 天 <small>テン</small> 女 <small>ニョ</small> | 維 <small>ヰ</small> 聖 <small>セイ</small> 維 <small>ヰ</small> 神 <small>シン</small> | 如 <small>カ</small> 愁 <small>シュ</small> 如 <small>カ</small> 愛 <small>アイ</small> | 攣 <small>ヰ</small> 陶 <small>トウ</small> 厥 <small>ケツ</small> 顏 <small>ゲン</small> |
| 深 <small>シ</small> 思 <small>シ</small> 沈 <small>シ</small> 默 <small>モク</small> | 敬 <small>ケイ</small> 虔 <small>ケン</small> 貞 <small>テイ</small> 純 <small>ジュン</small> | 淡 <small>タン</small> 定 <small>テイ</small> 靡 <small>メイ</small> 亂 <small>ラン</small> | 端 <small>タン</small> 嚴 <small>エン</small> 靡 <small>メイ</small> 倫 <small>リン</small> |
| 深 <small>シ</small> 紫 <small>シ</small> 厥 <small>ケツ</small> 衣 <small>イ</small> | 拈 <small>ニッ</small> 後 <small>ゴ</small> 如 <small>カ</small> 雲 <small>ウン</small> | 斯 <small>シ</small> 伯 <small>ハク</small> 魯 <small>ロ</small> 苧 <small>ソ</small> | 織 <small>シ</small> 爰 <small>エン</small> 製 <small>セイ</small> 巾 <small>キン</small> |

容分繞頷 トシテ 悻兮垂肩 トシテ 嗟爾態姿 トシテ 慣習洵安 トシテ
 步趨齊一 トシテ 儀容淵一 トシテ 仰天而立 トシテ 欲有所言 トシテ
 眼睛入定 トシテ 維是爾魂 トシテ

諧謔ト並立ス可ラサル者ニ非ルヲ論ス
 余カ舉ケタル性質ハ、之ト直ニ其性ノ相反シタル感動ノ時々旺スルコトアリ、或ハ、屢旺スルコトアレハ、之ト並立ス可ラサル者ニハ非ス、是宜シク、知ルヘキ事ナリ、悲悽ニ偏シタル情、笑謔ニ偏シタル情ノ、殆ト同一ニ旺スル者ト、相伴フコトアルハ、稀ナル事ニハ非ス、其感性、活潑ニシテ、何事ニ依ラス、人生悲悽冷肅ノ感慨ヲ、生セシムルニ、足ル者ヲ、痛ク此靈魂ニ、感セシムル性質ハ、又兼テ、世間品性ノ、稍當然ヨリ奇ナル事、微瑕アル事、痴呆ニ屬スル事ヲ、疾ク發見スル性質アリ、此等ニ就テ、カノ鈍根ハ、一モ諧謔戲笑ノ種ヲ、見出シ得サルナリ、且ソレ、此心ノ、自然ノ偏尙ハ、猶張ラサル弓ノ如ク、感動ノ一端末ヨリ、相反セル一端末ニ、反張シテ、悲悽

鬱悒ヨリ異ナルヲ論ス

ヨリ、輕謔ニ轉シテ、滅痛ノ道ヲ求ムル者ナリ、是ヲ以テ、カノ悲愛ノ深キ侯哀ニ於テ、吾人約翰師拉邊ジョンラビエン人名ニシテ、ヲ謠フヲ聞キ、靜夜思ノ作者ハ、快活ナル談夫ト、語ルヲ見ルナリ

第二章 朋友ノ死ニ於ケル憂悶

上ニ述ヘタル心ノ概狀ハ、之ヲ種別ノ情ト、名ケ難キ者タレハ、此外ニ、喜悅ト憂愁トノ、一種別格ノ形狀アリテ、吾徒ノ注意ヲ、要スルナリ、此中ノ尤ナル者ハ、何ニテモ、不意ニ、大ナル失亡、若クハ、災害ヲ受ケタル時、感スル憂悶ニシテ、譬ヘハ、朋友ノ死ノ如シ、是實ニ、余カ述ヘタル鬱悒ト、密接シタル心狀ナレハ、是ト異ナルハ、此情ニハ、一層較著ニテ、直接ナル源由存シ、且一層定著、一層強烈ナルナリ、其心、一時激動ヲ受ケ、猶不意ニ、毆撃ヲ受ケタル如ク、此心力、全ク挫折スルカ、如ク、見ユレハ、一時ヲ經過スレハ、其激動強壓モ、稍緩ナルニ至リ、初頭慘怛ノ苦楚モ、消盡スレハ、又他ノ

源由ノ運行始マリ我カ注意ヲ要スル者モ他ノ場地他ノ事物ニ移ルナ
リ此ノ如クナレハ最初ニ強壓破ル可ラサルノ憂悶モ漸次ニ此稍安慰
ニテ一層永久ノ形狀ニ變ス此形狀正ニ是余カ前ニ述ヘタル鬱悒ト云
フ者ナリ

或苦楚ニ
因テ初頭
ニ受ケタ
ル激動心
上ニ起ス
憂悶ノ救
力ヲ論ス

其失亡過大ナル者ニ係リ殊ニ又突然發出スル時ハ(然ルニ如何ニ甚シ
キ亡失ニテモ久シク其兆ヲ知リテ預メ恐ルコトアレハ最後ニ不意
ニ是カ爲ニ捕捉セラルコトナシ)此心初頭ハ迷惑驚愕ノ狀ニ陥リ之
ヲ償フノ道ナケレハ此痛苦ヲ免ルノ望ヲ失フニ至ル是ニ次キ心上
ニ慘怛ノ形狀發シ其感性ノ活潑ナル度ト又從來愛眷ノ強弱トニ準シ
多少激烈ナル者ナリ多般此ノ如キ憂悶ハ自ラ管束ス可ラスシテ其救
解ヲ哭泣若クハ他ノ是ヨリ一層激烈ナル慘怛ノ表徵ニ取ルナリ其表
徵歴世ヲ通シ人ノ困艱ニ遭ヒ其憂苦ヲ徵スル爲ニ慣習トナリタル者

誤解也

之ニ次ケ
ル心ノ狀
ヲ論ス

ハ衣服ノ皸裂心胸ノ拊擗毛髮ノ抓扯等ニテ此他猶失望極リタル憂悶
ノ徵候アルヘシ此ノ如キ時ニ當テハ此心ノ狀自ラ受動トナリ情ノ激
烈ニ付シ蕩然タル奔流ニ一掃セラレ其兩岸ヲモ嚙ミ去ラルニ至ル
ナリ是乃羅西埃拉カ佛朗西有其兒ノ爲ニ號泣シテ號泣シテ慰諭ヲ受ケサル所
是乃太關カ戸ヲ啓キテ室ニ入り吾カ子ノ押沙龍押沙龍ト叫ヘル所ナ
リ押沙龍ノ事舊約書ニ見ユ
其初頭ノ激烈ナル憂悶既ニ降服シテ情欲ヲ反省スルニ及ビテハ此心
其失亡ノ景況ヲ追思セムトシ始メテ其遭遇シタル苦難ノ大ナルト妄
ナラサルトヲ曉ルニ至ル是ニ於テヤ此心ニ思惟スル所其亡人ノ貴重
ト德行トニ就キテ其切要タリシト浹洽ナリシトニ在リテ總ヘテ其善
ナリシコトヲ表シ總ヘテ其過ナリシコトヲ容恕寬假シ其言語ヲ思ヒ
其聲音ヲ思ヒ其顔色容貌ヲ思ヒ其從前ノ履歴ニ於テ細行末節ヲモ拾

深愛ノ沈
黙ナルヲ
論ス

集シ、恭敬尊崇シテ、以テ其屍灰ヲ取テ、葬壺ニ藏ムルニ至ル、蓋シ神使一日、其神靈ヲ以テ、之ニ印スルニ及ヒテハ、其性質生平ニ被ラシムルニ、カノ神明崇敬ヲ以テスルコト、情ノ至リナリ。至深ノ憂慮ニ至リテハ、必至激至顯ナル者ニ非ルハ、蓋シ其常ナリ、是常ニ、其初頭不意ニ起レル憂悶ノ情、既ニ經過シテ、靈魂自退縮シ、其失亡ヲ思量スレバ、他人ノ視察ヲ憚カリ、其涙痕ヲ收メ、其忡々タル隱憂ヲ、掩ハムトシテ、靜ニ其衣袖ヲ纏ヘス時ニ在リテ、此時方ニ、所謂深愛大恨ノ、苦辛ナル精神ヲ、圍繞スルアルナリ、故ニ、至實至深ノ憂ハ、恒ニ沈黙中ニ存シ、他人ノ視察ニ畏縮シ、之ヲ言ハムト欲スレトモ、語ナク、凡ヘテ願フ所ナシ、猶カノ肅默タル神女ノ、蒙衣シテ、其神卓享儀モ、晝日ノ光ヲ厭フカ如シ、蓋シ、自露發表告ヲ主トスルハ、喜悅ノ象ニシテ、憂愁ノ性ニ至リテハ、其由テ生スル所ノ時ノ、如何ニ拘ハラス、退隱スルヲ主トスルカ故ニ、哭泣

憂ヲ解ク
ニ時間ノ
效驗アル
ヲ論ス

スル者ハ、其室ヲ求ルナリ。時ヲ經ルニ從ヒテ、憂悶ノ激烈ヲ、輕減消解スルハ、人皆知ル所ナレバ、此效驗ノ、由リテ生スル様法ハ、注意ヲ用井ルニ足レリ、之ヲ解釋スルハ、提起ノ理法ヲ、復考スルニ在リ、吾人意思ノ提起ヲ、律スル理法ノ中、第二、即主觀ノ理法ニ、事件ノ發起ヨリシテ、經過シタル時ノ、間濶ハ、切要ナル者ナリト云フハ、吾徒固リ記スヘキ所ナリ、總ヘテ近日ニ起リタル事ハ、遠キ時月ノ事件ヨリモ、一層容易ニ、此心ニ復歸スルヲ、法トス、故ニ、何事ニ依ラス、其患難亡失、起リタル初頭ニ於テハ、事毎ニ、我カ亡失ヲ、追想セシムルニ偏シ、陸續トシテ、之ヲ提起スルヲ以テ、其勢力能効ニ因テ、恒ニ我カ憂悶ヲ、活潑ナラシムル者ナレバ、時ノ經過ニ從ヒテ、一物體アリテ、因テ以テ、我カ亡失シタル者ヲ、提起スルトハ、雖モ、其物體ハ、又他ノ物體、他ノ事件ト、相伴ヒ來リテ、之ヲ提起スル者ナリ、故ニ、是等猶我ヲシテ、カノ亡

失ヲ追懷セシムルトモ、其追懷中ニハ、其時以來、時日ノ推移シタルニ從
 ヒ、他ノ場地、他ノ事件ト混合シ、又其時以來、我カ心ヲ衝動シタル他ノ感
 動ト錯雜ス、是ヲ以テ、時月ノ經過スルニ準シテ、陸續トシテ、我カ愛悶ノ
 梳中ニ、他ノ藥劑ヲ混和スルカ如シ、然ルニ、至近ナル者ハ、速カニ復歸ス
 ルノ理法ノ存スルアリテ、提起ヲ促カスカ故ニ、以前陸續トシテ、我カ亡
 失ヲ追想セシメタル、其同一理ヲ以テ、其亡失ト、我トノ中間ニ、其時以來、
 經歷シタル事物ヲ、挾雜シテ、竟ニ亡失ノ情ヲハ、之ヲ推逐スルニ、至ルナ
 リ、此ノ如クニシテ、過去ノ意思ハ、來ルコト、漸ク稀疎ニナリ、縱ヒ復歸ス
 トモ、他ノ多般ノ伴ヒ來ル物體ト、相混合スルカ故ニ、竟ニ甚シキ
 愛悶ノ情ヲ起サ、ルニ至ル、而テ漸次ニ、他物ノ我ニ切要ナルヲ視、他ノ
 謀慮ト、他ノ本分ト、我ヲ縻羈シ、他ノ情緒、我カ心腸ヲ動カシ、猶カノ陸續
 繼來スル波濤ノ、同一岸上ヲ打ツカ如ク、其回歸毎ニ、前時洪浪ノ印シタ

何如ナル
 様法ニ因
 テ同感ヲ
 發ルカヲ

ル痕跡ヲ、淡薄漫然タルニ、至ラシムルナリ
 故ニ、時ハ、大イナル。慰解者ニシテ、吾人、心中ニ懸ル愛悶ヲ解キ、凡テ我カ
 意思志望ヲ、收埋シタル胸裏ノ鬱結、久クシテ、克服セラレタル悲愁トナ
 リ、和氣軟聲、以テ昔事ヲ追思スルナリ、蓋シ吾人ハ、常ニ事件ノ急流中ニ、
 陸續トシテ、迅速ニ進動スル者ナリ、是ヲ以テ、凡ソ事物、一時ハ、其至近ナ
 ルヨリ、吾カ行、其深陰裏ニ陥リ、其巨大ニ畏レテ、我カ心、全ク之カ爲ニ、吞
 併セラルト雖、其遠カルニ從ヒ、漸クニ滅シ、漸クニ小ニシテ、竟ニ其暗
 淡ナル形圍ヲ、僅ニ、迢々タル水平線ノ外ニ、見ルニ至ルナリ

第三章 他人ノ幸福愛患ニ就テ、生スル同感

吾人、自己ニ親シク、善惡ニ經歷シテ、喜悅愛愁ノ情、自發生スルト、密ニ相
 類似シテ、同一ノ境遇ニ於テ、他人ノ喜憂ヲ、己ニ感スルコトアリ、之ヲ同
 感ト謂フ、喜悅ハ、傳染スル性アリテ、愛悶モ、亦此ノ如シ、吾人、他人ノ情ヲ、

觀ルコト能ハス、只之アルハ、稍相通スル情ヲ、親驗スルニ在リ、然ルニ又、其福祉若クハ、憂患ヲ、目撃シタル證人ニ非レハ、不可ナリト、謂フ可ラス、何事ニテモ、其幸福若クハ、禍患ノ形狀ヲ、稍叙述スレハ、此心ヲ攪動シテ、同感ノ情絃ニ觸ル、ヲ覺ユ、是吾人自ラ、其景況ヲ思想シ、自己ヲ觀劇者ト想像シ、若クハ、儘アリ得ル事ノ如ク、或ハ、行客ト思ヒ、難主ト想ヒ、此ノ如キ時ニ臨ミテハ、自己ノ情、如何ト想像スルヲ以テ、我カ知覺ノ勢力、活潑ナルト、又我カ感動ノ勢力、敏捷ナルトニ準シテ、我ノ同感、其真ノ景況、真難主ト相通スルナリ

此理ノ性質ヲ論ス

此ノ如ク、醒覺シ來レハ、同感ハ、他人ノ喜悅ト憂愁トニ關スルニ論ナク、凡テ單純ナル情緒ニテ、其性質、情款ト指ス者、又欲ト名クル者ト、異ニシテ、且理性ニ源ヲ取ルヨリモ、本能ニ本ツグ者ナリ、故ニ、是吾人ノ性ニ、賦與セラレタル一元ニテ、機會ニ遇フ毎ニ、本能ニ於ケル如ク、勃興發露ス

ル衝動ノ事タリ、是ヲ以テ、理性上ノ省察ノ事ニハ、非ルニ近シ、是吾人、禽獸ト相通シテ、有スル所ノ受性ニシテ、禽獸ニハ、少シト雖、稍之アルコト、明カニシテ、其同類ノ困難幸福ニ、絶テ感シナキ者ニハ、非ルナリ、是早ク既ニ、幼稚ノ時ニ、發スル受性ニシテ、未タ省察ノ習ニ、染マサル前ニ在リ、且其發スル境遇モ、固有天賦ニハ、非スシテ、教育ノ效タリ、或ハ、様法アリテ、之ヲ學ヒタリト、假定スルニ、由シ無キナリ、之ヲ以テ、省察ノ效驗トナスヨリモ、理性ト省察トハ、却テ、此情ヲ克シテ、之ヲ合當ノ限界ニ、縛住スヘキコト、屢、之レアリ、是ヲ以テ、譬ヘハ、他人ノ艱厄ニ就キテ、我ノ同感アルハ、我カ必用當行ノ妨碍タル時アリ、又是カ爲ニ、我カ本分ヲ、嚴正斷確ニ、執行セムトスルニハ、吾人性中、此本能ノ元ト、相争フニ至ルヲ以テ、理性上諸般ノ根據ヲ、呼ヒ集メテ、以テ我カ幫助ト、ナサ、ルヲ得サル時アリ、蓋シ、其婦女兒子ノ、過惡ニ陷リシ時、其號泣ヲ聽キ、血涙ヲ視ルニ、當テ

ハ、此不幸ナル罪犯ニ對シテ、犯法ノ嚴正ナル罰文ヲ讀マムトシテ、此心ノ判官、全然躊躇セサルコト、能ハサルナリ、カノ懇篤ナル外科醫ノ如キ、一時患者ノ號呼ニ、聾タラザルヲ得ス、其苦痛ニ、木石タラサルヲ得ス、以テ其手術ノ功ヲ奏スルニ至ルナリ

此語ノ尋常ノ界限ヲ論ス

同感ト云フ語ハ、他人ノ喜悅ニ、我ノ加入スルヨリモ、其困難ニ依テ、提醒セラレタル情ヲ、徴スル爲ニ、用非ルコト、一層屢ナリ、然レ、吾人ノ性ハ、此二ツノ效驗ノ中、何レヘモ、向フヘキハ、疑ヲ容レス、故ニ、其實、同一理ヲ、表裏ヨリ觀タル者、ナルニ過キス、且此語ノ本義、此二ツノ觀ニ就テ、其一ヨリ他ノ一ニ、一層強ク屬シ、一層正シク表スト云フハ、本來ニ非ス、吾人他人ノ悅フヲ視テ、悅フノ容易ナル、猶他人ノ泣クヲ視テ、泣クカ如シ、何レニシテモ、我ノ感動ハ、同感タリ(希臘語ノシンパテオス)、何カ故ニ、他人ノ憂悶ニ、加入スルヲ、徴スルコトハ、一層數ナリヤ、其道理

其界限ノ

理由

ハ、少シク省察スレハ、明カナルコトニテ、蓋シ、天ノ斯民ヲ生スル、其幸福ハ、生體一般ノ理法ニシテ、憂悶ハ、此一般例規ノ例外タリ、是此施設ノ以テ仁慈ナル所ナリ、故ニ幸福ハ、凡ヘテ呼吸スル萬類ノ上ニ、廣布饜飫スヘキ者ニテ、太陽ノ光、大氣ノ浸涉ラサル處ナキカ如ク、加旃、生活ナキ物ト雖レ、我カ快愉ナル、同感ノ類ナルヲ以テ、此心ニ、反射シタル所ニテハ、一般喜悅ヲ、共享スルコト、見ユタリ、カノ艱難憂患ノ若キハ、僅々ナリトモ、其形狀ニ、一層限局一定ノ所アリテ、猶天ニ暴風大颶ノ起ルカ如ク、喜悅ニ比スレハ、一層稀ニ來ル者ナリ、故ニ、其起ルヤ、特ニ稀ナル事ニ屬スルヲ以テ、一層非常ニシテ、人生生平ノ經歷ヨリ、一層攪動スルヲ、覺ユルナリ

憂患ト同感アルノ一層切要

蓋、他人憂患アル時ハ、之ニ就キテ、同感ヲ生スルノ機會ハ、其歡喜ニ就キテヨリモ、一層多ク、且深キコト、疑ナシ、是又、此語ヲ、憂患トノ連絡ニ於テ、

用非ルコトノ、一層屢ナル所以ノ一ナリ、憂患ニハ、同感アルヲ、頌要トシ、
 歡喜ニハ、頌要タリト、謂フニ至ラス、蓋、憂患ハ、其幫助ヲ、友手助臂ニ、依頼
 セサルヲ得ス、而テ、歡喜ハ、其性タルヤ、全ク憂患ト相反シテ、自己固ヨリ
 強堅ニシテ、自ラ支保スルニ足ルヲヤ、是即、此寰宇ノ創造者ノ、睿聖仁愛ナ
 ル天祐ニシテ、依テ以テ、吾人ノ性中ニ、此本能上ノ同感ヲ賦與シ、以テ凡
 百形狀ノ憂患艱難ト、相發シ、加旃、吾人直ニ、其困厄ノ落タル物ト、相接セ
 サルモ、亦然ルナリ

是ニ就テ、學士不羅昂ノ表章セルコト、亦善シトス、曰ク、吾人他人ノ快樂
 ニ就キテハ、真ニ同感ヲ生ス、然レ、稍少ナシト見ユルハ、何ソヤ、蓋、其真ノ
 同感ハ、生平、常ニ有スル、快活ノ氣象中ニ、消失スルナリ、是快活ノ氣象ヲ
 有スルハ、善俗ノ一ナレハナリ、故ニ、試ミニ、若高雅ノ道ニ於テハ、社會ノ
 風トシテ、悲哀ノ形容ヲ、取ルコトヲ欲シ、猶今日、少シニテモ、快暢ノ形容

ヲ要シ、少クモ、性質耳、ハ、快暢ヲ、要スルカ如ナラシムカ、此ノ如クナラ
 ハ、爽快ノ同感ハ、少シニテモ、顯ルヘキコト、必然ニシテ、猶今日、憂患ニ就
 キテノ同感ハ、格別ニ、之ヲ覺ユルカ如クナルヘシ、此ノ如クナラハ、喜悅
 ヲ表スル爲ニ、同感ト云フ概名ヲ以テシテ、其非常ナルヲ示スコト、猶今
 日、相憐ムノ感動ヲ、表スルニ、格別ニ、此語ヲ用ヰルト、同一義タルヘキコ
 ト、知ルヘシト、同シ著家ノ說ニ、曰ク、歡喜ハ、視テ、社會ノ常服トナスヘシ、
 故ニ、真ノ喜悅ハ、カノ客廳ニ於テハ、當然合格ノ衣服タルヲ以テ、較著ナ
 ルコト少シ、今襤褸ノ單衣ヲ衣テ、盛宴華席ノ客次ニ、列セムカ、衆目、誰カ
 之ヲ視サル者アラム、若其人ヲシテ、美好ナラシムルモ、驚愕耳語ノ經過
 スルニ至ルマテ、一次、目ヲ舉テ視ル者ナク、言ヲ吐クトモ、亦聽ク者ナカ
 ラシム、カノ憂悶ノ社會心腸ノ、平服ニ於ケルハ、猶此ノ如シ、故ニ、憂悶ノ、
 其真ノ形容ニ於テハ、吾人、未タ曾テ、預メ、之カ備ヲ、爲サル者タリト

吾人唯愛
患ト同感
アリト云
フノ、非ナ
ルヲ論ス

此語ノ差
別ヲ論ス

此上ニ舉ケタル諸説ニ由リテ、道學諸家ノ吾人ノ同感性ニ就キテ、殆ト
專ラ、愛患ノ部分ニノミ、其意ヲ注セシ道理ヲ、解クニ足リ、并ニ又、他人ノ
歡喜ヨリモ、其憂悶ヲ分感スルコトヲ、徴スルニ、此語ヲ、殆ト専用スルニ
至リタル道理ヲモ、辨スルニ足レリ、故ニ、或人ノ爲セル如ク、此景況ヨリ
シテ、吾人ノ同感ハ、唯愛患ト共ニスト、云ヒ、又吾人、他人ノ幸福ニ於テハ、
之ト相通スル情ヲ、體驗セスト云ヒ、以テ他ノ見解ヲ、引證スルハ、要ナキ
事ナリ、是、吾人ノ性ニ、合セスシテ、真理ヨリ、遠サカレル見解ト、謂フヘシ
同感ト云フ語ハ、平常用非ル所ニテハ、他人ノ困難ト、徒タルコトヲ、徴シ
テ、猶一種ノ相憐ト云フ語ト、同義ナリトシ、又此相憐ハ、更ニ、悲憐、及、慍恤
ト云ラ二語ト、交互ニ用非ルヘントス、然ルニ、慣習ニテ、此諸語ノ異同ヲ、
辨定シタル所ニテハ、左ノ如クナルヘシ、吾人其艱厄ヲ救フノ、圖器材能
アル時ハ、慍恤ノ語ヲ用非ルコト、一層屢ニテ、其事之ヲ救解セムトスト

此感動ノ
強弱ヲ論
ス

モ、我カ力ニ能ハサル者ニハ、悲憐相憐ノ語ヲ用非ルナリ
同感ノ情、殊ニ、論題ニテ、一層特別ニ叙述シタル形狀ハ、吾人ノ受ル感動
中ニテモ、此心ヲ攪動スルコト、至烈至大中ノ一ニシテ、十分ニ發シタル時
ハ、情欲ニモ變スルナリ、依リテ以テ、此情ヲ發スル物體、燃眉ノ急ニ際シ、
其危急ヲ轉シテ、之カ救解ヲナスニ、若全ク之ヲ爲スニハ、迅速ヲ要シ、瞬
間ニ實力ヲ盡ササルヲ、得サルノ時ニ臨ミテハ、其後事ヲ算定スル先慮
ナク、思量ノ暇ナク、躊躇スルコトナク、恐懼スルコトナクシテ、其危害ノ、
何タルニ論ナク、同感者、自己ヲ忘レ、只管ニ其目的ヲ、遂ケムト欲シ、大海
ヲモ、大火ヲモ踏ミ、或ハ猛獸ニモ當リ、又、一層暴酷ナル敵人ヲモ拒キ、刺
客ノ臂ヲモ握リ、劍戟ト被害人トノ中間ニモ冒進シテ、生ヲ惜マサルニ
至ル、此ノ如キ勇猛激烈ナル作用ハ、實ニ同感ノ致ス所ニシテ、却テ其情
自己ヨリモ甚シケレハ、此作用ヲ發スル感動ノ、極メテ強キヲ、知ルヘシ

德義ノ品性ニ拘ハラサルヲ論ス

此理ノ圖略ヲ論ス

時情ニ投合スルヲ論ス

同感ハ其

且又表章スルニ足レルハ、上ニ擧ケタル情ノ發スルハ、大率其受難者ノ德義ノ品性ニ拘ハルコトニ非スト、云フコトナリ、受難者ハ、縦ヒ、人々得テ、無情ニ之ヲ棄置スヘキ人ニシテ、既ニ、刑格頸架ニ登レル罪人タリトモ、又其人ノ受ル苦難ハ、其罪ニ對シ、至當ノ刑罰ナリトモ、其心總ヘテノ艱苦ニ於テ、情無キコト能ハサルノ人ハ、此不幸ナル罪人ヲ視テ、愍恤ノ情ヲ發セサルヲ得ムヤ、此ノ如キ時ニ當リテハ、其苦難ヲ受ル者、縦ヒ、其尤モ惡ム所ノ仇敵タリ、悲憐ノ心ナク、其慘狀ヲ目視シ得ル者ハ、豈亦無情甚シキナラスヤ

吾徒、今、此感動ハ、何ノ爲ニ、吾人ノ性中ニ賦與セラレタリヤト、講究スレハ、其最後ノ目的ハ、著明ニシテ、尤モ恩惠ナル施設タリ、是其圖略ハ、二様ニシテ、第一ニハ、是ニ依テ、旺發セル情欲ヲ、克制シテ、以テ不相當ナル苦難ヲ、人ニ被ラシムルヲ、防クコトナリ、若此情微カリセハ、我カ惡ム所ノ

者、我カ權内ニ在テ、之ヲ左右スルヲ得ル時、我ヲ促カシテ、合當ナラサル不正ノ罰ヲ、被ラシムルコトニ、至ルヘシ、第二ニハ、受難者ニ、救ヲ假スコトナリ、今若、此情ノ衝動刺激、其強、其急、彼カ如キニ非レハ、受難者、危急ノ中ニ在ル時、之カ救護ヲ假スヲ、懈ルニ至ルヘシ

他人ノ喜憂ヲ、活潑ニ感受スルノ性ヨリ、發スル利用ハ、上ニ云ヘル外ニ、尙偶然ノコトアリ、是、哥顏ノ其情欲論中ニ、表章セル所ニテ、以謂ヘラク、此情ハ、能此心ヲシテ、相交ハル人ノ、趣味、風習、性質ニ應シ、容易ニ投合セシムルニ、適スル者ナリ、凡テ同感ノ情、敏疾快便ナル者ハ、容易ニ、感動中ニ移轉シテ、一定ノ景況中ニ於テ、他人ノ行爲ヲ、能曉解シ、之ニ準シテ、能自ラ投合スルコト、極メテ容易ニシテ、本能ニ類セリ、故ニ、同感ハ、自己ヲ他人ト、一時ニ、同一位置ニ置キ、從ヒテ、能自ラ管束スル者ナリト

同感ハ、諸感性中ニテ、私欲ノ諸種混合セル者ヨリ、發スト、雖、其轉遷、極

根元ヲ推
シテ自愛
ノ理ニ歸
ス可ラサ
ルヲ論ス

五十四
メテ遠キ所ニ在リト見ユト云フ説アレト究竟遂ニ、自私ノ理ニ、討窮シ
到ルヘキ者ニ、非スト云フノ問題起レリ、此自私ノ理ヲ、凡百人間行事ノ
大源トシ、以テ人ノ心腸ヲ攪動スル諸情モ、之ヲ淵源トシテ視タル、諸哲
家ハ、相憐ノ感動ヲモ、討究シテ、同一源ニ溯ルヘシトシテ、之ヲ表明セム
ト、欲シケレトモ、亦牴牾ナキコト、能ハサルナリ、他人ノ艱難ニ際シ、相憐ノ
情操發スルハ、我カ上ニ、同一艱難ノ落ルヲ、想像スルニテ、即、其文中ニ、之
ヲ名ツケタル如ク、此假想虛設ノ致ス所ナリト、是霍畢寺^{ホベス}ノ考定ナリ、又
亞當斯美^{アダムスミス}接ノ固守セルハ、以謂ヘラク、是吾人自己ノ體驗ヨリ、生スル者
ニテ、一ハ、他人ノ艱難ノ觀念ヲ、我ニテ造ルコト、一ハ、此ノ如キ觀念ヲ、作
ルノ様法ハ、自己モ、其受難者ト、同一ノ景況ニ處セリト、假定シテ、此ノ如
キ時ハ、我ハ、何如ニ攪動セラレヘキヤト、理會スルニ由ルナリト、總ヘテ
此兩說共ニ眞ナリト、謂フヘク、吾人、他人ノ艱難ニ遭フノ觀念ヲ、得ルノ

道ハ、此ノ如キコト、疑ナシ、然レトモ、他人ノ艱難スル觀念ハ、其觀念ニシテ、
其艱難ニ就キテ、同感ノ存スルハ、又別ニ一事タリ、故ニ、其一ハ、理會ナリ
トシ、他ノ一ハ、理會ノ提醒シタル感動ナリトス、且ソレ、士低瓦的氏ノ、此
考定ノ辨折ニ、能之ヲ説破セル如ク、此ノ時ニ於テ、我カ同感ハ、其瞬間ニ、
其艱難ヲ、眞ニ自己ニ屬セリト、理會シ且信スルヨリ、生ストハ、謂フ可ラ
サルナリ、我カ自己ノ艱苦ハ、其眞ナルモ、若クハ、想像ナルモ、之ヲ觀察シ
テ、生スル感動ハ、相憐愍恤ノ感動ヨリハ、其品性、全ク別種ナル感動ナリ、
此二感動ハ、容易ニ區別スヘシ、吾人、他人ノ艱難ヲ、見テ感スル、單純ナル
危懼心ト、自然ニ、此危懼心ヲ除カムト、思フ欲トハ、愍恤中ノ、元首タル原
行ニ非ス、若之ヲシテ、果シテ、其原行タラシメハ、則其危懼ヲ起ス艱苦ヨ
リ、避ケ追レ、同シクハ、速ニ、其艱苦ヲ見サル、思ハサルノ地ニ、處ルコト、之
ヲ脱スルノ、確實簡易ノ道タルヘシ、故ニ、カノ同感ノ情ナル者、果シテ其

心ヲ促カシテ此ノ如キ事ニ從ハシメハ之ヲ名ツケテ私欲ヨリスト謂
 フヲ得ヘシ然ルニ同感ノ眞面目ハ此ノ如キ者ニ非スシテ唯他人ノ艱
 難ヲ見テ生スル單純不快ノ感覺タルノミニ非ス縱ヒ此感覺ハ感シ易
 キ心ニ生シ同感ト名ル情ヲ伴ヒ若クハ同感ノ一分ヲナスト謂フヘキ
 モ是ノミコテハ同感ト謂ヒ難クシテ同感ノ情ハ又其危懼スル感動ノ
 上ニ尚其憂患艱難ト徒タルノ情アリ即其艱難ヲ彼ノ艱難トシテ我カ
 自己ノ艱難トセス其痛苦ハ彼ノ爲ニ痛苦ナリトシテ我ノ痛苦トセス
 此ノ如キ趣向ニ在ルカ故ニ其衝動ニ由リテ激烈ニ促カサレタル效驗
 ハ其強勁歴ス可ラスシテ我ヲ其危懼ヨリ脱セムトスル欲ニハ非スシ
 テ此艱難ヲ起セル者ヨリ其受難者ヲ救ハムトスルノ欲ト變スルナリ
 今若他人ノ爲ニ生スル慙恤ノ情ヲシテ我カ爲ニスル恐懼掛意ヨリ發
 スル者トセムカカノ勃多列爾カ能説破セシ如ク尤モ恐懼シ易キ性質

此考定ノ
 衍義ヲ論
 ス

ハ尤モ憐愍深キ人タルヘキニ此ノ如キ例ハ稀ナルヲ何如セム又之ニ
 加ヘテ謂フヘキハ若同感ハ何レノ目的ニモ私欲ノ元タリトセハ尋常
 ヨリ極メテ十分ニ私欲ノ意見ニテ管束セラレタル人ハ同一理ニテ他
 人ノ艱難ニ甚活潑ナルヘキニ是此二語ノ相反スルヨリモ其實相反セ
 ルハ何ソヤ

第二篇 道理上ノ情緒ヲ論ス

第一章 自己優劣ノ觀ヨリ發スル歡喜悲哀ノ情緒

吾人ノ性中ニ賦與セラレ其各自自然ノ力ニ因リテ發顯シ而シテ其運
 行中ニ省察力ノ運用ヲ兼テ且一般ニ一層高キ靈智上諸能力ノ發用ヲ
 含ミタルヲ以テ本能上ノ情ヨリ之ヲ區別スルカ爲ニ理性上トシテ名
 狀シタル感受性中ニテハ快樂痛苦ノ活潑ナル感動吾人自己ヲ顧ミテ
 眞假ノ優劣ヲ觀シタル時生スル者ヲ推シテ第一等ノ地位ニ置クナリ

此情ノ性
 質并ニ目
 的ヲ論ス

此論題ナル情ノ直チナル目的ハ、或形容ヲ有スル自己ナリ、故ニ、此情ノ直接ナル原因ハ、吾人或ハ眞實ニ、或ハ虚想ニテ、自己ニ有セリト視タル勝レタルコト、シ、又其裏ニテ、或ハ眞實ニ、或ハ虚想ニテ、有セリト視タル、缺ケタルコトナリ、此優勝ト、缺劣トハ、或ハ我カ靈智ニ屬シテ、賢愚ト云ヒ、或ハ我カ徳性ニ屬シテ、善惡ト云ヒ、或ハ我カ學識ニ屬シテ、高卑ト云ヒ、加旃、今日我カ境遇ノ窮達、生計ノ貧富ニモ屬シ、又一事一物ニモ、難易美惡等トシテ、屬スル者ニテ、約シテ言ハ、何ニテモ、總ヘテ我カ物トシテ、之ヲ我カ同類ノ物ヨリ、區別スル上、ニ在ルナリ、然ルニ、觀察シタル其形質ハ、眞實ニ、之ヲ有シ、之ニ達スルコトアリ、又唯我カ想像ト、虚想トノ中ニ、存スルコトアリ、又其缺劣ナリト視ルモ、同シク眞實ト、想像トアリ、然レモ、何レニテモ、之ヲ觀スレハ、心ニ活潑ナル感動ヲ、提起スル者ニテ、何ニテモ、願フヘキ形質ヲ、自己ニ有セリト觀、若クハ、其形質、自己ニ缺ケ

其提發セラル、何如ナルカヲ論ス

タリト、觀スル時ハ、何レニテモ、悅樂トカ、慘苦トカノ情ヲ、興サ、ルコト能ハスシテ、殊ニ、高度ニ昇ルヲ、常トス

此情緒ハ、上ニ云ヘル兩道ノ中、其一ツニ、出ル者ニテ、唯自己ノミニテ觀タル時ニ、其假定セル優劣、我ニ屬セリト察スレハ、即發シ、又自己ト、他人トヲ、比較シテ觀テ、此目的ニ就キテ、彼此ニ優劣アリト、察スレハ、即發スルコト、一層屢ナリ、此後ノ事例ニ於テ、他人ニ自己ノ優レタルコト、若クハ、劣リタルコトヲ知リテ、發セル情ニ、カノ尋常用非ル驕傲ト謙卑トノ、二語ノ當レル所アリ、然ルニ、此二語ハ、互ニ關係セル者ニテ、必稍比較ノ運用ヲ經テ、定マルナリ、又此情、上ノ如キ關係ヨリハ見スシテ、他人ト我トニ、關スル關係ハ、觀察ノ目的タラサル時ニモ、或ハ缺劣ノ思念ヨリ、痛苦ノ意識アルヲ覺エ、又或ハ高貴ノ點ニ、達シタル念慮ヨリ、快樂ノ意識アルヲ、覽ユルコトアリ、此時ハ、其比較スル所、自己ト他人トニ、在ラスシテ、唯

是德義ノ
情ト同一
ナラサル
ヲ論ス

自己ニ就キテ、現在ノ我ト、過去ノ我トヲ、比較スルナリ、故ニ、吾人ハ、我カ
自己ノ進歩ト、改良トニ於テハ、心ニ慊クシテ悦樂スト、雖ヒ、屢々、失錯アリ
シト、其、缺劣ノ、表白セルトニ於テハ、卑屈シテ、俯伏スルニ、至ルナリ
此論題ナル情緒ハ、德行ノ、綽然タルヲ察シテ、心ニ慊キト、又我カ過去ノ
躬行、德義ニ、戻レリトシテ、視タル、悔恨不愉ト、之ヲ混同ス可ラス、茲ニ述
ル所ノ情緒ハ、德義ノ、情ノ性質ニハ、非ス、然レモ、或レ、目的ニテハ、之ト親密
ニ相近キ者ナリ、然レモ、此情緒ヲ起ス者ハ、我カ獨知ヲ善ミシ、若クハ、之
ヲ罪スルノ誥命ニハ、非ス、又何モ、正不正ヲ指スコトニ非ス、故ニ、其目的
ハ、義務ト本分トノ意ニテ、視ルニ非ス、唯徒ニ、愉快ニシテ、願フヘキノ事
ヲ、善シトシテ、視タルノミ、此ノ如ク、見做ス時ハ、之ヲ有スレハ、快樂ヲ覺
ス、是亡ケレハ、痛苦ヲ覺ユルノミ
右ノ如ク、提醒セラレタル情緒、我カ自己ノ靈智、若クハ、德性ノ高キニ、達

是ノミヨ

テ、譏ルヘ
キニ、非ル
ヲ論ス

シタルヲ視、又加旃、外部ノ境遇ニテモ、優レルヲ視テ、依リテ以テ、慊足快
樂トナルハ、人タル道ニ、譏ルヘキ事ニ非ス、又人タルニ足ラスト、謂フ可
ラス、是唯、此性ノ作用タル耳ニテ、此ノ如キ情ヲ、感受スルハ、人ノ賦與セ
ラレタル天性ナリ、學士丕羅昂ノ、能指目セル如ク、素ヨリ優勝ナルヲ欲
シテ、之ヲ得タル時ニ、喜ハサルハ、爲ス可ラサルノ事ニ屬ス、若吾人、以前
ヨリ、一層良貴ニナリシ時、之ヲ得テ、快樂ナリト思フヲ、罪ス可シトセハ、
是即、此ノ如キ良貴ヲ願フハ、固ヨリ、罪スヘキ事タル可ケレハナリ
其罪スヘキハ、唯此情ノ存スル、度ニ超エテ、貴重スルニ足ラサル事物ヲ、
貴重スル時、又依テ以テ、自己ニ喜悅スル所、唯假想ニ出テ、眞ニ存スル
ニ非ル時、又縱ヒ、其存スルハ、實ナリト雖モ、之カ爲ニ、自己ヲ、他人ノ上ニ、
置カムト欲シ、或ハ、他ノ缺劣ナルカ爲ニ、之ヲ卑視スル時、加旃、是ニ依
テ、我ト人トノ間ニ、幾何ノ差異アリヤト、之ヲ待遇容貌ニ依テ、人ニ知ラ

何如ナル
時ハ、此情
緒ノ罪ス
ヘキヤヲ
論ス

シメムト欲スル時ニ在リトス故ニ此感動ノ罪スヘク憎ムヘキハ唯此ノ如キ形状ニ變シタル所ニ在レト然ルニ此ノ如ク變スルコトハ亦稀ナル事コハ非ス是即尋常說話ニ用非ル語ニテ通シテ驕傲ノ字ニテ徵スル所ノ此心ノ形状ニテ尋常此語ニテ徵シ以テ此形状ニ譴責ヲ加フルハ當然ノ正理ニテ即茲ニ述ヘタル性質情操ニ當ル者ナリト知ルヘクカノ我自己ニ或ハ眞實ニ或ハ虛想ニテ志ノ達シタルヲ視テ愉悅スル情緒ヲ指スニハ非ルナリ故ニ吾人驕慢倨傲ナル人ヲ罪斥スル所以ノ者ハ其人ノ他人ニ優ル所ニ非ス又其勝ルコトヲ其人自ラ知ルト云フ所以ニ非ス又其自ラ知ルヲ以テ之快シト思フト云フノ所以ニ非ス唯其人自ラ他人トノ優劣ヲ比較シ其勝レタルヲ知レト之カ爲ニ其當然ヨリモ自ラ地步ヲ占ルコト一層高キ習氣アリ又當然ヨリモ一層卑ク他人ヲ睥睨シ殊ニハ又此優勝ナル意ヲ含ミテ他人ヲ壓倒凌轢セムト

此性質ノ變スル諸種ノ形状ヲ論ス

欲スル上ニ在ルナリ

此優勝ヲ挾ム人ニ諸種アリ己ノ勝リタルヲ輝カシテ人ノ諛賞ニ依リテ尊大ニスルヲ好ム痴癡アル者アリ是乃虛驕ノ人ナリ其實僅ニ貴重スヘキ事ヲモ之ヲ誇大ニシ實ニ有セサル物ニ就キテ自ラ矜ル者アリ是乃譎張ノ人ナリ人ヲ蔑視シテ其下輩ニ遇スル殊ニ傲然タル者アリ是即倨傲ノ人ナリ又其人自己ノ得意ヲ此ノ如ク鳴サムト欲シ極メテ誇大ニ過ル者アリ又自ラ尊大ニスルニ過キ風格ヲ儼莊ニシテ矜リテ以テ諛媚ヲ悅フ者アリ又自己眞個ノ價直ヨリモ己ヲ待ツコト甚々高ク殊ニ其意ヲ表示スル者アリ又他人ヲ待ツニ倨傲ニシテ大ニ其風采ヲ炫輝スル者アリ然ルニ此等ノ事例ニテハ其人自己ノ意見ヲ高シトシ其接遇スル諸人ヨリ敬貴ヲ受ケ且自ラ心ニ其勝レルヲ知ルヲ樂ミトシ之ヲ以テ自ラ饜足スル者ナリ是乃單言スル所ノ驕傲ノ人コシテ虛驕譎

此性質ヲ、此ノ如ク、露發スルハ、貶斥スヘキヲ論ス

張、倨傲ニハ非ス、然ルニ、其差異ハ、其人自己ヲ視ルコト、甚高カラス、他人トノ比較ニテ、之ヲ卑視スル、甚シカラスト云フニ、非スシテ、唯其思フ所ヲ、十分ニ露發セサルニ在リ、其優勝ナルハ、素ヨリ知ル所ナレド、之ヲ表發スルコト、彼カ如ク、直白ナラサルナリ
上ニ舉ケタル表候ノ中ニ、何ニテモ、此心ノ性質形狀ノ存スルハ、誦責ニ屬スヘシト雖、尋常ニ指目スルカ如キニハ、至ラサルナリ、然レ亦、此驕傲、徒ニ憎ムヘク、厭フヘキ耳ニ非ス、時トシテハ、道義上ニ、貶斥スヘキコトアリ、是殊ニハ、心術道德ノ天稟學識ニ、於テスル優劣ニ關セスシテ、偶然ナル境遇、譬ヘハ、身體ノ美醜、強弱、社會ノ地位、貧富、若クハ、門地ノ高下等ニ、於テスル優劣ニ關シテ、驕傲ナル者はナリ、此境遇ハ、之ヲ有スル者モ、必然ナル寶貨ニ非ス、其睥睨スル人ニ勝レルモ、眞實天資ノ者タルニ非ス、故ニ、此ノ如キ事例ニテハ、其驕傲純然笑フヘキ者タルノミ

其頂好至善ニ協ハサルヲ論ス

我、現在ノ善美ニ達シタルヲ以テ、自ラ高ク居リ、他人ト比較シテ、其上ニ位スル性質ハ、至高ノ善美ト、恆ニ相和セサル者ナリ、吾人自己ノ改良ニ就キテ、疑フ可ラサル明證ヲ、觀ル時ハ、我カ心ニ於テ、快樂ノ情生スルハ、實ナリ、然レモ、至高ナル性質ハ、此時、自己ノ學識ヲ證スルモ、未曾テ、自己ニ限レリトシテ、之ヲ視ルコトナク、又自己ノ優勝ヲ證スルモ、他人ハ、己カ下ニ在リトシテ、之ヲ視ルコトナクシテ、唯其懇誠ノ證據ハ、己カ上ニ在ル、勝リタル所ニ、注視セリ、是未達シ得サル善美、恆ニ我カ前ニ、泛然トシテ、瞻仰ニ供スル理想ナリ、故ニ、之ト比較シテハ、凡百現在ノ進達ハ、泰山蟻垤ニ過キス、是ヲ以テ、眞ニ高大ナル心ハ、恆ニ恭謙ニシテ、自己ノ不足ヲ知ル者ナリ

第二章 笑樂ノ享樂

吾人ノ天然資質ヨリ、出テタル理性上享樂ノ諸源中ニ、笑樂ノ知覺ニテ、

本來其情

緒ナルヲ
論ス

何故ニ理
性上ニ屬
スルカヲ
論ス

提發スル感動ヲ、加算セサルヲ得ス、吾徒之ヲ情ノ中ニ彙類スルハ、是亦
感動ノ事ニシテ、又快樂ノ感動タレハナリ、而シテ、一方ニ就キテハ、情款
又欲ヨリ、異ナルカ如ク、一方ニ就キテハ、亦其性、靈智上ノ能力ト、異ナリ
トス、是感動ノ快樂ナル興發ニ屬シ、歡喜快悅ノ種類ニテ、一種別ノ事物
ヨリ、挑發セラル、者ナリ、此問題ナル感動ニ、何ニテモ、他ノ形狀ノ屬ス
ルコトアルモ、愉快ノ品性ハ、是ヨリ離ル可ラサル者ナリ、故ニ、此情ハ、本
來感動ノ中ニテモ、喜悅憂愁ノ諸種ノ變體ヲ包テ、余カ情緒ト、名ツケタ
ル類中ニ、入ルヘキナリ

吾徒、此情ヲ、本能上ト、名クルヨリモ、寧[○]理性上ト、名ツクルハ、余カ取ル所、
誤謬微リセハ、此中ニ、一層高キ靈智上ノ能力ノ運用ヲ、含メハナリ、是理
性ノ特權ニ屬シテ、禽獸ニハ、笑樂ノ知覺ナク、從ヒテ亦、笑樂ノ享樂ナシ、
痴人ハ、此樂ミナク、又教育ナキ夷狄ハ、僅ニ之アリトモ、甚タ少シ、此所ニ

就キテ、見レハ、論題ナル感動ハ、全ク美妙高妙ノ享樂、并ニ又、我カ躬行ノ
善不善ヲ知リ、人ノ行爲ノ正邪ヲ觀テ、興起スル感動ニ、類例ナリ、故ニ、此
情、總ヘテ、吾人ノ天性資稟ニ、本ツクト雖[○]、本能ヨリモ、重ク理性ニ涉リ、
カノ人ヲ、一層特別ニ、他ノ下等ナル性體ト、區別スル能力ノ運用ヲ、含ミ
タリトス

何ノ法カ
以テ定義
ヲ立ツヘ
キ

笑樂ノ情ヲ、精密ニ定ムルハ、他ノ情ニ、精緻ナル定義ヲ、立ツルト同シク、
共ニ難事ナリ、故ニ、吾徒ハ總ヘテ、此ノ如キ事例ニ當リテハ、此感動ニ、機
會ヲ假ス所ノ、境遇ト、情狀トヲ、指定シテ、自己マサルヲ得ス、縱ヒ、其情ノ
上ノミニ就キテ、定指スルコト、能ハストモ、其依リテ生スル所ノ目的ト
機會トノ、諸種ナルヲ、縝密ニ視察シテ、之ヲ細述スルハ、得ヘキ所ナリ
然テハ、則チ、笑樂ノ感動ハ、何如ナル境遇ニ於テ、提發セラル、ヤ、吾人、笑樂
ト、名ツクル者ヲ、成ス所以ノ者ハ、客觀ニ就キテ、視テ、一定ノ物體種類中

其問題ヲ
解ス○祿
可并ニ德

コテ、其奇特ナル形質ハ、何物ナリヤ、此問題ニ就キテハ、諸家心裏ノ現象ヲ、縝密ニ觀察スルニ慣手タル人ニ在リテ、諸種ノ答辨ヲナセリ、祿可氏之カ爲ニ、諧謔ノ定義ヲ立テ、曰ク、是何ニテモ、物ヲ見テ、相符シタリト、爲シ得ヘキ觀念ヲ取り、敏捷參差ヲ極メテ、之ヲ排列シ、依リテ以テ、想像上ニ愉快ナル形狀ヲ現ハシ、快活ナル看ヲ生セシムル者ナリト、此定義ハ、人能正シク看破スルカ如ク、其包含廣キニ過キタリト謂フヘシ、何トナレハ、說術詩學ノ全脈ハ此中ニ存スレハナリ、此中ニハ、高妙ヲモ、美妙ヲモ、又諧謔ヲモ、含蓄シテ、虛德丕羅斯ノ諧謔ヲ極メタル段落ニモ當リ、又波爾哥并ニ維丕斯多ノ雄辯ヲ極メタル段落ニモ當リ、又極樂失亡ノ精巧ヲ極メタル段落ニモ當ルヘシ、而テ德來典ノ定義ハ、猶其包含一層廣シトシ、其言ニ以謂ヘラク、諧謔ハ意思ト言語ト共ニ當然ニ出ルコトナリ、即チ其題ニ應シ能辯說セル意思ト言語トヲ言フナリト、此定義ハ、人

能ク諧謔ヲ以テ、之ヲ評シ得ル如ク、丕雷爾ノ訓言モ、金伯拉ノ冀望快樂モ、該撒ノ註文モ、西塞魯ノ攻撃體モ、慕消埃ノ祭文モ、其特ニ合當ナル文體ナルハ、此中ニ入ルヘキナリ、然ルニ、其實ハ、德來典モ、祿可モ、此諧謔ト云フ語ノ用法ニ於テ、今日吾人カ、此語ニテ、理會スル意トハ、異ナリシコトヲ知ルヘシ、今時ノ意味ハ、諧謔戲笑ヲ挑ム勢力ヲ、徵スレヒ、當時ノ用井ニテ、一層廣キ義ニ、此語ヲ用井タリト見エ、前時ハ、殆ト專、靈智ノ勢力、善良ノ意思、剛正ノ辨決、敏捷ノ曉悟等ノ、痛快精神アリテ、一層種別ニ文章叙述ノ中ニ、顯ハレタル形質ヲ、徵スル爲ニ、用井シナリ、約翰孫カ諧謔ノ定義ハ、頗ル標柱ニ近キ者ナリ、曰ク、是異體同致ノ類ニテ、乃チ相似サル照影ノ結合、顯然同シカラサル事物ノ、暗然相似タルヲ、發見スルナリト、又金伯拉カ、其文科哲學中ニ、示セル諧謔ノ定義モ、是ヨリ取ラサリシ者ナラハ、是ヲ距ル、遠カラサル者ト、謂フヘシ、曰ク、其現在シ

霍畢寺ノ
定義ヲ論
ス

テ、相關スル照影ノ怪シク相似タルニ因リテ、心裏ニ快活ナル驚愕ヲ喚
起スル者ナリト、此定義ニモ亦以前ノ辨駁ノ當ル所アリテ、包含廣キニ
過キ、此中ニハ、美妙モ、高妙モ、又笑謔ヲモ含ミ、雄辨ト諧オトヲ兼テ
霍畢寺ハ、笑ノ定義ヲ立テ、唯其、此心ニ關スル所ノミニテハ、笑謔ノ感
動ノ表出スル源トシテ、曰ク、我ト、他人、若クハ、我自己ノ前時ト、比較シテ、
彼稍弱ク、我稍優ルコトヲ、不意ニ理會スルヨリ、生スル卒然ノ誇心ナリ
ト、余謂ヘラク、笑ヲ生スル目的ハ、必稍劣ル意味アリテ、我カ心ニ現ル者
ナリ、故ニ、此所ニ就キテノミハ、此定義ニテ、笑謔ニ少ク可ラサル元行ヲ、
含蓄シタルコト、固ヨリ疑フ容レズ、笑フ者ハ、其一時ハ、少クハ、笑ハレタ
ル人ト、物トニ於テ、己カ評商ニ就キテハ、必優リタリト視ル、故ニ、其笑ハ
ル、者ハ、稍粗漏ニ屬スル者、稍錯誤ニ屬スル者、其身體、心意、若クハ、風姿
ノ稍異常ナル者、稍愚魯ニシテ、儼莊自重ノ缺ケタル者、又勇氣若クハ、威

此考定ヲ
駁ス

儀ノ稍缺タル者、其人ノ具ノ品性位置ト、登時ノ景況トノ間ニ、稍相符合
セルコトアルヲ、覺ユル時等、是皆、吾人ノ笑ヲ起シ、戲謔ヲ成ス者ナリ
然ルニ、笑樂、若クハ、嬉笑ニ供スルノ偏尙ハ、徒ニ、我自己ノ優リタルト、觀
察セル者ノ劣リタルトヲ、覺ユルヨリ、生スト、謂フハ、眞ナラストス、是上
ニ舉タル事例ニモ、當ラサルコトアリ、若果シテ然ラムカ、吾人、何レノ處
ト、何レノ時トニ、拘ハラヌ、此ノ如ク、優リタルコトヲ、發見セハ、笑謔ノ感
動ヲ、生スヘキコトニ屬シ、又其優勝、愈、大ナルハ、笑ヲ發スルノ偏尙モ、愈、
強カルヘキ理ナルニ、此ノ如キ、事例アル、稀ナルハ、何ソヤ、吾人ハ、此目的
ニ於テハ、如何ニ、我カ自己ノ境遇、他人ニ比シテ優リタリト、他人ノ不幸
ヲ、笑フノ意尙ナシ、余カ地位ハ、鄰人ニ比シテ、高貴タルヲ得、余カ健康ハ、
彼ニ勝ルヲ得ルモ、之カ爲ニ、彼ヲ笑フノ意尙ナシ、霍氏ノ考定ニテハ、カ
ノ倨傲、自滿、凌轢ノ癖アル人、自己ノ優勝ヲ恃ミ、一般ニ、人ト物トヲ視テ、

殊ニ甚シク、挾ミテ以テ、之ヲ蔑如スル者ニ非ルヨリハ、人未嘗テ十分ニ
笑フ可ラス、乃、縦ヒ絶倒ニ堪ヘズトモ、之ヲ堪ヘサル可ラサルナリ、是其
事實ニ於テハ、正ニ相顛倒スル者ナリ、蓋シ此ノ如キ人ハ、笑フコト、甚稀
ニシテ、若笑フコトアレハ、カノ矜誇傲然ノ性質ヨリ、瞬時顔上ニ、冷笑ヲ
催スノミ、是カノ清潔ナル心腸ノ粲然タルトハ、相距ル雲泥ノミナラ
ムヤ、是世ニ能ク名状セルカ如ク、是亦所謂笑晒ノ莞爾顔ヲ解クノ比ニ、非
スシテ、寧ロ甲削斯ノ冷笑ノ如キカ

安也、好戲、樂
甲也、不好戲
生、平、吝、笑、語
冷、笑、疑、其、嘲
嗟、此、無、情、子

終、日、事、舞、蹈
又、不、知、音、調
笑、則、耀、其、傲
大、噱、訝、其、詭
何、事、能、堪、笑

詩句中、安ハ、安敦ヲ指シ、甲ハ、甲削斯ヲ指ス

此ノ如クナレハ、吾人、笑樂ヲ解シテ、唯其目的タル物、若クハ、人、我ヨリ稍
劣レルヲ、覺ユルニ由ルト、謂フヲ得ス、何トナレハ、今劣レル者ニハ、其類
極メテ多シト雖モ、少クモ其中、嬉笑ノ意ヲ、提起セサル者アリ、而シテ同
時ニ又、其優リタルヲ、自知シテ、極メテ之ヲ以テ、自ラ喜フノ人ト雖モ、常
ニ必ス、顔ヲ解クニ、偏尙セサレバ、ナリ

今ソレ、笑樂諧謔ノ、本體ノ品性ハ、何物ノ中ニ在リヤ、又何物カ、能其根源
ヲ、發生スヘシトシテ、視ルヘキヤト、問ハ、吾人、正ニ之ヲ次ニ、發見スヘ
シ、即チ、觀念若クハ、事物ノ、性來不恰好ナル者ヲ、忽然不意ノ機會ニ乘シ
テ、排列湊合スルコトナリ、此ノ如ク、其物體ノ、不恰好ナルヲ、連接セシメ、
之ヲ發見スルノ機會、新奇不意ニ出テ、依リテ以テ、感シテ、驚動スルハ、余
カ見ル所ニテハ、笑諠ノ觀念ニ、本體ノ眞元行タルナリ、余謂フ、吾人、此精

不恰好ハ、
本體ノ元
行タルヲ
論ス

笑謔ニ驚動ノ關係ヲ論ス

ヲ起ス所ノ諸種目的ヲ綿密ニ查確スレハ、必ズ不恰合ノ物アリテ、其觀念タルト、事物タルトニ拘ハラズ、現ハレタル機會ノ非常不意ナルコトヲ發見スヘシ、是乃其效驗ハ、偶然ノ事タリ、鹵莽ノ事タリ、魯鈍ノ事タリ、或ハ故ニ計策ノ事タル所以ニシテ、其事タル様法ノ何如、因由ノ何如タルニ拘ハラズ、此約束ヲニ齊ヘハ、何時ニテモ、笑謔ノ意味ヲ提覺スルナリ

驚動ハ、笑謔ニ伴結ノ本體タリ、是即此心ノ一形狀ニテ、吾人依リテ以テ、新鮮奇怪ナルノ事ノ起ルニヨリ、尋常ノ位置ヨリ轉挑セラル、故ニ不意ナルナリ、何ニテモ、不恰好ナル者ハ、均シク尋常ニ濶カレリ、故ニ自然不意ナラサルヲ得スシテ、依テ以テ、多少驚駭ノ、此心ヲ打ツヲ覺ユルナリ、然レ、吾人驚ク者ハ、悉ク諧謔タルニ非ス、譬ヘハ、我カ坐ニ近キ窓戶不意ニ落テ、或ハ我ヨリ數歩内ニ銃ヲ不意ニ打發スレハ、驚動シテ、跳躍スル

諧謔ニ關スル新奇ヲ論ス

ニ至ルヘシ、然レ、恐ラクハ、別ニ笑フニ堪ヘサルコト、莫カルヘシ、又吾人朋友ノ死ヲ聞キ、若クハ、不意ノ災害アリテ、多人ノ死亡等アリト、聽カハ、驚愕スヘシト雖、此ノ如キ驚動ニ、何モ笑フヘキ事、莫カルヘシ、故ニ、其驚動ハ、一種ノ驚動ニテ、唯不恰好ヲ知覺シテ、生シタル驚動トシ、何ニテモ、新奇ナル物ニ遇ヒ、一般ニ感スル驚動ニハ、非ス、唯嬉笑ニ關スル驚動ナレハ、之ヲ以テ、此論題ナル情ノ、元行トナスヨリモ、寧ロ、伴結ノ元行トスヘシ

新奇ト、不意トハ、幾何カ、諧謔ニ、加功スルアリ、是人皆知ル所ナリ、故ニ、何如ニ諧謔ナル傳奇ナリ、既ニ一度聽キタル者ハ、其新鮮滋味ヲ失ヒ、數、反復スルニ及ヒテハ、徒ニ喜フ可ラサルノミナラス、煩悶ヲ發シ、竟ニ堪フ可ラサルニ至ル、是ト同シク、同一理由ニテ、預メ計畫シテ、作リタルコトノ、知レタル諧謔ハ、同一事タルモ、不意敏捷ニ、忽然ノ機ニ投シタルト、

相比シテ、效驗ヲ生スルニ稍劣レル者ナリ、人其房裏ニ就キテ、或事ノ奇功ナル關係結合ヲ工夫シ得タルモ、其關係ハ機會ノ要スルニ會シテ、脚下ニ之ヲ理會スルニ至リシコトノ、一層驚クヘキニ、若カサルナリ、故ニ吾人、通常尤能、諧謔ナル著作、若クハ、戲謔的ノ言句ニ、冠ラシムル形容語モ亦同一理ヲ徵スルニ足リテ、或ハ活潑ト云ヒ、或ハ新鮮ト云ヒ、或ハ爛熳ト云ヒ、或ハ活爽趣味十分ナリト云フ、此等ノ語ハ、恐ラクハ、純精ノ酒ヲ賞スルヨリ、假リタル者ナルヘシ、蓋シ、醇酒ハ、大氣ニ觸ル可ラスシテ、一次氣ニ觸ルレハ、其芳香清冽ヲ失フ故ナリ、然ルカ故ニ、余カ試ニ立テタル分解法ニ於テハ、其論ノ歸スル所交互ニ、關係中ニ現ハシタル觀念、若クハ、物體ノ、不恰好ナルハ、笑謔ノ不易ナル元行ニシテ、實ニ其本體ノ品性ヲ成シ、而シテ、此ノ如ク表ハシタル結合、新奇不意ナル時ハ、我カ感スル驚動、一層深クシテ、甚其效驗ヲ強クスル

不恰好モ亦常ニ笑謔ニ供セサルヲ論ス

コト、常ナリト云フニ在リ、然ルニ、尙之ニ就キテ、指目スヘキハ、其不恰好ト、不意サヘモ、若其觀察シタル物體、若クハ、事件ノ性質、尙他ノ一層重キ情ヲ生スヘキ者ナル時ハ、笑樂ノ意味ヲ提醒セスト、云フニ在リ、若其事變ノ性、何如ニ新奇ニシテ、實ニ驚愕ニ堪ヘ、加旃笑フヘキニ、堪ヘタル事ニテモ、生命ヲ危ウシ、若クハ、痛ク吾人、又ハ、他人ノ安寧ヲ害スヘキ者ナル時ハ、一ハ則チ恐懼ヲ發シ、一ハ則チ慙恤ヲ發シ、兩情一次ニ提醒セラレテ、凡ヘテ笑謔ノ意味ハ、斷然止息スルナリ、蓋シ、情欲ノ大重ナル者ハ、其小輕ナル者ト、相容レサル者ニシテ、之ヲ此心ヨリ、驅逐スルヲ常トス、吾人一倨傲ノ人、其衣服ヲ整ヘ、其瞻視ヲ尊クシ、威儀堂々トシテ、澗歩高踏シ、忽然其脚ヲ失シテ、臀ヲ溝中ニ投シ、四肢仰指スルヲ視ハ、我カ初頭ノ衝動ハ、笑ヲ發スルニ在ルコト、疑ナシ、是他ナシ、其現在ノ形狀ノ不恰好ナルト、其人體ノ美麗ヲ、盡シタル外形ト、其風習ノ尊大ナルト、強ク我カ

眞理ノ發
明ハ笑諢
ニ同シカ
ラサルヲ
論ス

笑諢ノ情味ヲ挑發スレハナリ然レハ爾時其落ルニ際シ其脚ヲ折リ若クハ然ラサルモ痛ク其體ヲ毀傷シタリト知ラハ我カ笑ヒハ直チニ相憐ノ情ニ其位ヲ讓ルヘシ

是ト同一理ニテ何ニテモ科學ニ於テ切要ナル新理ノ發明ハ如何ニ奇怪ニシテ不意ニ出ルモ絶エテ笑諢ノ感動ヲ起スコト無シ其切要ナルハ我カ意思感動ヲ一層高キ園内ニ昇ホス者ナリ爽波列爾ノ行星運行ノ理法ノ若キ初頭ハ稀世ノ奇異ナル表章ヲラサルヲ得ス木炭ト金剛玉ト化學上ノ同一ハ伴象ニテ至異不合當ナル物ニシテ之ヲ發見セルハ新奇ト謂ハサル可ラス然レ此ノ如キ發明ヲナシテ之ヲ表章セシ者ハ星學家ニテモ化學學ニテモ時人之ヲ視テ稀世ノ笑諢ニ供ズル事ヲナシタリト謂フ者無キコト斷然タリ故ニ此ノ如キ事例ニ當テハ吾人其效用ノ切要ナルヲ視テ此ノ如ク相關セル觀念物體ニ於テハ如何ニ

笑樂ノ情
ノ諸形狀
ヲ論ス

不恰好ナル
ル物體ノ
偶然ナル
排列ト故
意ナル排
列トヲ論
ス

不恰好ニテ如何ニ奇怪ナルレハ一層重キ情ノ現ルニ由リ笑諢ノ情ハ此心ヲ衝動スルコト無シ

不恰好ナル事ノ嬉笑ノ感動ヲ提醒スルハ諸種多般ノ形狀アル者ニテ或ハ物體ニ係ハリ或ハ觀念ニ係ハルナリ孰レニテモ其不恰好ナル元行ヲ排列湊合スルコト或ハ偶然ニ出ルコトアリ或ハ故意ニ出ルコトアリ偶然ナル時ハ之ヲ錯誤トシ故意ナル時ハ則諧諢ノ名ヲ取ルナリ

不恰好ナル事ニ就キテ偶然ニ出テタルハ余既ニ前ニ假設セシ時ニ於テ盛服自重ノ貴人不意ニ泥中ニ陷リタル例ノ如シ若自重ノ貴人ナラスシテ之ヲシテ大道ノ游治公子花々郎メラシメ其服粧ヲシテ新鮮美麗ナラシメハ其不恰好モ一層大ニシテ吾人ノ笑モ一層甚シカルヘシ

若當場ノ少年ヲシテ索士比耳ノ痴狂ノ詩ノ若クナラシメムカ則其笑フヘキハ幾何ノヤ是此詩家ノ其人ヲ賤シテ戰後ニ軍使ニ來リシ

形容ヲ述ヘタル者ナリ
 劍ヲ杖ニ。松蔭ノ。嚴撐ヘテ。吐息ツク。時哉見ユル。若武者ハ。
 是ハ抑軍ノ。使カヤ。見レハ衣ノ。美麗サ。新郎トカモ。訝マ
 タル。其鬚髯ノ。新剃ハ。秋田ヲ刈レル。刈稻ノ。齊ヘル様ニ。
 サモ似タリ。近ツク儘ニ。馨ア香ハ。ソモ時款貨舖ノ。娘カモ。
 指ニ執メル。香盒ノ。何爲ナリヤ。時々ニ。鼻ニ翳シテ。嗅クメ
 ルハ。

此ノ如キ品性ノ人其光華ヲ極メタルニ今泥中ニ蹣跚ダリト想像セヨ
 一場ノ哄堂其鄭重事件ヲ侮弄スルニ至ルヘシ其平素笑フコト稀ナル
 者モ豈笑ハサルヲ得ムヤ
 又不恰好ナル物體ヲ故意ニ笑ヲ起ス爲ニ排列シタル時ハ其諧謔ハ他
 人ノ害ニナル者ニテ此ノ如キ時ハ戲弄ノ行カ又ハ一場ノ打諢トナリ

不恰好ナ
 ル觀念ノ
 偶然ノ排
 列ヲ論ス

他人ノ奇怪不恰好ヲ倣擬スルコト常ナリ又其戲謔スル人己カ損ニテ
 自己ノ諧才ヲ弄シテ觀者ノ娛樂ノ爲ニ野父鈍漢ヲ扮粧スル者アリ
 若新ニ且不注意ニ關係ヲ結ハシメタル不恰好物體ニ於テセスシテ觀念
 ニ於テシ而テ此事亦偶然鹵莽ニ出テタル時ハ故意計畫ノ事ニ非ルヲ
 以テ吾人失錯又誤言ト名ル者是ナリ此ノ如キ事例ニハ必ス其思フ事
 ト言ヒシ辭若クハ作セル事トノ間ニ有ル可ラサルノ事ヲ含メリ佯象
 ニテハ恰好ノ事ト見ユレト其關係ヲ結フ觀念實ハ不恰好ナリ此事例
 ハ士德尼斯美梭ノ叙セル奇聞中ニ見ユ一醫人アリ嘗テ英吉利ノ一貴
 人ニ逢ヒシニ其人ハ位尊ク家祿亦盛ナレト不幸ニシテ子無カリシニ
 談話ノ末言此ニ及ヒケレハ其醫人ハ深ク其子無キノ不幸ナルヲ歎シ
 依テ以テ謂ラク是固ヨリ不幸ナリト雖ト或ハ族姓ニ在リテハ祖先ヨリ
 代々子ナキ血統アリト吾人阿爾蘭風ト名スル諧語ハ大率此類ニテ計

不恰好ナル觀念ヲ故意ニ排

畫ヨリモ寧ロ偶然ニ屬シ錯誤誤言タルヲ免カレズ近年阿爾蘭ノ民亂ノ時激怒セル亂民或時其忿怒ヲ有名ナル一銀行ニ洩セルコトアリキ此時嚴然決定シテ凡ヘテ其亂民ノ手ニ在ル銀行票ハ悉ク之ヲ燒棄セムト言ヘリ是其怒ニ乘シテ此策ノ唯各自ニ多少ノ損失ヲナシテ却テ多少銀行ヲ富マシムルヲ忘レタリ又馬漢氏ノ示セル事例モ亦殆ト此類ナリ二人ノ阿爾蘭人アリ共ニ森林中ヲ過ク其前行スル者徑路ヲ涉ル時一樹枝ヲ把リ之ヲ持スルコト少間アリテ卒然手ヲ離テ反張セシメ依テ以テ其跟行スル一人ノ足ヲ拂ヒ其人仆レテ地ニ俯スニ至レリ然ルニ其人徐クニ起キ謝シテ曰ク君カ保持ノ久シキニ依リ幸ニ我ヲ殺スニ至ラサリキ謹ンテ謝スト

列スルヲ論ス

調戲ヲ論ス

其觀念ハ全ク異ナル者ナレトモ其名唱音呼相通スル時唯其音呼名唱ノ相似タルヲ取テ之ヲ比較ノ元基トナス時ハ其諧謔ヲ名ケテ雙關話ト云フ此ノ如キ怪異ニシテ不意ナル關係ニ於テ結ヒタル二觀念唯一語ノ中ニ隱レテ其不恰好ナルコト愈十分ナレハ其雙關モ愈十分ニテ其效モ愈人ヲ笑ハシムル者ナリ然ルニ諧謔ノ中ニモ此類ハ實ニ最下等トシテ算スル所ニテ或著者ノ一奇言アリ曰ク間斷ナキ盡力ニ依テ遂ニ之ヲ擠下シテ尼院ニ驅逐スルヲ得タレハ再ヒ之ヲ容ルシテ世界ノ光裏ニ現ハレシム可ラスト又曰ク雙關話ノ竄竊ニ依テ生シタル幸福ハ直テニ諧謔ノ員數ヲ減少シタルニ在リト

其諧謔貴重尊大ナルコトヲ賤辱スルコトニ用キ依テ以テ陋劣卑視スヘキ形容言句ヲ是ニ擬スル時ハ之ヲ名ケテ調戲ト云フ波多列爾ノ虛的不羅斯ノ院本中ニ此種ノ戲謔ノ落段甚多シ東廡稍多ノ戰闘并ニ風車

滑稽ヲ論ス

雙關謎語ヲ論ス

共ニ院本ハ古昔比武ノ調戲タリ
 滑稽ハ全ク是ト相反スル趣向ニテ陋劣言フニ足ラサル者ニ被ラシム
 ルニ高大轟動ノ形容語ヲ以テシテ戲笑ノ意ヲ挑起スル者ニテ鼠ト蝦
 蟻トノ戰鬪ノ名ハ此一例ナリ
 上ニ擧ケタル故意ニ觀念ノ不恰好ナルヲ排列スル諸種アルカ上ニ又
 諧謔ニ一ノ切要ナラサル種類アリ是ハ恐ラシクハ前ノ區別中ニ類列シ
 難キ者タルヘシ其中雙關謎語ト云フ總種類ハ二重ノ意味アル語ニテ
 一事ヲ言ヒテ他ノ一事ヲ指ス者トシ少クモ其語ノ伴象ナル正實ノ意
 ハ指ス所ノ眞實無二ノ意ニハ非ルナリ又同一ノ本則ヲ唯少シク變シ
 一層長ク稍鄭重ナル體裁ニ延ヘ伴象ハ譽ルカ如クシテ暗ニ戲謔譏刺
 ノ戟身ヲ含メタルヲ諷語ト云ヒ又其故意ニ譏刺譏讓スル意ヲ稍迂曲
 ニ言フヲ冷語ト云フ總テ此等ハ皆余カ觀念ノ故意ナル不恰好ト名ケ

此情ノ原質如何ナル目的ニ於テ危害ナル偏向ヲ論ス

タル中ノ諸種タルニ過キス
 吾人ノ性中ニテ此情元ノ價直ニ於テハ余未タ一言ヲ發セサル所ナリ
 之ヲ其眞ノ價直ニ於テ評騭スルハ總ヘテ容易ノ事ニ非ス然レモ一方
 ニ就キテ之ヲ論スレハ此情ノ過度ナルニ至リテハ危害ノ本トナルコ
 ト疑ナシ凡ヘテノ事ヲ笑樂ノ光裏ニ觀テ物體若クハ觀念ニ就キテ想
 像上ノ遠濶ナル關係中ニ尤モ錯雜不恰好ノ處ヲ發見セムトスルノ偏
 尙ハ此心ノ氣風ニ不幸ナル影響ヲ生スヘキ耳ナラス心ト情腸トノ品
 性ヲ損スヘシ況ヤ至密ノ事ヲ穿ツニ於テヲヤ凡ヘテ諧謔即チ嬉笑ヲ
 好ム偏向此心ニ旺スル性質トナル時ハ他ノ高貴ナル能力ヲ之カ爲ニ
 不法ノ用ニ供スルヲ以テ此心ノ至高ナル效力才能ノ損壞ヲ醸シ殊ニ
 ハ志操ノ誠實正愨ト眞理ヲ愛スルノ熱心トヲ毀壞シテ凡百眞實ノ浩
 大ヲ致スノ基本ヲ覆ヘスニ至ルヘシ然レモ余カ言フ所ハ諧謔ノ過度

其此心ノ
用ニ於ケ
ルヲ論ス

諧謔ハ動
モスレハ
高貴ナル
品性ニ伴

ト失トニ在テ徒爲ノ諧謔ヲ云フノミ
又一方ニ就キテハ嬉笑ノ偏尙ハ吾人ノ性ニ於テ心意身體ノ保養ニ用
アリ此用ハ如何ニモ忽視ス可ラサル者ニテ是ニ依テ諸能力ニ輕快鮮
活ヲ供ス然ラサレハ人生ノ常套ソミニ疲倦スルニ至ルヘシ是猶音樂
ノ行進ノ兵卒ニ於ルカ如ク我カ精神ヲ清爽快活ナラシム又心腸ノ嬉
笑ハ猶藥餌ノ健康ヲ助クルカ如シ其慧敏ナル知覺ハ強キ管束ニハ堪
フ可ラサルニ非スシテ唯一層高キ勢力志尙ノ使役ニ給シ種々轉變急
遽ノ場裏ニ於テ其前頭ニ立タスシテ其後面ニ眞ノ位置ヲ占メタルハ
至大ナル福祥ノ一天稟トシテ視ルベキナリ
世人多ク賢智ト遲重ト必ス一種ノ連絡アリト云フ說ヲ固守スト雖
モ恐ラクハ必ス相待ノ連絡アルニ非ス嬉笑ヲ好ミ嬉笑ヲ挑ム人ハ必
愚人ナリト謂フ可ラス然レモ動モスレハ有リ得ルコトノ如ク世間ニ

フヲ論ス

笑謔ハ愚
昧ヲ改良
スルノ器
具タルヲ
論ス

廣ク涉リ怪異ナル事不恰合ナル事痴呆ナル事妄誕ナル事凡ヘテ此等
ノ事ヲ見テ笑フヘシト爲サハ人アリ是正シク感性ナシヤト疑フニ
足ルコトアリ然ルニ笑謔ハ人ノ心ニ在ル品性ノ最第一ナル者ニ非レ
モ種々ナル他ノ才能ト常ニ相伴フ者ニテ多才上智ノ確然タル明證ト
シテ視ルヘシ其中ニモ詩ノ大家說術ノ大家歴世ノ政治家ハ多ク諧謔
ヲ好ミタリト云ヘルハ正シク言ヒ得タル言ト謂フヘシ
此論題ナル能力ニハ一切要ノ用アリ是余カ未タ指授セサル所ナリ余
カ指ス所ハ其勢力ハ以テ器具トナスヘキニ在リソレ人素ヨリ高邁ナ
ル道理ヲ本トシテ己ヲ管束スルナキ者ハ唯社會ノ稱譽ヲ以テ其目的
トシ世間ノ視察衆人ノ指目ニ因リテ弄笑侮視ヲ蒙ラムコトヲ恐ルハ
ニ過キス故ニ此等ノ人ニ在リテハ之ヲ器具トナシテ其愚ヲ戒シム其
惡ヲ警シム可レハナリ蓋此等ノ人其數固ヨリ衆多ニシテ此等ノ人ニ

士德尼
梭美斯ノ
表章ヲ舉
ク

在リテハ世間ノ笑ヒ畏ルヘシト云フ一訣ハ神威人法ヨリモ一層力アリ、一層怖ルヘキ者タリ且ツレハ人ニハ道德上ノ短處ト不恰合ナル事ハ、輕淺ナレバ多キ者ニテ善人且ツ免レサル所ナルニ是ニハ嘲笑ト云フ者、眞ニ效力ノ大ナル攻具タルヲヤ
余、吾人心性上ノ此部分ニ就キテハ士德尼梭美斯ノ妥當ナル表章ヲ援用スルニ非レハ吾カ指授ヲ結フ能ハス、是梭美斯ハ自己亦、近世慧敏ナル諧家ノ一ナレハナリ、其言ニ云ク
余既ニ諧諷ノ危害アルヲ論シタリ、然レモ是ニ依リテ諸能力ハ危害アレハトテ悉ク概シテ、一切ニ開戰宣告ヲナスニハ非ス、諧諷モ固ヨリ危害ナリトシ、雄辯モ危害ナリ、視察ニ長シタル材能モ亦危害ナリ、何事ニテモ、其品性トシテ精力ト氣力トヲ有スル者ハ危害ナラサルハ莫シ、然ラハ中庸ヨリ外ニハ安全ナル者、莫カルヘシ云々、然レモ其諧諷ナル者モ、

感性ト知識ト相合シタル時、善意ニテ温和ナラシメ、嚴規ニ本ツキテ控制シタル時、又之ヲ用キ、若クハ捨ツルコトヲ知リタル人ノ手裏ニ在ル時、又能ク諧諷ヲモナシ、諧諷ヨリモ、一層善キ事ヲ爲シ得ル人ニ存スル時、又其人タル、廉潔、正義、禮節、善良、道德、教門ヲ愛敬シ、諧諷ヨリ萬倍モ善キ事ヲ尊フ人ニ存スル時、此ノ若キ時ハ、諧諷ナル者、吾人性中ノ美妙至樂ナル部分ナリト

第三章 新珍奇異ノ享樂

不恰好ヲ見テ發シ、嬉笑ノ感動ヲ伴フ驚愕ノ形狀ニ就キテハ、余既ニ其情ヲ論スルニ方リ、之ヲ説クノ機ヲ得タリ、今余カ將ニ説カムト欲スル所ハ、一般ナル驚愕ノ感動ニ就キテ、其性質ト發スル機會ト并ニ又、是ト相反對シタル感動ニテ、善語ナキニ因リテ、姑ラク厭倦ト名クル者トナリ

驚愕ト厭
倦トヲ論
ス

驚愕ノ定義并ニ性質ヲ論ス

驚愕ノ感動タルヤ、何ニテモ、新奇ナル物ヲ知覺スルニ因リテ、提發セラ
ル、者ナリト、定義ヲ立ルコトヲ得ヘシ、此情ハ、是ノミニテ、論スレハ、寧
ロ、快爽ナル部ニ屬シ、其反體ニ屬セス、故ニ、諸種ト、新鮮トハ、常ニ心ヲ愉
ハシメ、人性ハ之ヲ好ミ、此ノ如キ事ノ、發起スル時ハ、愉悅スル者ナリ、而
テ、百事一律ニ出テ、線條ノ絶エサルカ如ク、平素反復スル、本分常套ニ至
テハ、疲困ヲ發シ、時ヲ歴テ、我カ不快ヲ生スル者ナリ、此ノ如キ、懣懣心ヲ
用井サル時ニ、方リ、不意ニ、新事件發リ、或ハ、友人ノ來訪、或ハ、曾テ期セサ
ル報知ヲ受ル等ノ如キハ、皆快爽ナル、驚喜ヲ發ス、蓋シ、歴世ヲ貫キ、萬國ニ
涉リ、人性ノ新事物ヲ、視聽スルニ、熱ナルハ、皆之カ爲ナリ、然レ、唯其新
事件、若クハ、新報知タル、切實ニ、惡事タル時、或ハ、實事ニテモ、想像ニテモ、
其新聞、不幸ニ屬スル時、或ハ、現在ニ艱難ニ遭ヒ、或ハ、未來ノ艱險ヲ、恐ル
、時、此ノ如キ時ハ、其事件ノ發シタル、直接當然ノ效驗ハ、其驚動、痛苦ノ

其提起セラル、如何ヲ論ス

情トナルナリ、又加旃、此ノ如キ時ニ當テハ、譬ヘハ、朋友ノ死没トカ、同人
ノ厄難トカ、其惡報ヲ得ルニ方リ、此心、初頭感動シタル時ハ、其瞬間ニ、快
樂ノ性中ニ、痛苦ヲ混シタリヤ、否ヤ、我ハ全ク之ヲ覺エサルナリ、然ルニ、
此時、我深ク、其事件ヲ憂フト、雖、其新報ヲ得タルハ、喜フヘキナリ、其事
ハ、我ヲシテ、悲憂セシムル、其事ヲ聽キタルヲ、悲憂スルニハ、非ス、故ニ、
我カ痛苦ヲナス者ハ、驚愕ニハ、非スシテ、我ヲ驚愕セシメタル事件ナリ、
故ニ曰ク、驚愕ハ、心上感發ノ、他ノ諸形狀ト同シク、驚愕ノミニテ、且其正
當ナル疆域内ニ、限リテハ、不快ナル者ニ、非スシテ、其反體タリ、
此情ハ、既ニ述ヘタル如ク、前兆セサル、意外ノ事ヲ見テ、挑起セラレハ、ナ
リ、吾人、率テ、總ヘテノ事ニ就キテ、其事ノ未來ノ流路ハ、如何ト、稍前路
テ、之ヲ前兆スルコト、當然ナリ、故ニ、其事ハ、實ニ、過去ノ如クナルヘシト、
豫定シ、期スルニ、屢、尋常起リシ事ノ復起スルヲ以テス、然ルニ、其事件ノ

怪異トハ
異ナルヲ
論ス

駭愕ト異
ナルヲ論
ス
此本元ノ

起ル此一定ノ次序ニ戻ルコトアレハ其效驗ノ常軌ニ斷絶ヲ生スルカ
故ニ吾人驚愕ヲ發スルナリ
驚愕ハ怪異ト異ナリ怪異ハ此心其新奇ナル現象ニ就キテ自ラ其源由
ヲ知り當然ノ解釋ヲ得ムト欲スルノ努力ニシテ靈智上ノ元行ヲ含メ
リ驚愕ハ純然タル感性ノ事感動ノミニテ靈智ニハ關セス此情ノ興リ
タル時ハ此心全ク受動タルノミ此情ヨリ或ル行爲ヲ發スルハ他ノ諸
情ノ如シト雖他ノ諸情ト同シク此情ノミニテハ唯此心ヲ攪動セラ
レタル響動ノミニシテ依テ以テ他ヲ攪動スル者ニ非ス故ニ受性ニテ
受ケタル者ニテ能動性ニテ他ヲ動カス者ニ非ルナリ
是又駭愕トハ異ナリ駭愕ハ心ノ感發ノ高度ヲ表シ極メテ較著怪異ナ
ル事件又ハ其洪大切要ノ我カ心ニ滿溢スル物體ヲ見テ發スル者ナリ
吾人ノ性中此預備ヲ以テ成功スヘキ目的ハ十分ニ較著ナリトス是ニ

爲ニスル
所ヲ論ス

反對スル
感動ヲ論
ス

因リテ我カ注意ヲ何ニテモ平常ノ流道ヨリ外レタル者ニ喚起スルニ
テ其事物非常タルヨリ此境遇ニテハ注意ヲ要スヘシト定メタルナリ
依リテ以テ吾人接近スル危害ニ抗シ我ヲ護衛ニ置キ或ハ現ニ起ル急
遽ニ應スヘク疎動セララルナリ故ニ驚愕ハ報急ノ鐘ニテ我カ全力ヲ
喚起シテ行爲ニ就カシメ少クモ如何ナル用事ヲ要スル正是カ爲ニ預
備シテ在ルヘシト警戒スル者ナリ又此同一ナル本元ハ人生ノ平常事
務ニモカヲ陳スル爲ニ刺激ヲ起スノ用ヲナシ吾人ハ新ラシキ事ヲ求
メ舊キ事ニハ倦厭スル者ナリ此我カ性中ノ單純ナル理法ハ屢努力ニ
至強ナル衝動ヲ發スルノ一タリ
驚愕ノ反對ハカノ舒暢ナラサル感動ニシテ吾人同一物ノ變化ナク陸
續相繼キテ復起スル時ハ乃意識ニ供スル所ナリ譬ヘハ同一音若クハ
同一調ヲ續キテ反復スルカ如ク又山水ニテ同一物ノ陸續一致シテ相

繼少如キ等ノ時ナリ又極メテ直平ノ路程ニテ間ニ同一物同距離ニ相
 連リ何一ツモ其地形ノ千里一様ノ死景ヲ破ルコトナキ處ニ於テハ其
 倦厭スルコト幾何ソヤ是誰ニテモ知ル所ナリ此ノ如キ時ハ亞伯士ノ
 峻嶒タル山徑ハ之ト交換シテ身體ニモ心意ニモ減痛ノ藥劑タルヘシ
 歌曲ノ如キ樂譜ノ如キ如何ニ好ム所タリト雖モ同一譜曲ヲ反復スレ
 ハ時ヲ歷テ堪フ可ラサルヲ覺ユ此論題ナル感動ヲ精密ニ表言スルニ
 我カ本語ニ於テハ孰レノ語カ能之ニ適當セリヤ余未ダ確知セサルヲ以テ
 好語ノ缺タルカ爲ニ此ニハ佛朗西語ヨリ借リテアンヌウ^ル倦ト云
 フ稍表言スルニ足ル語ニテ感性中此形狀ヲ徴シ得ルナリ
 此感動ハ吾人ノ天稟ニ於テ性情健康ノ爲ニ貴重ナル目的ニ資スルコ
 トハ疑フヘキニ非ス是行爲ニ刺激動機ヲ假ス所ノ要具ニシテ之ナキ
 時ハ吾人屢淡漠ナル懶惰ニ陥リ事物ハ其存スル如ク存スルナリト安

厭倦ノ用
ヲ論ス

心シテ少シニテモ貴重良貴ナル方ニ進衛スルノ意莫カルヘシ

第四章 美妙高妙ノ享樂

美妙ノ觀念ト此心之ヲ認識スルノ作用トニ就キテ其靈智ノ能力ニ關
 スル部分耳ニ於テハ余既ニ之ヲ他ノ連絡ヲ以テ論シタリ然ルニ美妙
 ノ響動ヲ被ムル者ハ靈智ノミニ非ス覺性ノ知覺スル所雅趣辨決ノ認
 識シテ善ニスル所ハ感性モ速ニ之ヲ感シテ其情依リテ以テ提醒セラレ
 其天然タルト人工タルトニ論ナク美妙ナル物ヲ知覺スルニ及ヒテハ
 吾人直ニ快樂ノ活潑ナル感覺意識ニ供スルヲ覺ユ而シテ其感動ノ強
 シ且一般ナルハ多クノ著家其美妙ヲ以テ直ニ情ト視做シ唯之ヲ主觀
 ノ物トシ徒ニ感動ノ事トナシテ論スル者アルニ至レリ此見解ノ正シ
 カラサルハ既ニ論破シタル所ナレハ更メテ講究ニ入ルヲ要セス
 美妙ヲ知覺シテ提醒セラレタル感動モ亦他ノ意識ニ供スル感動ニ同

此享樂ハ
靈智上美
妙ノ知覺
ヨリ異ナ
ルヲ論ス

驚歎ナル

シケレト亦精密ニ之ヲ徴スル名目ナシ故ニ或著者ハ論題ナル感動ヲ
 徴スル爲ニ美妙ノ情ト云ヘル語ヲ用非タレト是ハ其意泛然含糊ニ屬
 シテ論駁スヘキ者タリ唯驚歎ト云フ語縱稍廣キ意味ニ用非來レリト
 雖ト我カ本語ニテハ他ノ語ヨリモ余カ指ス感動ヲ表言スルニ蓋一層
 近カルヘシ吾人ハ新奇ナル物ニ於テ驚愕シ美妙高妙ナル者ニ於テ驚
 歎ス此感動ハ觀察ニ供シタル物體我ニ取リテ新奇ナル時我ニ取リテ
 稀世尤物ノ一タル時純然無雜ノ快樂ヲ興起シ混スルニ多少怪異驚愕
 ノ情ヲ以テスルノ一ナリ而シテカノ美妙ナル者ハ其反對ニ醜陋穢惡
 アルカ如ク美妙ノ提醒スル情モ亦反對シタル情ト並ヒ立テ名ツケテ
 厭惡ト云フナリ

此情直ニ
 發スルヤ
 否ヤヲ論

美妙高妙ニ依リテ挑發セラレタル情ハ直ニ發スルカ又ハ省察ニ因ル
 カ其物體ヲ知覺スレハ忽ニ迸出スルカ又ハ唯省察論辨ノ效タルカト

ス

是頗議論ニ涉ル問題ナリカノ美妙ヲ以テ利用ノ中ニ存シ次序ト均稱
 トノ中ニ存シ合當ノ中ニ存シ差異中ノ合一ニ存スル等ノ說ヲ固守ス
 ヲ人ニ在リテハ之ニ依リテ提起セラレタル情ヲ視テ直ニ發スル者ト
 ナサハル可キハ當然ナリ蓋此諸說ニ從ヘハ初頭先其物體ハ利用ナリ
 ヤ否ヤ等ト自ラ的證ヲ視ルマテ之ヲ曉解スルノ時間ヲ要ス可レハナリ
 故ニ此說ニテハ美妙ヲ成ス形質ハ未ダ情ノ生セサル前ニ其物體中ニ存
 スルヤト先心ヲ以テ之ヲ曉悟セサルヲ得ス是乃省察ノ事ナリトス然
 レト美妙ヲシテ視ルヘキ觸ルヘキ形體中ノ視ル可ラサル精神ノ表象
 タリトセハ則此情ヲ生スル爲ニ要スヘキ者ハ唯其表象ヲ具ヘタル物
 體ノ知覺ニ止ル耳蓋其物體ヲ知覺スル瞬間ニハ其知覺中ニ既ニ一ノ
 表象アルヲ知覺シテ其儘我カ自己精神上ノ性ニ懇觸スレハ直ニ其情
 ヲ發生スレハナリ

何如カ之ヲ決定スヘキノ疑問

此疑問ハ、其事實ヲ視察シテ決定セサル可ラスシテ、其效力ニ因リテ上ニ舉タル美妙ノ、一般見解中ニ就キテ彼此ノ一ヲ善シトシ、以テ論證ヲ加ヘ示スニ至ルヘシ、果シテ然ラハ、其時例ニ當リ、意識ニ供シ、視察ニ觸レタル事實ハ、何ソヤ

意識ノ證ヲ論ス

余ガ意識ニ省シテ、辨決シ得ル所ニテハ、吾人一ノ美妙ナル物體前ニ、自ラ至ルニ及ヒテハ、快樂ノ情、直ニ勃興シテ、意識ニ供スルヲ覺ユ、此時、其物體ニ就キテ、彼此利用ノ目的ニ適合セリヤ、其造構ニ於テ、次序ト、均稱ノ例規ヲ遵守セリヤ等ヲ、發見スル爲ニ、預メ、胸臆ニ横ハル、議論アルナシ、未此物ニ就キテ、思慮スルノ暇アラサルニ、其美妙ノ、常ニ吾カ感動性ニ、惣觸スル所ニ、此感性ハ、既ニ應發シテ、吾カ意識ニ現ハル、初頭別個ノ事實ハ、乃チ快樂ノ情ナリ

反覆ノ效

且ツレ、其快樂ハ、初頭、其美妙ナル物ヲ見タル時、全ク活潑ニシテ、爾後之

驗ヲ論ス

ヲ視ルヨリモ、勝レルヲ常トス、是亦、意識ノ我ニ示ス者ニシテ、亦以テ、省察ノ功ナラサルヲ、視ルニ足レリ、蓋シ其實、反復ハ、情ノ力ヲ減スルト、見ユルコト多クシテ、常習トナルニ至リテハ、却テ其美妙ヲ、敗ルコトアルヲヤ、然レトモ、之ヲ反復スル毎ニ、我ノ視察ト、省察トハ、愈、其機ヲ得テ、以テ其視ル物ニ就キテ、利用、次序、合當、均稱等ノ的證ヲ、得ルノ力ヲ、強クスルニ至ルハ、何ソヤ

情ニ次ク辨拆上ノ省察ヲ論ス

且ツレ、辨拆ニ類スル省察ハ、其何事タルニ拘ハラズ、我カ意ノ之ク所ニ任セ、之ヲ選ビ得ルニ、恒ニ必、快樂喜悅ノ情、初頭ニ發シ、其物ノ美妙ニ因リテ、我ヲ動カシタル、第一ノ印象ノ後ニ、繼ク者ナリ、故ニ是、初頭ノ印象ヨリ、容易ニ區別スヘキ、後按ナルコト、明ナリ、又其省察ハ、此物ニ就キテ、我ヲ訓フル一種別ノ、執意ノ效驗タルコト、恒ナレ、情ハ、自由ニシテ、無意ナルコト、亦明ナリ、然ルニ、其快樂ハ、辨拆シテ、指示シタル形質ヲ、知覺

其他ノ問
題ヲ擧ク

スルヨリ發スルコトモアルコト亦疑ナシト雖也、是其美妙ヲ觀テ、其
儘發スル快樂トハ、一種他ノ快樂ナリトス、此ノ如クナレハ、美妙ニ因リ
テ、提醒セラレタル情ハ、直チナル者ニシテ、省察ノ功ナラスト、謂ハサル可
ラサルナリ
前論ト密ニ相接シテ、孰レカ先メツト、云フ問題アリ、是美妙ナル物體ノ提
醒シタル情ハ、辨決ニ先メツカ、又ハ、此物體ハ、美妙ナリトスル、此心ノ辨
決情ニ先メツカト、云フ疑問ナリ、致知學上ニテ論スレハ、此二事ノ區別
シ得ヘキハ、疑ナシト雖也、恐ラクハ、時ノ先後ヲ以テ論ス可ラス、其物體
知覺ニ供スルニ及ヒテハ、美妙ナリト、知覺モ爲シ、感動モ起ルナリ、故ニ、
是ハ美妙ナリト、情ノ發スルト、又心ニテ肯定スルトハ、兩ナカラ、物體ヲ
知覺スル上ニ、直チニ發スル者ニテ、少クモ時ヲ目的トシテ、其間ノ區別ヲ
立ルニハ、吾人ノ能ニ堪フル所ニテハ、之ヲ同時ノ事件ト謂ハサルヲ得

致知學ニ
テハ情ノ
先ツテ論
ス

余以謂ヘラク、致知學上ノ關係ヨリ觀レハ、情ニ首坐ヲ許スヘキナリ、是
韓圖ノ如キ達識モ、猶此反對ニ決定セリト雖也、然ラサルヲ得サル者ア
リ、吾人美妙ヲ觀テ、情ノ發スルコトナキ時ハ、其美妙タルヲ知ラサルヘ
シ、ソレ、一般ニ論シテモ、感覺ハ、知覺ニ少ク可ラサルノ約束トシ、致知學
ニテ論シテ、少クモ情ハ、知覺ノ前唱タレハ、美妙ノ感動ハ、美妙ノ知覺ニ、
約束根本タリト、謂ハサル可ラス、其物體我ヲ然ル者ナリト驚カシ、我ヲ
動カシ、我ヲ攪動シ、我ニ印象ヲ生シ、而シテ後ニ、我之ヲ美妙タリト言フ、
若美妙ヲ觀テ、情ノ受性ナシトセハ、一ノ美妙タリト、云フ物アル時ニ、我
ハ、其知覺ヲ有スルカ、又ハ、其情ヲ發シタルカト、甚シキ論争ニ至ルヘキ
ナリ

美妙ト高

又他ノ注意スルニ、足レル一項アリ、美妙學上ノ情ヲ講究スルニ於テ、余

妙トノ區
別ヲ論ス

唯度ニ於
テ異ナル
説ヲ論ス

各自ニ別
ナル情ヲ
喚起スル
ヲ論ス

今マテハ、唯美妙ニテ、提醒セラレタル感動ノミヲ論シタリ、此情ノ異ナル所、何如、是唯度ニ於テ、異ナルカ、ハタ、其性ニ於テ、異ナルカ、或人ハ、高妙ハ、唯吾人、美妙ト呼フ者ノ、度ノ高キ者ノミト、云ヘリ、譬ヘハ、一溪流アリテ、丘嶽間ニ縈洄シ、巉巖ニ觸レテ、磷々タルハ、美妙ナリトシ、而テ、稍尙其他ニ流レテ、漸ク浩蕩トナリ、漸ク奔流トナリ、漸ク激浪トナレハ、高妙トナルト、若此説、果シテ、然ラムカ、是實ニ、容易ノ事トス、量地家ノ連鎖アリテ、加フルニ、十尺許ノ桿、概ヲ以テセハ、何時ニ限ラス、吾人ニ其差異ヲ示シ、以テ我ヲシテ、其川河若クハ、山嶽ノ、唯美好ニ屬スルカ、若クハ、高妙ニ屬スルカ、一次ニシテ、之ヲ定ムルニ、足ラシムヘシ、然ルニ、若ク、其差異、其種類ニ於テシテ、徒ニ度量ニ於テノミナラストセハ、其異ナル所ノ如何ヲ、正シク述ルコト、其ノ如ク、容易ナラサルヘシ、吾人之ヲ能睇視スルハ、恐ラクハ、兩種ノ物體ニヨリ、我ニ喚起スル情ノ差異

高妙ハ、勢
力ノ勝レ
ル觀念ヲ
呈スルヲ

ヲ、細心ニ、視察スルニ在リ、余一物ヲ觀察シテ、總ヘテ世間舉リテ、共ニ之ヲ呼ビテ、美妙トナス時ハ、此物、我ニ、何如ナル情ヲ、提醒スルカ、此時、余カ、驗ミ得ル情ハ、快樂愉悅ニシテ、恐ラクハ、驚歎ト云フノ外、別名ナカルヘシ、而シテ、余乃、人ノ高妙ト名クル、他ノ一物ヲ觀ハ、余カ情ハ、果シテ、何如、此時亦、驚歎ノ情アルヲ知ル、然、前時ノ如ク、靜閑和煦ノ、愉悅ナラスシテ、迥カニ異ナル所アリ、此時ハ、其驚歎ニ混スルニ、畏敬ヲ以テシ、其物體ノ、浩大盛壯ノ意、我ヲ壓シテ、余ハ、一ノ上等ナル體、若クハ、本尊ノ前ニ立ツカ、如ク、其面前ニ在リテハ、余、吾カ、麼、謙、劣、較スルニ、足ラサルヲ、覺ユルナリ、是故ニ、人ノ高妙ト、呼ビ、傲ス物體ハ、此ノ如キ情ヲ、興起スルニ、適スル者タルハ、不易ナルヲ、見ルナリ、是即、力ノ勝レ、勢ノ優レ、ルヲ、呈スル物體ニテ、或ハ、其體ノ、巨大浩蕩タルニ在リ、或ハ、其勢ノ、雄偉峻拔ナルニ在リ、或

ハ吾人知識ノ外ニ出テ管束ノ及ハサル所ニシテ其廣大津涯ナキニ在
 リ大洋ノ浩瀚ナル沙漠ノ無邊ナル草野ノ沙漠タル山嶽ノ巍峨崔嵬タ
 ル瀑布ノ湍激磅礴タル雷吼ノ殷々怖ルヘキ天地震動霹靂擊クカ若キ
 海嘯ノ凜然駭クヘキ風雨晦冥怒濤崩ルカ若キ三軍ノ戰野ニ臨ミ令
 嚴ニ法明ニ進退運轉肅トシテ威武ノ揚ルカ若キ凡此數ノ者并ニ此等
 ノ者ハ吾人高妙ト呼フ物體ナリ其小ナル者ハ美妙タリト雖凡曾テ高
 妙タルコトナシ又唯巨大ナル者ハ必高妙ナルニモ非ス必ヤ其物タル
 勢優リ力勝ルノ觀念ヲ表シテ始メテ可ナリ孟多摩稜西ノ下加拿他ハ美
 妙ト謂フヘク那伊亞加羅ハ高妙ト謂フヘシ瑞士ノ山間丘壑ノ中鳥籠
 啾鳴スルハ美妙ト謂フヘク其連峰大嶽半腹ニ懸ル白雲ヲ貫キ蒼然タ
 ル天穹ニ盪拔シ其勢ノ雄偉宏大寂然タリ巖然タル者脚下ノ褊促ナル
 世界ヲ睥睨シ人類ト其事務ノ齷齪タルヲ悲視スルカ若キアルハ高妙

高妙ト美
 妙ト相伴
 フヲ論ス

ナリト謂フヘシ

又高妙ハ必美妙ト相伴ハサル者ニハ非ス那伊亞加羅ノ若キハ其美妙
 ヨリモ一層高妙ナリト謂フ可ラス其水ノ下注スル深翡翠ノ流ルカ
 如ク霧ヲ起シ雨ヲ灑キ五彩ノ虹其中空ニ現ハレ玉ヲ碎キ珠ヲ迸ラシ
 テ深淵ニ風ヤタルカ如キハ天地間美妙ノ最タル一ナリ故ニ高妙ト美
 妙トハ其元行異ナリト雖凡此ノ如ク屢混成スル者ニシテ同一物ノ中
 ニ結合スルコトアリ而テ至高ナル美妙學上ノ效驗ハ此結合ヨリ生シ
 美妙ハ其高キヲ調和シ高妙ハ其美ヲ高メ其品質ヲ貴カラシムル者ナ
 リ那伊亞加羅ハ蓋シ之ヲ專有シ又亞伯士雪嶺ノ曉陽ニ映シタルモ亦
 之ヲ專有ス

美妙ハ靜
 慰シ高妙
 ハ竦動ス

美妙ハ我ヲシテ意ニ協ハシムレ凡高妙ハ一ノ意味ニテハ此ノ如クナ
 ラス兩ナカラ快活ナル情ヲ生スレ凡兩ナカラ互ニ相異ナル者アリ故

ルヲ論ス

ニ美妙ノ享樂ニ於テハ、安靜沖漠ナル樂アリ、此心モ平穩ニシテ、擾動セ
ラル、コトナク、間逸ヲ得、而シテ、其我ヲシテ、樂マシムル物ノ、精微嫺雅
ナルハ、我カ趣味ニ因リテ、之ヲ驚歎セシムルナリ、然ルニ、美妙ノ知覺ニ
至リテハ、是全ク別ニシテ、此心爲ニ竦動セラレ、其猛烈ナル形質ト、同感
ヲ發シ、之ニ激挑セラレ、之ト雄健ヲ競ヒ、而シテ、其觀察スル物ノ、莊大雄
拔ニシテ、嚴然動カス可ラサル所ニ、壓服セラレ、我ノ比較ニ於テ、謏劣及
フ可ラサルノ、感動ヲ生スルナリ、是ヲ以テ、美妙ハ唯美妙ヨリモ、深ク此
心ヲ把束シ、之ヲ威服セシメ、之ヲ拔興シ、其懶力惰氣ヲ鼓舞シ、思慮ノ遲
鈍ヲ發揮シ、能之ヲシテ、活潑ナラシメテ、平素等閑ノ日月ヲ、瞬間ニ經過
セシムルノ情思アリ、故ニ、美妙ハ、能我ヲ迷眩シ、能我ヲ慰撫ス、美妙ハ、我
ヲ克制シ、我ヲ捕虜ス、其一ハ、我ニ、同感ト、愛情トヲ起シ、其一ハ、吾人ノ性
中、高貴、嚴肅、浩大ナル者ヲ、提發スルナリ

高妙ト、恐
懼トノ關
係ヲ論ス

高妙ト、恐懼トノ關係ハ、諸家ノ表章セル所ナリ、フロイデ河德拉孫安西論、カント韓圖猶
佛魯哇、不列伊爾、之ヲ論シ、又波爾加モ、之ヲ云ヘリ、波爾加ノ恐懼ヲ以テ、
高妙ノ元行トセル考定ハ、正說ヨリ、甚遠キニ非ス、唯之ヲ恐懼ト言フヨ、
リモ、畏懼ト言フノ、妥當ナルニ、如カスシテ、畏懼ハ、其心勇猛剛暴ナル者
ト雖モ、十分之ヲ感受スルコトアレハナリ、又此畏懼ヲ以テ、高妙ナル物、
自己ノ元行トスルヨリモ、高妙ヲ觀テ、發スル情ノ、元行トスルニハ、如カ
サルナリ

美妙學上
ノ感性ヲ
培養スル
ヲ論ス

余、此章ノ連絡ニ於テ、一論題ヲ、表章セスシテハ、全ク通過スルコト能ハ
ス、是余、此書ノ紙中ニ、叙述スルヨリモ、甚細心ノ講論ヲ、要スル者ニテ、即、
美妙學上ノ、感性ヲ培養シ、美妙ノ愛ヲ、習學スルノ事ナリ
美妙ノ愛ハ、唯感性ノ、多般形狀中ノ、一ニシテ、吾人性中ノ、他ノ、感動、偏尙
ト、相通シテ、共ニ培養習熟ニ、因テ、至高ノ度マテ、之ヲ太ク、之ヲ速カニシ、

此培養ヲ
慢ニシタ
ルヲ論ス

之ヲ強クスルコトヲ得ヘシ、是元來、性中ノ天賦ナレド、亦猶他ノ生來ノ
 天賦ノ如ク、之カ教育ヲ慢ニシテ、枯死スルニ至ラシムヘシ、此事不幸ニ
 シテ、世人ノ上ニ於テ、屢例アル所ニテ、カノ營生ノ汲々タル事業ニ努力
 スルノ人ニ在リテ、殊ニ然リトス、此等ノ人ニ在リテハ、時間ト、注意トヲ、
 他ノ一層切要ナル事ニ、寄スルヲ以テ、唯徒ナル美妙ハ、之ヲ顧ルニ暇ア
 ラスシテ、經過セリ、此ノ如ク、雅趣ノ培養ト、美妙ノ眞愛トニ、意ヲ注セサ
 ルハ、我カ教育ノ制規ニ於テ、甚シキ缺典タラサル莫キヲ得ムヤト、是疑
 問ニ供スル所ナリ、蓋、此ノ如キ培養ノ術ハ、恆ニ至近ニ存スルナリ、勿論、
 藝術上ノ大作物、及至完ノ模範ハ、衆人、悉ク就テ觀ルヘキニ非ス、誰ニテ
 モ羅畢埃拉、又兎歌兒、ミツケルアソシケル吉拉ノ、聖壁彩畫ヲ學フ爲ニ、海ニ航スルハ、得可
 ラサル所ナリ、然レド、天地間、我カ周匝ハ、吾人、日々ノ行路ニ沿ヒテ、悉ク、
 カノ至大ナル藝術者ノ大作タリ、故ニ、靈智ヲ具シ、思惟スル心意ニハ、此

此元理ノ
 貴重ナル
 フ論ス

美妙ヲ捨テ、視察セスシテ、可ナラムヤ、且又、或人ノ思ヘル如ク、此事ノ、
 過度ニ至ルハ、危害ナリト、豈此妄想アル可ムヤ、然レトモ、我カ世ト我カ
 邦トノ偏尙ハ、全ク是ニ反セリ
 ソレ、美妙ノ愛ハ、人生快樂ノ中、最純至美ノ根源タリ、是乃、神ノ我カ靈魂
 ヲ造リ、性ヲ成スニ方リ、賦スル所タリ、故ニ、天然ニシテ、既ニ、其基礎ヲ、夙
 歲ノ開發ニ具ヘ、兒童モ、自然ニ、美妙ヲ愛スルヲ知ル、而シテ、此理ノ開發
 ニ、自然定則アルハ、獨夙歲ニ於ル耳ナラス、其境遇ノ幸ヲ得ルニ及ヒテ
 ハ、却テ、此心、老熟ニ至リ、年月、推移スルニ從ヒ、此情愈、強ク、愈、活潑ニ至ル
 ナリ、カノ老年ニ及フトモ、其心裏ニ、少時純美ノ源ヲ、保存シテ、能活潑ナ
 ラシメ、日月既ニ逝キ、形影相憐ニ、覺性、漸ク鈍クナルノ時ニ方リ、猶兒童
 ノ歎美娛樂ヲ以テ、天造若クハ、人工ノ諸作中ニ、眞ノ美妙ヲ、看取シ得ル
 人ニ在リテハ、嗚呼、亦、幸福ナリト、謂ハサル可ムヤ

第五章 躬行ノ正直ナルニ於テノ自得、悖戾ナルニ於テノ悔恨

正直ノ感動ヲ、其知覺ヨリ區別スルヲ論ス

正直ノ觀念認識ヲ論シタル篇ニ於テハ、其正直ノ念ヲ其念ノミニテ論シ、且又此心ノ其正直ヲ認識スル作用ヲ舉ケ、少クモ其作用ノ靈智上ノ能力ニ關スル限ハ十分ニ之ヲ講究シタリ、故ニ是再此論題ノ講究ニ入ルヲ要セサルナリ、然ルニ、美妙ノ認識ニ於ケル如ク、正直ノ認識ニ於テモ、徒ニ智ノミヲ運用スルニ非ス、感性モ亦之カ爲ニ發スルナリ、故ニ智ノ知覺スルニ次キテ、情、提、醒セラル、而シテ、此情亦定形ヲ具シテ、其力甚強ク、其運用モ亦奇異ナリトス、凡人ノ心腸ヲ攪動スル情ニ就キテ、其發生ノ一致ナル、其品性ノ甚較著ナル、其人生ノ禍福ニ、深徹永久ノ響動ヲ起ス者ハ、自身行ノ徳義ニ協ヒ、福祥以テ、年所ヲ歴タルヲ、内省シテ、疚シカラサルト、又相反シテ、從前ノ失行愚頑ヲ省ミ、悔恨ヲ生シ、懃痛ヲ作スノ

二ツヨリ、甚シキハ莫シ、蓋、人生ハ、諸種駁雜ノ場地、道途ヲ、歴ル者ニテ、其中、喜憂ノ情、消長明暗ヲ相ナスノ形狀、諸種一ナラスト、雖、中ニ就テ、性理學者ニ在リテハ、此道德ニ關スル情ヲ、外ニシテ、他ニ一モ、深ク切要タル者ナク、余カ、玆ニ指ス所ノ情ヲ、措キテハ、其細心ノ講論ヲ、要スルニ、足ル者ナシ

道德ノ能力ハ、道德ノ感動ト、混一ス可ラサルヲ論ス

或、著家ニ至リテハ、人性中、此部分ノ、殊ニ切要タルカ爲ニ、深ク之ニ感シ、竟ニ、所謂道德上ノ能力、即、是非ノ心ヲ以テ、此論題ナル情ノ中ニ混一シ、是非ノ認識ハ、到底、唯此感動ノ事タリトシテ、少シモ、疑ハサルニ至レリ、此說ハ、道德學上ヨリ、視テモ、又、性理學上ヨリ、視テモ、大ナル、謬見タルコト、疑ナシ、是、道德上ニ就キテモ、性理學上ニ就キテモ、孰レニテモ、眞ノ科學ニ在リテハ、害タルコト、少カラス、正ト邪ト、并ニ、美妙ト、其反體トハ、徒ニ、人心ノ理會タル者ニハ、非ス、此等ノ者ハ、皆客觀上、現實ノ存在ヲ、有スル

我自己ニ
ノミ限ラ
サルヲ論

者ニシテ實在ナリトシ而シテ此心ハ其實在ノ儘ニ之ヲ認メ何コトモ一定ノ行事アレハ之ヲ正ナリ邪ナリト知覺シ又其實在ノ儘ニ從ヒテ義務アリ若クハ義務ナシトシ是ニ據リテ以テ其事業ト其事ヲ行ヒタル人トヲ善シ若クハ之ヲ罪スルナリ此事ノ智ニ關スルハ是ニ過キストス然ルニ其運用ハ茲ニ止ラスシテ依リテ以テ感性ヲ提起スルナリ此時辨決力ノ審判處決ハ平靜ナレモ感動ヲ以テ之ヲ受ケテ此心ノ發作ニ更ニ新形狀ヲ起シムルノ根源トナリ機會ヲ假スナリ余カ茲ニ論スル所ハ此正邪ヲ觀テ感性ノ發動スル事ニ在リテ固ヨリ吾人ノ道德上ノ知覺辨決ヲ以テ情ノ此種中ニ混一スルコト能ハサレモ然レモ此心ノ發用ノ諸形狀中ニテハ猶此情ニモ切要ナル地位ヲ歸スヘキナリ余カ述ル所ノ情ハ我自己ノ德行ノ事ニ耳關スルト限ルニ非ス又他人ノ德行ヲ觀テモ亦發スル所ニテ善行仁惠ノ事義俠奮勇ノ業ハ誰カ之

ス

獨知ノ善
ナルハ普
通ニ欲ス
ル所ノ目
的タルヲ
論ス

ヲ爲ストモ皆我カ稱美ニ屬シ我カ心腸ニ快樂ノ感動ヲ起サシメ若其事タル尋常ノ豪氣所有ヲ捐ツルノ舉ヨリ一層高キニ涉レハ吾人直ニ滿胸ヨリ驚歎スルナリ而シテ其相反スル事例アルニ當リテハ我カ不快厭惡ヲ生スルコト常ナリ是ヲ以テ此情ハ吾人歴史上ノ傳記ヲ閱シ稗史ノ紙葉ヲ繰ヘスニモ大ニ切要ナル者ニシテ我カ觀ル所ノ事件ノ始末品性ノ起發ト共ニ陸續トシテ此情流動シ我カ徳性ノ欲スル所ト或ハ一致シ或ハ支吾シテ以テ其趣ヲ成スナリ然レモ吾人此道德上ノ情ニ就キテ其眞個ノ性質ト勢力トヲ曉知シ得ルハ首トシテ吾人自其場裏ヲ踏ムノ人トナリ之ヲ獨知ニ判シテ自己ノ行實ノ善惡ヲ觀スルノ際ニ在リトス世ニ言ヘルコトアリ獨知ノ善ナルハ人ノ普ク欲スル所ナリト何トナレハ不善人サヘモ縱無益ニ屬スルモ獨知ニテ肯ニスル所ノ幸福ヲ願ハサル者無レハナリ此言獨知

ヲ罪スルハ、人ノ普ク、畏難スル所タリト云ハ、恐ラクハ、一層正シカル
 ヘシ、然ルニ、獨知ニテ、善ミスルモ、罪スルモ、孰ニテモ、此情ノ獨知ヲ、動カス
 ハ、人心ニ於テ、甚大ナル者ナリ
 吾人、凡ヘテ又、獨知ノ善ニ就キテ、知ルコトアリ、是、他人ノ觀察ヲ受ケテ、
 然ルニ非ス、我カ自己ノ内心中、意識ニ於テ、然ルナリ、我ノ躬行、之ヲ獨知ニ
 證シテ、善トシ、自靜ニ、思慮シテ、心ニ慊カラサルコト、無キニ至リテハ、此
 中ニ、我カ生ノ快樂中ノ、至樂至純ナル者アリテ、存スルナリ、是不意ノ毀
 譽媚嫉ノ、達スルコト、能ハサル處ニシテ、其泉ヲ定ムル所ノ、享樂ノ源々
 斷エサル者トシ、又、カノ沙漠ノ中ト雖モ、其荒涼寂寞ヲ、慰スル所ノ、噴泉
 トス、且又、此情、堪忍ノ力ヲ有シ、意識ニ正氣アリテ、危害ニ遭ヒ、抑壓ニ際
 スルノ瞬間ニ、在リト雖モ、内心ニハ、猶微聲ノ、我ヲ善ニスルアリテ、汝正
 ナリト、咕囁シ、以テ、我カ疲倦セル靈魂ヲ、扶助シテ、勇氣ヲ勵マシ、力ヲ戮

獨知ノ善
 キハ、堪忍
 カタルヲ
 論ス

ハスル者ニテ、是決シテ、他ノ源ヨリ、出ル者ニ非ス、此獎勵ニ依リテ、我カ
 靈魂ハ、痛苦ノ酷烈ト、外部艱難ノ抑壓トヲ、蟬脱シテ、其上ニ超然タリ、是
 怯者ヲシテ勇ニ、弱者ヲシテ、強ナラシムル、所以ニシテ、カノ耶蘇寺院、歷
 世ノ青史ニ表シテ、身ヲ殺シ、仁ヲ成シ、以テ光耀ヲ垂ル、所ノ、奮勇敢爲
 ノ秘密ハ、蓋、多ク此ニ存スルナリ、カノ婦女ノ若キ、兒童ノ若キ、其性脆弱
 ニシテ、世ノ公論ニ、敵スルハ、極メテ難ク、慘痛苦楚ノ事ハ、一思縮退スル
 ヲ、常トスル者ニ在リテ、千衆憤怒罵詈ノ中ニ立チテ、平心之ニ面シ、意ヲ
 決シテ、其至慘驚嚇スヘキ酷刑ニ遭ヒ、死ヲ見ルコト、歸スルカ如クナリ
 シハ、唯一片自善ミスルノ、獨知、其勢力ヲ以テ、之ヲ支柱シタリシナリ、蓋、
 此時ニ當リテ、其獨知ノ決斷ハ、此等ノ人ニ在リテ、世間ノ毀譽ヨリ重キ、
 亞伯士ノ如ク、其獨知ノ支柱力ハ、カノ預言者ノ火車ノ如ク、酷刑ノ苦楚
 ト、憤然タル人衆ノ激怒ヲ、超脱セシメテ、此等ノ人ヲ、其上ニ、卓然タラシ

メタルナリ

獨知ノ罪スル勢力モ亦輕キニ非ス其善セサルト依リテ以テ罪セラレ
トハ國王ノ盛額軍隊ノ接近ヨリモ一層怕ルヘキ者ニテ縱ビ外部ニ
威權アル表章ナシト雖モ默然トシテ恆ニ心裏ニ現ハレ是ヨリ道ル可
ラス又是ト和ス可ラス人生ノ幸福ヲ剝キテ人ヲ苦シメ靈魂固有ノ發
力神經ヲ切斷ス是猶骨中ノ火ノ如シ他人曾テ疑ハスト雖モ唯其責ニ
任スヘキ人ノミ其燒燬ヲ受ク是猶胸腹ノ間ニ帶セル芒刺ノ帶ノ如シ
他人ノ眼ヨリ視エサルコトアリ得ルト雖モ晝夜トナク佩ル者ヲシテ
追アキ休セサラシム獨知ノ人ヲ罪スルハ厲聲叱責スルニ非ス唯罪ア
ル靈魂ニ於テハ其内部深室ニ侵入シテ恆ニ之ヲ畏縮セシム其心ヲ震
動スルヤ怒獅ノ號吼シテ森林震動スルカ如ク又蒼溟淵湛ノ中ニ在リ
テカノ造物主颯風ノ翼ヲ張リ皇々タル上天雷霆ヲ鼓シテ海嶽ヲ震蕩

スルカ如シ不善ヲナスノ人獨知ノ罪スル聲ヲ聽ク時ハ勇猛ナリト雖
モ其體力忽チ萎靡消滅ス其心衆惡ニ因テ毀傷セラレ罪業ニ因テ堅實
ニナリ人目ヲ恐レズ天理ヲ畏レサル者其聲ヲ聞クニ及ヒテハ唯兒子
ノ心ノ如クナルナリ

嗚呼悔恨ノ恐ルヘキ此ノ如シ此虫ヤ死スルコトナク此火ヤ燼スルコ
トナシ吾人ハ人ノ靈魂ヲ論スル其現在ニ生存スル景況ノ外ハ之ヲ言
フコト能ハス然ルニ或自ラ信シテ疑ハサル者ハ未來ニ於テハ獨知ナ
ル者甚タ増加セル勢力ヲ以テ行動スヘシト云フ説ヲ執レリソレ現在
ニ於テ獨知ノ十全ナル開發ト完好ナル發作ヲ沮壓シテ之ニ叛カムト
謀ルノ因由既ニ消滅シテ行動スルコトナキ時ニ當リ其行進戰鬥ノ騷
亂既ニ經過シタル時ニ當リ其注意快樂誘惑無益ノ營求等總テ現在ニ
在テ紛混喧嘩ノ此心ヲ擾亂スル者縹渺ノ間ニ消滅シ去リ其聲響タモ

聞ク可ラサルノ、時ニ當リテ、カノ遠永靜寂ノ間、純然タル精神ノ存在ニ於テハ、恐ラクハ、未曾テ聞カサル、獨知ノ聲、猶微細ナリトモ、能之ヲ聞クコトヲ得ヘシ、今ソレ、吾人事務忽遑ノ、晝日間ニ在リテハ、間、遠洋ノ波動ヲ聞キ得ト雖、猶低聲喃々ノ咕嚕ノ如シ、然ルニ、中夜靜寂ノ時ニ至リ、萬事皆休ム時ニ方リテハ、其怒濤狂浪ノ、陸續トシテ、岸邊ヲ打ツヲ、聽クナリ、蓋未來ニ於テ、獨知ノ勢力ニ於ルモ、亦此ノ如キ歟

第二部 情款ヲ論ス

第一篇 善意ノ情款

感性ヲ區分スル、三種類、即チ、情緒、情款、并ニ、欲ノ中ニテ、今マテ、吾徒ノ意ヲ、注セシム、唯第一ノ者ノミ、故ニ、今ハ、第二ニ及フナリ、依テ、讀者ハ、余カ、感性ヲ分解シタル時ニ、情款ヲ、情緒ヨリ、區別シテ、組織セル品性ヲ、具ヘタリトシ、其物體ニ就テ、愉悅適意若クハ、其反對ノ感動ヲ、含ムカ上ニ、其

情款ヲ一
種トスル
品性ヲ論
ス

其區分何
如ヲ論ス

情ヲ挑發スル物體ノ、善ナラムヲ願ヒ、惡ナラムヲ欲シテ、多少定着甚切ナル形狀ヲ、表スル者タリト、言ヒシハ、正ニ記スヘキ所ナリ、是ヲ以テ、此感動ハ、自己ヨリ進行シテ、能動過向ノ形狀トナリ、或ハ、專ラ其物體ニ、注意スルヨリ、自己ヲ忘ル、コトアリ

此情款ハ、其向注スル物體ニ就テ、或ハ其善ヲ欲シ、或ハ其惡ヲ欲スルニ準シ、再ヒ之ヲ區別シテ、善意ト惡意トニナセシハ、亦讀ム者ノ、記スヘキ所ナリ、カノ情緒ノ若キ、多般ノ形狀ニ、分ルト雖、喜悅憂愁ノ變形タルニ過キサカ如ク、情款ニ至テモ、亦同シク、愛ト、其反對タル、惡トノ本元ノ、多般ニ變革シタルニ、過キサカ耳

此情、一個人ノ品性總體ヘ、氣韻ヲ假ス時ハ、其人、其中ノ一本元旺スルニ準シ、或ハ仁者トナリ、或ハ不仁者トナリ、或ハ溫柔懇篤ノ人トナリ、或ハ、同人ヲ厭惡スルノ人トナル

此情較著
ニ開發ス
ル時ハ、品
性ニ效驗

ヲ表スル
ヲ論ス

情緒トハ
關係ヲ論
ス

名目ヲ枚
舉ス

此中ノ包
含何如ヲ
論ス

對手ノ關
係ヨリ發
スルニ非
スト云フ
説ヲ論ス

此情款ノ發作、尋常ヨリ、一層深キニ至リ、理性ノ控勒ト、嚴正ナル辨決ノ誥命トヲ、破却シテ、直チニ、靈魂ノ令ニ從ヒ、之ヲ、其欲スル所ノ目的ニ、德通シテ、他ノ至高ナル切要ヲ、遺却セシムルニ及ヒテハ、情欲ノ名目ヲ冠スルニ至ル、此ノ如キ時ハ、其人、其欲スル所ヲ、遂ムトシテ、警突狂衝、至ラサル無ク、世ノ笑具トナリ、舟子ナキ船ノ、風濤ノ間ニ、漂然タルカ如シ、然ラサレハ、自己ト、此天然ニ心腸間ニ、固有スル情ト、相爭鬪シテ、其殘酷ヲ極メ、堅忍ノ手ヲ以テ、自己ノ騷擾炎焰ノ精神ヲ、把住スルニ至ル

此情款ハ、情中ノ一種類ニテ、情緒ト、相待ツ所ノ關係アリ、是一注意ヲ、要スルニ、足ル、此一種ノ情ハ、自然ニ、他ノ一種ニ、繼テ出テ、其情ヨリ、生長スルヲ常トス、故ニ、吾人、喜悅スル所ノ者ハ、自然ニ愛情ノ感動ヲ以テ、之ヲ視、其痛苦ヲ起ス者ハ、自然ニ好マサルヨリ、厭惡スルニ至ル、是ヲ以テ、愛惡ハ、其觀ル所ノ目的ニ就テ、我カ心ノ、喜愁ニ繼キ來リ、常ニ先ツ、情緒生シ

テ、後ニ情款ヲ生スルニ至ルナリ

凡ソ善意ノ情款、即チ本篇ニテ、專ラ講究スル者ハ、其目的ノ、各自ニ別ナルニ從ヒテ、其形狀モ、諸種アリ

其中尤ナル者ハ、親族ノ愛、朋友ノ愛、恩人ノ愛、住處并ニ本國ノ愛ナリ、余將ニ、此順序ニテ、之ヲ論スヘシ

第一章 親族ノ愛

吾人、此頭項中ニ、慈育ノ愛、孝順ノ愛、友悌ノ愛ヲ、兼タリトス、是皆同一本元、關スル所ノ對手異ナルニ從ヒ、變態アル者ナリ

此情款ハ、對手ニテ、交互ニ相維持スル、親族ノ關係ヨリ、生スト云フハ、余カ未タ肯定シ、能ハサル所ナリ、然レ、或人ハ、此見解ヲ取レリ、余ハ、寧ロ、吾人ノ性中ニ、賦與セラレタル、固有ノ一本元ナリトシテ、之ヲ視ムト、欲スルナリ、然レ、此情、此關係ニ因テ、甚シク響動ヲ受ケ、依テ以テ、増加スルニ

然此關係ト能適合シタルヲ論ス

百二十一
至リ、又此情能、此關係ト、的然トシテ、相合投スル者タルハ、余謂フ、何人モ、拒ミ能ハサル所ナレトモ、余ハ猶固有成リト、思フナリ
嗚呼、此關係ノ親密奇異ナル、ハタ幾何ソヤ、譬ヘハ、父母ト、兒子ノ間ニ、存スル關係ノ若キ、父母ノ心腸ヲ、其所生ノ身體平安ニ、盡サシムル情ハ、其深ウシテ、且強キコト、幾何ソヤ、其關係ハ、情ト相通シテ、情ハ亦關係ト相結フナリ、故ニ、此關係ノ促カシテ、本分ヲ盡サシムル者、凡百懇切ノ事役ヨリ、其要スル所ノ注意詳慮ニ至ルマテ、此情款ノ強力、陸續間斷ナキ者ニ因テ、衝動セラレ、悉ク欣然之ヲ遂ケ、之ヲ成サシムルニ至ルハ、其親密ナル、ハタ何如ソヤ、蓋シ、此情款ナシト雖モ、其關係ハ、固ヨリ、存スヘクシテ、同一ナル親懇ヲ以テ、其事役ニ服シ、同一ナル懇慫ヲ以テ、之カ注意ヲナスヘク、且理性ニテ、其事ヲ執ルノ、當然ト必用トヲ、指スコトヲ、得ヘシト雖モ、行事ノ動機タル者、唯理性ノ誥命ノミニテ、其當然ヲ盡スノ意ニ

ノミ、出テタラハ、幾何カソレ、詳備ニ欠ルコトアラム、況ヤ、其時情ノ要スル、欠ク可ラサルノ急アルニ、臨ミテハ、諸ヲ、カノ強盛温和ナル父母ノ情ノ、凡百勞响ヲ以テ、快意ナリトシ、凡百物品ヲ捐テ、顧ミサル者ニ、比較セハ、ハタ、何如ソヤ、是父母、其附托ヲ受ケタル、無告ノ兒ノ爲ニ、堪忍厭フナキ所ナリ、蓋シ、吾人ノ性中、正ニ此本元在テ、以テ能、令指シタル關係ヨリ、生スル多般ノ需用役務ニ、供スルノ急ニ、充ル者ニシテ、人心ノ性分ニ於テ、大作者ノ洪圖ノ、仁善ナル、之ヨリ著シキハ、莫シ、カノ長夜、曉鐘ヲ遲シト、スルノ際ニ、當リ、疲倦ヲ極メタル母氏ヲシテ、病兒ノ牀ニ、瞬時ノ交睫ヲ許サス、以テ、看護セシムル者ハ、慈愛ニ非スシテ、ハタ、何物ソヤ、其安全ヲ計ル爲ニ、資ヲ捐テ、貨ヲ費ヤシ、辛苦ヲ厭ハス、快心以テ、之ヲ堪エシムル者ハ、此愛情ニ非スシテ、ハタ、何物ソヤ、自ラ饑餓ニ、堪エサルモ、カノ瓜々、麵包ヲ求ムル者ニ、其最後ノ一片ヲ分賦シ、自ラ凍寒ヲ以テ、死スル

モ寒風ノ怒威ヲ護セムトシテ其側ナル稚兒ヲ覆フニ己レカ肩ノ襯衣ヲ以テス而テ其甚シキニ及ヒテハ其兒ノ安全ヲ護スル爲ニ自ラ甘ンシテ其生ヲ危ウスルコトアリ此等ノ比喻ハ此情款ノ強力此ノ如キ辛苦ヲ顧ミス自ラ盡スコトヲ憚カラサルニ促カシ得ルヲ示ス耳ナラス并ニ又此情ノ強キハ之ヲ長スル爲ノ謀圖ニシテ能此目的ニ適當シタルヲ證スル所ナリ

此情款ノ普通ナルヲ論ス

慈育ノ情款ハ普通ニシテ一國ニ限ルニ非ス一世ニ限ルニ非ス又其社會ノ景況ニ依ルニ非ス一ノ時例ニテハ強ク他ノ時例ニテハ弱キニ非ス恒ニ吾人性中諸本元ノ中至強至健ノ一ナリ是獨リ人ニノミ限ルコト非ス靈智ノ下等ナル者ト人ト共ニ通有スルノ情ヲリ山禽野獸モ其兒子ノ爲ニ強烈ノ情ヲ表スル人²同シ境遇ニ處スルカ如シ北海氷上ノ白熊獵師ニ追趕セラレタル時ハ自ラ其兒ト獵師トノ間ニ投シテ其防

禦ノ爲ニ死ヲ致スト云フ

凡テ此等ノ境遇ニ際シ論題ナル感性其特別ナル急速ニ應シ密ニ相合投スルハ之ヲシテ機ヲ失ハサラシムル爲ノ圖略タリト見ニ此情款ノ強ニシテ撓マサルト其作用ノ普通ナルト人獸ニ通シタル事實トニ據レハ凡テ此論題ナル本元ハ天地ヲ製造セル手ニテ我カ性中ニ種植セラレタル本能固有ノ者タリト視サルヲ得サルナリ

境遇ニ依テ強クナルヲ論ス

然ルニ固有ノ本元タレハ習俗境遇ヨリ來ル者ナラスト雖¹⁶爰ニ述ル情款ハ其父母ト兒ト交互ニ相處スル境遇ト并ニ又慣習ノ勢力トニ因テ甚々態度ヲ變シ強盛ニ至ルハ疑フヘキニ非ス此情モ亦總テ我カ性中能動ノ諸大本元ノ如ク自ラ習慣熟スルニ因テ其發達ヲ増スノ理法アリ故ニ小兒ノ監視保傅ヲ他ノ手ニ讓ル時ハ其新タニ附托セラレタル心腸ニ慈愛ノ情ノ如キ者發生スルナリ蓋シ吾人ハ總テ我ニ屬シ我

ニ依頼セラレ、之カ爲ニ、我カ力ヲ盡スヘク、要セラレタル者ヲ愛スルコト、吾人天然ノ理法ト見エタリ、我カ掛慮スル者愈、我ニ服屬シテ、他ニ無告トナリ、我カ盡ス所ノ力愈、大イニ我之カ爲ニ堪ユル所ノ辛苦愈、甚シケレハ、我ノ之カ爲ニ、注視感動スルコト、愈、倍スルナリ、今ソレ、貧人ノ僅々ナル食卓ノ周圍若シハ、晩間ニ方リ、爐火ノ側ニ、圍坐スル小群集ニ於テハ、其嫩軟ノ愛、他ヨリモ、一層深ク、其目ニ觸ル、コト他ヨリモ、一層展ナルニ從ヒ、之ヲ掛慮スルコトモ、一層甚シク、此ノ如クナレハ、其病牀ヲ顧ルモ、極メテ屢ニシテ、其焦慮モ、亦極メテ周到シ、之カ爲ニ、己レカ生計ノ歡樂ヲ、滅スルコトモ、亦屢ナリ、此ノ如ク、己レヲ盡ス毎ニ、其快意ニテ、堪エタル辛勤勞苦ノ時毎ニ、看視解ルナク、悄々憂慮スルノ夜毎ニ、注意間斷ナク、専心其事ニ供スルノ日毎ニ、慈愛ノ情ハ、愈、深クナルナリ、而テ、吾人性中、同一理法ノ作用ニ因テ、其意ヲ注スル者ニ於テハ、父母ナラサ

母ニ於テハ、其至強ナルヲ論ス

其子ヨリモ、父母ニ於テ、強キ

ル者ト雖、同シ境遇ニ處スル時ハ、其感スル所亦殆ト同一ナルハ、疑ヒナシ、然ルニ、此ノ如キ時例ニ當リ、其情款縦ヒ、性質ニ於テハ、同一ナリト雖、父母ノ愛ノ、甚烈熱心、深ク且強キト、果シテ均稱スヘキヤ、否ヤニ於テハ、之ヲ疑フモ、道理ナシトセス

此慈育ノ情款ハ、男女ニ通スト雖、其尤モ十分ニ開達セルハ、母氏ノ心腸ニ在リ、然ルニ、其注意ト、努力ト、母ニ開發スルノ度、一層大ニシテ、比較ニ於テハ、一層強キ愛ヲ、提醒スルハ、是上ニ既ニ指示シタル本元ノ、自然ナル效用ナリヤ、ハタ、其時機ノ急ヲ、周ウスル爲ニ、天然ニ固有セシメタル預備ナリヤ、是吾人、唯我ヲ周匝スル境遇ニ、人性ヲ適合セシムル事實ノ、美妙ナル上ニ、觀ルコトヲ、得ルノミ

父母ノ子ニ於ケル愛ハ、子ノ父母ニ於ケル愛ヨリモ、一層強シトス、是蓋シ、然ラサルヲ、得サルノ必須ナリ、然レ、人心ニ於テ、具ハル凡百情款ノ中

ニハ、孝順ノ愛ヨリ、美妙ニシテ、能人ヲ動かスノ情ハ、非ス。是ニ反シテ、人性ノ景象ニ於テ、其不十分ナルヨリ、淒涼ナル者ハ、非ス。或ハ時トシテ、不孝ノ演劇、叛起スルコト有ルカ如ク、正ニ仁厚ノ人、舉リテ、憤怒憎悪スル所ノ演劇ナリ。子既ニ長シテ、成人トナリ、己カ生レタル老母ヲ遺忘シ、其蹣跚タル歩ヲ、扶クルヲ耻チ、或ハ其父ノ生計ハ、全ク其子ノ注意努力ヲ、仰クニ至リ、之ヲ單獨缺乏ニ委スル若キハ、人之ヲ疏賤シ、思慮ナキ世人スラ、之ヲ侮リ、苟モ其説、視ルニ足ルノ人ニ在テハ、之ヲ譏笑ス。是固ヨリ、其自ラ取ル所ナリ。

又孝順ナル情款ノ、強キニ至テハ、古來、其貴重スヘキ事例、鮮シトセス。蓋シ、父母ヲシテ、其兒ヲ護スル爲ニ、死ヲ犯シテ、憾ミトセサラシムレハ、子ノ其父母ヲ護シテ、死ヲ取ルコト、縱ヒ稍稀レニ屬スルモ、亦宜ナラスヤ。ソレ慈愛ト、孝愛トノ情ハ、蓋シ人間社會ノ善徳、因テ以テ、立ツ所ノ基礎

コシテ、凡百至高至貴タルノ心腸ヲ鑄造シ、人ノ品性ニ於テ、眞ニ大貴重ノ基礎ヲ立ツ。此響動ヲ免レタル人、亦能實ニ社會ニ在テ、利用名譽アラサルニ、非スシテ、其事例モ、鮮カラスト雖也、然也、是寧口例外ノ事タリ、カノ心意胸懷ノ景象、一層善良ニシテ、其發達、至確ニシテ、來世ノ迷惑患難ヲ免ル、爲ニ、完全無疵ナル性質ハ、慈愛恭敬、一家親睦ノ、響動風化ノ中ニ在リトス。

又家居溫和柔順ノ情ハ、カノ品性ノ威重莊嚴、歴世ノ史乘ニ於テ、其眞ニ大英傑ノ生平タルヲ、稱譽スル者ト、共立ス可ラサル者ニ非ス。古往來今ニ在リ、詩家モ、之ヲ知悉シ、畫工モ、之ヲ掬取シ、而テ、辨折家ニ在テモ、熟ク、意想ノ線圖ヲ設ケテ、之ヲ指示セリ。此情、能ク、勇壯ナルアキレス、亞季拉利斯、和墨耳ノ、憤懣折衝ノ品性ヲ、柔和ナラシメ、又能ク、黒克多爾ヘクトル、同ノ死骸ヲ、老衰ノヘクトル、伯里亞謨カ、懇求スル段ニ於テ、無上ノ美妙ヲ加ヘ、殆ト人ヲシテ、叫死ニ

至ラシメ、又委爾濟拉ハ埃内德ノ勇士ノ品性ハ、何如カ之ヲ形容シ得テ、善キヲ知り、此情ヲ以テ、其至美ナル扮粧ノ、一ツトナセリ、而テ又拿破崙ノ其兒ニ於ケル愛情、格朗空ノ其女ヲ亡ヒタル時ノ、憂悶ノ若キハ、家族ノ情愛ヲ以テ、カノ繁劇ノ世ノ、激烈艱難ノ場地ト、相並ヒテ、其光輝ヲ發スルコト、恰モ暗夜ノ空ニ一微星ノ爛々タルカ如シ

第二章 朋友ノ愛

人ノ心腸ニ、存スル善意ノ情款中ニテ、朋友相交ルノ情ハ、其中ノ、至淨至貴ノ一ツトシテ、視ルコト、常ナリトス、之ヲ稱揚スルハ、詩家モ、道德家モ、交、相争フニ至リ、加旃、吾人凡百能動ノ本元ハ、皆自愛ニ出ツト、云フ説ヲ、執レル哲家ニ在テモ、我カ情中ニテ、此情、尤モ自私ノ少キ者ノ中ニ、在リト容レタリ、蓋シ、此情ハ、人生ノ急須ニシテ、性中固有ノ一部タルハ、疑ヒナキ所ニシテ、總テ、其等催中ニ、己レカ好ム、人ナク、其朋友ト、稱スル者ナ

交道ヲ稱スル説ノ多キヲ論ス

友情ハ何如ナル境遇ト、相關スルカヲ論ス

キ人ハ、吾人普通人情ニ於テ、其至美ナル表象形質ヲ、稍失フコト必セリ、而テ、カノ純淨高尚ナル、友情ニ至テハ、仁善良貴ナル心ノ標タリ、今此情ハ、一事例ニ當リテ、何如ナル處ヨリ、生スルカ、又如何ナル本元ト、境遇トノ上ニ、本ツシカ、之ヲ講究セムト欲セハ、吾人速カニ、發見シ得ル所アリ、是此情ノ生スル、其因由、一ナラズト雖モ、首トシテハ、兩友ノ、多少親密ニ相識ル上ニ、在ルナリ、故ニ、我カ方ニ在テ、其友ト呼フ人ニ、高貴ナル形質アリト、稍之ヲ知覺シ、并ニ又、其形質ヲ、稍評價スルコトナキヲ得サルハ、實ナリトス、苟モ、友トスルニハ、其慧敏ヲ愛シ、其勇壯ヲ愛シ、其丈夫タル氣力膽畧ヲ愛シ、其道學上ノ德行ヲ、愛スル等ニテ、少クモ、其地位功業等ニテモ、愛スル所ナキヲ得ス、凡テ此等ノ事、其人ニ就テ、我カ評價取捨ニ、參見スル所アリテ、其人ニ、我カ友情ヲ、表スルノ基本タリト云ヘリ、然レ、交友親懇ノ情、直チニ生スル、所以ハ、悉ク皆、此境遇ヨリスルニ、非

スシテ親シク其人ト相識ルニ在リ、人ノ高邁ナル資質、良貴ナル品性ヲ、嘆賞貴敬スルハ、直チニ之ヲ友情トハ謂フ可ラサレ、密ニ之ト相渉ル者ナリ、此等ノ事、稍廣キ意ニテハ此情款ノ立ツ基礎トナスヘク、又基礎タルニ疑ヒナシト雖、此等ノ事、直チニ此情ヲ生スル、原由タルニハ非ス、此等ノ事ハ親シク相識ルノ機會ナキ時ニモ、存スル者ナルニ、又一ニハ、我カ舊來ヨリ、單素ニ相識ル人ニテ、我カ自己忠心ノ辨決ニテハ、才智ニ於テモ、幸福ニ於テモ、靈魂ノ高貴ナル品質ニ於テモ、他人ヨリ勝レタリト、表言ス可ラサル者トテモ、却テ相熟シテ、其親愛、深ク且永キニ至ルコトアリ。

相識ノ親愛ニ至ラシムル何如ヲ論ス

是、何ニ依ルヤト云フニ、余疑フ、是專ラ相識ニ依テ、恆ニ愛賞スヘキ事ヲ、啓示スト云フ事實ニ、依ルニ非ス、余固ヨリ、此事例ノアリ得ルコトヲ、容レムト、欲スレ、前時ヨリ、特ニ恭敬ヲ表セサリシ人ニ於ケル、亦相熟ス

ルニ依テ、特ニ之ト親懇ナルノ理ナシ、然ルニ、其親愛ニ至ルノ因由ハ、寧ロ、吾人ノ伴生ト、名クル所ノ、心意發動ノ一理法ニ、係ハルト見ユ、蓋シ、吾人舊來ヨリ、久シク親密ニ、知ル朋友、又夙歲會テ、動モスレハ、アリ得ル事例ノ如ク、彼此ノ盛時ニ於テ、相知リシ朋友ハ、我自己ノ履歴ト、密ニ相結合スルコトアリテ、其生境ト、我カ生境ト、兩々相經過シ、カノ別株ヨリ、生シタル、葡萄蔓ノ、其枝相組織シテ、目ニハ、一本ナリト、見ユルカ如キコトアリ、是、我ニ關スル事ニ、因テ、友人トノ密ナル連絡ヲ、ナス者ニテ、其履歴ハ、我カ履歴ト、連絡シ、其生境ハ、我カ生境ト、組織シ、以テ、我其友ヲ、視テ、切要眷戀ノ情ヲ、感スルニ、至ルコト、多シ、是、恰モ、其人ヲ、以テ、我カ一體ト、ナスカ、如シ、其人ヲ、懷ヘハ、我カ心ニ、愉快ナル追想ヲ、提醒シ、カノ共ニ、與ニシタル、游歩、講學、諧謔、諸種ノ、享樂、諸種ノ、憂愁ニ、就テ、愉快ナル理會ヲ、伴生セシムルナリ。

生ナキ物
ヲ春ルヲ
論ス

此同一ナル本元ハ、又生ナキ物體ニマテ達スル者ニテ、カノ習熟セシ土地風景ノ若キ、兒タリシ時、常ニ遊行セシ郊野ノ若キ、少時讀シ書籍ノ若キ、住ミ慣レシ家室ノ若キ、加旃、日夕慣用ノ器械ノ若キ、凡テ此等ノ者ハ、自己ト相伴フニ因テ、之カ爲ニ、親愛ノ意ヲ生スルカ如シ、又カノ囚人、多年、獨居ノ房ニ、幽閉セラレタル者ノ、久ウシテ、竟ニ放免ノ期ニ至リタル時、其正ニ閉ラレタル四壁ニ、眷顧ノ意ヲ存シ、最後ニ至リ、之ヲ盼視スルカ如キ、少シク、淒涼ノ意ナキニ、非ルナリ、又カノ疆場ニ於テ、屢、慣用シタル劔ノ、老卒ニ於ルカ如ク、向後ハ、之ヲ以テ、多クノ苦戰セシ戰野ト、多クノ危殆ナリシ功業ノ、目ニ觸ル、遺象トナルナリ、此ノ如キ劔ハ、如何ニ鈍刀ニテ、鏽ヒタリヒ素朴ナル鐵鞘ニ藏メ、拙劣ニシテ、裝飾アルナキモ、之ヲ有スル者ハ、之ヲ純金ノ刀ト、易フルコトヲ、欲セサルヘシ、故ニ、伴生ノ本元、カノ非生體ニスラ、此ノ如ク密ニ、附着スル者ナレハ、吾人、我カ

他ノ助資
タル源由
ヲ論ス

同類ト、親愛スルニ於テ、其元行トナルノ、居多ナルハ、亦怪ムニ、足ラサルナリ
然ルニ、他ノ源由ヨリ、以テ同一ノ效驗ヲ、生スヘクシテ、尋常、此事例アルハ、余カ否定スル、能ハサル所ニテ、唯相識リ、相伴ヒタレハトテ、必ス親愛ニ至ルコト、不易ナリト、謂フ可ラス、唯必ス同感ハ、稍ナキヲ得スシテ、意思感動ノ性ヲ同ウシ、利益ノ稍相通シ、營業、好欲冀望等、何ニテモ、兩者ノ心ニ、相通スル者、ナキヲ得スシテ、之ナキ時ハ、兩者ノ間ニ、親愛生スルコト無シ、唯相識ト、同場地、同事業ニ、從事スルトハ、此相通スル地ヲ爲ス、稍廣シトス、然ルニ、前時曾テ、相伴フコト、無キ時サヘモ、其兩者ノ心ニ、此ノ如キ同性同感ハ、生シ得ル者ニテ、各自ノ雅趣、感動、目的、志尙等ハ、全ク合體シ得ヘキ者ニシテ、其親愛ヲ熟シテ、強ク永キニ、至ラシムルノ時機タニアレハ、各相引シカ如ク、思フニ至ルナリ

差異ハ親愛ト並立ス可ラサル者ニ非ルヲ論ス

又眞ノ親愛ニ至ル爲ニハ十分ノ同性合一アルコト必セリト謂フ可ラ
ス、是心意ノ形質ニ就テモ、品性ノ發達ニ就テモ、其中諸般ノ事ニ於テ至
大ノ差異ノ存シ得ル者ナルヲヤ、蓋シ此ノ如キ差異アルハ、其稍廣キ度
ニ至ルニ、差異ナキヨリハ、却テ親愛ニ便宜アリトシテ、視ルヘシ、故ニ吾
人屢々他人ニ於テ我ニハ缺ケタリト、思フ性質アルヲ却テ歎賞シ、我カ朋
友ヲ選フニ其事ニ就テハ、其人ノ天稟殊ニ勝レタルヲ以テ、稍我カ黨ノ
欠處ヲ補フニ足レリトスルコトアリ、是ヲ以テ、兩人ノ性質殊ニ相反セ
ル處ニ在ル者、此ノ如クニシテ、甚々強キ親愛ニ至ルコト、屢々アリ、天資ト、
品性ノ發達トニ就テ、此ノ如キ差異アルニ、他ノ事ニ於テ、見解ト感動ト
ノ至密ナル同感アルハ、有ル可ラサルノ事タリト、謂フ可ラサレハ、亦至
熟ナル親愛ナシト、謂フ可ラサルナリ
眞ノ親愛ハ二人ノ外ニ存スヘキヤ、否ト、是古昔ノ哲家ニ在テ、講究セル

親友ノ數

限ヲ論ス

所ナレニ、恐ラクハ、空論ト謂フヘシ、何故ニ、此情款ノ、此ノ如ク、多數ヲ許
サ、ルカ、是一モ、道理ノ論スヘキナキ所ニシテ、事實ニ於テ、此ノ如キ限
局ヲ、立證スヘキナシト見ユ、今余カ相識ノ中ニ、一ノ新友ヲ加フルモ、余
カ前時ノ朋友ニ對スル情ニ、一點ノ損ヲ生スルコト、必然ナラス、又其朋
友ニ於テモ、猜疑嫉妬ヲ發スルコトナシ、故ニ、此所ニ就テハ、朋友ノ親愛
ハ、カノ男女間ノ愛ト、異ニシテ、男女ノ愛ハ、其性、他ヲ容レサル者ナリ
然ルニ又同時ニ、其廣狹ニモ、界限アリテ、友人ノ數、許多ニ至レハ、其各位
ヲ、均シク、甚々強ク親愛ス可ラサルハ、固ヨリ當然ナリト、謂フヘシ、是士
低瓦的氏ノ云ヘル如ク、此ノ如ク、界限ナキ親愛ハ、實ニ冷淡自私ノ標徴
タルコト、稀ナルコトニ非ス、是其自己ノ利益ノ爲ニ、他人ト、相識ヲ求ム
ルヨリ發シ、其交義ヲ願フ所ノ人ヲ、實ニ親愛スルヨリモ、却テ、其社友タ
ランヲ、欲スルナリ、蓋シ、眞淨ノ交義ハ、其友ヲ選フコト、一層精確ナルヲ

偶然ナル
境遇ノ效
驗ヲ論ス

常トシ其品性全ク私利ノ計較ニ非ルナリ、カノ情意ナウシテ徒チニ計較ノ略ニ出テタルハ其性質ニ一モ此ノ如キ處ナシ、故ニ交情ハ絶テ私利ヨリ發スル者ニ非ス、加旃謀慮先見ニモ、涉ラスシテ唯之ヲ蓄フル心裏ニ淨純恆久ノ焔熱アリテ指目スル目的ハ、既ニ地上ニ存セザルノ時スラ猶熄マサルナリ、故ニ吾人ノ親愛ハ唯此生ニ限リタルコトニ非スシテ、既ニ見ルヲ得可ラサル人モ襟懷ニ往來シ、既ニ我カ室我カ煖爐傍ニ招ク可ラサル人モ胸臆ニ來ルヲ得ヘシ

生路ノ蹉跌福履ノ變遷、健康疾病ノ故、貧富ノ代替、位置聲望ノ事ハ、一次結ヒタル、眞ノ交情帶繫ヲ緩カラシムルニ、稍勢力アレハ、多クハ、以テ其強弱ヲ驗スルニ足リ、其強力ヲ毀壞スルニハ非ス、眞ノ親交ハ、我カ友人ノ轍軻ニ遭ヒ、却テ其膠漆ヲ増シ、而テ其福履凋衰シ、人々之ヲ重ンスル、日ノ中スルカ如キモ、漸ク消滅スルニ及ヒ、一次ハ、衆人ノ歎賞譖諛セシ

道德ノ品
性ニ於ケ
ル變化ヲ
論ス

人モ之ヲ敬重スルナク、棄テ、顧ル者ナキニ至ルモ、吾人ハ其他日盛時ニ在テ我カ親愛ヲ着クルニ足レル人ハ、猶之ヲ愛シ、因テ以テ其人ヲ輕重スルニ足ラストス、是我其人ヲ愛スル所ハ、其人トナリニ在テ、其人ノ有スル物ニ在サレハナリ、故ニ交義親愛ノ名ヲ命スルニ足ラサル者ハ、此試験ニ堪ユルコト、能ハサルナリ

一層太甚シク、交情ヲ危殆ナラシムル者ハ、其朋友間、一方ニ於テ、德義ノ品性ト、道トスル所ノ變化ニ在リ、其變化徒ニ、其人身、貧富、貴賤、勢力、名望ニ關スル耳ナル間ハ、吾人は唯、外部ノ境遇、事故、變遷ニシテ、其人自己ニハ、非スト思フ、故ニ、此等ノ事ハ、代替スルモ、我カ友ハ、同一ニテ存セリトス、然ルニ、其變化、其心腸ニ在テ、其人自己ノ品性、易ハル時、又其同情、并ニ、道德ノ節操、一次我ト合一タリシニ、今ハ既ニ、其同說タル所ヲ表セス、我偏ヘニ、其人ノ說タリト、思ヒシ所ニ、反スル時ハ、是、カノ眞ニ永久ナルハ

キ、親愛ノ本體ヲ失ヒ、我ト彼トノ間ニ、意思感動ノ相通スル所、既ニ己ニ、存セサルナリ、然リ而テ、此ノ如キ事例ニ、當リテスラ、吾人前時ノ、朋友ニ、ハ猶敬重愛親ヲ存シ、此變化ニテ、全ク抹殺スルニ、至ラサルナリ、此ノ如キ時ハ、吾人其人ノ、云々タリシヲ思ヒ、云々ヌリト思ハス、其夙昔善良ノ日ニ於テハ、心腸鮮妍ニシテ、汚スルナク、其足跡、未タ曾テ、正直名譽ノ道ヨリ、外レサリシト、思フナリ

第三章 恩人ノ愛

吾人、朋友ニ就テ、感スル情款ト、密ニ相親近シテ、我カ恩人ニ對シテ、懷シテ、情アリ、是亦、前ノ情ト一様ニ、カノ愛情ト云フ一本元ノ、形容中ノ、一ツニテ、凡テ親懇ノ情款ハ、到底、溶解シテ、是ニ歸スヘシ、唯其情ノ着ク所ノ物體、異ナリトハ、雖也、凡テ此諸種ノ形容ノ中ニテ、其性質ハ同一ナリトス、然ルニ、吾人、恩人ニ對シテ、感スル親愛ハ、友人ニ對スル親愛トハ、異ナル

其朋友ノ親愛ニ關シタルヲ論ス

コト、猶友人ニ對スル親愛ノ、親子ノ間ニ在ル親愛ト、異ナルカ如シ、此情ノ、交友ノ親愛ト、異ナルハ、其惠人ノ方ニ就テ、此恩惠ヲ施セシ動機ハ、唯仁愛ノ意ニテ、曾テ其人トナリノ目的ニハ、關スルナク、又我カ方ニ在テ、依テ以テ、提醒セラレタル情ハ、唯其仁愛アル惠人ニ、感謝スル意ナリトス、故ニ其感謝ハ、親愛ニ至ルト雖也、始メヨリ、其人トナリヲ、欽慕スル效カニハ、非ルナリ

吾人、此情ノ性質ヲ、一層密ニ、講究スレハ、凡テ恩謝ノ情ニ、現ハル、カ如ク、此中ニ、快樂愉悅ノ情ヲ含ミ、并ニ又、此情ヲ着クル所ノ人ニ對シ、之ヲ、徳トシ重ニスル意ヲ含メリ、此時、其快樂ハ、恩惠ヲ受ルヨリ發ス、然也、其受ケタル恩惠、唯其物ノ貴重タルカ爲、唯我カ急ヲ周ウスル爲ニ、發スル快樂ニハ、非スシテ、此ヲ超越シテ、其惠者ノ、良貴仁愛ノ人ニシテ、我トノ、關涉、親愛ノ上ニ、出ル爲ニ、快樂ナルナリ、總テ此ノ如キ理會ハ、必ス愉快

此情款ノ性質ヲ論ス

ナル者ニテ、是其高度ニ至ル者ナリ、其此ノ如キ人ニ對シテ、之ヲ德トシ
重ンスルノ意ト、其報復トシテ、我、彼ニ善ヲ爲サムト欲スルノ情トハ、是
此其人ニ就テ發スル愉快ナル理會ヨリ、自然ニ生スル效驗ニシテ、此愉
快ト、此德トシ重ンスルノ意ト、兩相合シテ、吾人、感謝ト呼フ、錯綜セル情
ヲナスナリ

其賜ヨリ
モ却テ其
人ヲ重ン
スルヲ論
ス

此論題ナル情款ニ就テ、上ニ云ヒシ所、果シテ其分解ノ正ヲ得タリトセ
ハ、此情ヲ提醒スル者ハ、惠者ニ在テ、惠賜ニハ、ソレタケニ、在ラサルナリ、
此見解ハ、事實ニ依テ、之ヲ證確スヘキ者ニテ、一ノ境遇ニ際シ、其賚賜ヲ
贈レル惠者ノ方ニ取テ、自私ノ動機ヨリ出ルノ疑ヒアリテ、我ヲ重ンス
ルヨリハ、自己身上ノ目的ニ關セルナリト、思フ時ハ、此ノ如ク贈レル惠
賜ニ於テ、吾人、感謝ノ情、發スルコト、甚タ少シ、是孰レニテモ、其惠賜ハ、同
一ナレト、惠者ハ、異ナルナリ

感謝ヲ表
スルノ様
法ヲ論ス

諸哲家人、他人ヨリ、親懇ヲ受ル時、其人ノ品性心質ノ異ナルヨリ、之ニ感
スルノ氣習、諸種アリテ、其感謝ヲ表スルノ様法モ、隨テ異ナルアルヲ、表
章セリ、其親懇ナル事ハ、同一ナレト、或ハ、他人ヨリモ、一層甚シク、敏捷ニ
感動スル者アリ、加旃、其感謝ノ情ハ、同一度ニ存スト、雖ト、之ヲ表スルハ、
必ス均一ナルニ非ス、然レ、思惠ヲ施シタル處ニテハ、何時ニテモ、稍感謝
ノ表象ヲ、見ルヲ常トシ、其表象、相當ナレハ、我ヲ愉足スルナリ、唯其情ノ
缺ケタルハ、我ニ、痛苦ヲ覺エシメ、吾人、之ヲ冷情私性ノ標徴トシテ、定ム
ルナリ

此情元ノ
無キヲ以
テ、感性ノ
錯亂ヲ徵
ス

感性錯亂ノ、至重ナル形狀ノ一ハ、即チ靈智ノ狂ニ非スシテ、感動ノ癡タ
リ、是何事ニ拘ハラヌ、全ク中立淡泊ニシテ、至懇ノ注意ヲ受ルモ、無情ヲ
表スル者ナリ、加旃、其仁善ナル惠人ニ對シテモ、惡意ヲ表シ、或ハ其厭憎、
暴露シテ、包藏スル能ハサル者アリ、此種類ノ事例ハ、馬可列安ノ癡狂院

ノ監長、學士彼拉ノ話述セルコトアリ、其表章セルハ、一患者アリ、貴夫人ニテ、其心意ノ稟賦ハ、如何ニ觀テモ、不足ナリト、思フ可ラサルニ、唯天性ノ情感ニ至テハ、極メテ缺乏シテ、少シモ、感受スルコト、能ハスト、見エタリ、一日、其友ノ忠誠ナル人ヨリ、懇親ノ標トシテ、或物ヲ受ケタル時、其女子、叫呼シテ曰ク、余思フ、余ハ、此人ヲ愛セサルヲ、得サルカ、若余ヲシテ、人ヲ愛スルコトヲ得ハ、之ヲ愛スヘシト、雖モ、是能ハサル所ニシテ、余ハ、此情ノ何物タルヲ、知ラサルナリト、蓋シ、其標徴、此ノ如ク、慘怛淒涼ナルハ、人生ニ於テ、理會ス可ラサル者ニシテ、是靈魂ノ深夜嚴冬、生活體ニ對シ、親愛感動ノ一光線モ、其冥暗ヲ破ルナク、太陽ノ一閃光モ、其闇黒ニ入ルナシト、謂フヘシ、此ノ如キ事例ノ、稀ナルハ、豈幸ヒナラスヤ、蓋シ、人ノ親懇ナルハ、人々ノ心腸ニ、敬謝ノ答意ヲ、起ス者ニシテ、之ニ感スルノ權ト、定例ノ作用トニ至テハ、心意ノ錯亂モ、罪業ノ障礙モ、之ヲ阻抑セサル者

人性ノ錯亂ヲ論ス

ナリ

今ソレ、吾人、我カ同類ノ、僅々ナル親懇ハ、能我カ胸懷ニ徹シ、活潑ナル感謝ノ情ヲ、興起シ、然リ而モ、吾人、我カ心體ノ、大作者ヨリ、時々刻々、賜フ所、千萬恩德ニ至テハ、曾テ身ヲ動カス事ナク、各個ノ善賜美賚ヲ享ケテ、僅カニ感謝ヲ表セハ、人タル道德ノ性ニ於テ、豈錯亂缺乏ノ標徴ナラサル、ナキヲ得ムヤ

第四章 住處、并ニ、本國ノ愛

吾人ノ感動アル性ヨリ、發スル情ノ中ニテハ、室家ノ愛、并ニ、本國ノ愛、即チ、所謂愛國ノ情ト云フ者、首位ヲ占ムルナリ、然ルニ、其類ヲ論スレハ、吾人情款ト呼ヒ、倣ス感動中ニ、入ルヘシ、是此情、唯快樂ノ情ヲ、含ム耳ナラズ、又且、此情ヲ、提起スル物體ニ對シ、其善ヲ願フノ欲ヲ、含メハナリ、茲ニ論スヘキ情款ハ、其中ニ、人類ノ、族ヲ成シ、部落ヲ爲シ、邦國ヲ建テ、以

其本來ノ位置ヲ論ス

是人種ノ

分離ニ本
ツクヲ論
ス

テ分離ヲナシ、其邦國疆域ヲ區分シテ以テ、其住處ヲ別ニスルノ意ヲ、含
メリ、蓋シ、此區分ノ基井スル所ハ、人性ニ因テ、然ルヨリモ、此地球ノ形體
上ノ態制分賦ニ因テ、然ルニテ、地球ハ、山河洋ニ因テ、諸種ノ邦國ニ、分離
スレハナリ、此排置ヲ觀ハ、八種ヲ、個別ナル邦國ニ、分賦スルノ、圖略先見
アリシヲ、誰カ覺リ得サル者アラムヤ、而テ人性ハ、此圖略ト、排置トニ、相
通スル者ナリ、ソレ人ハ、カノ遊行、食ヲ逐フノ時ニ當リ、未タ室家ヲ起ス
ノ地アルニ非ス、其本國トスルノ國アルニ非ス、唯荒蕪礪礪、水流地ヲ掃
ヒ、氷丘陰ヲ印シ、疆域極メテ狭ク、衣食ノ賴ル所、極メテ乏饑ナルノ地ニ
過キサル耳、而テ、其寒暑體ニ適セス、風候、身ニ可ナラス、土地、耕ヘスニ堪
エスシテ、此生命ヲ保スル爲ニ、間斷ナク、此艱阻ヲ、驅除セサルヲ得ス、然
ルニ、僅カニ此ニ至レハ、其地、既ニ己ニ、其所有ニシテ、其本國タリ、而テ、忽
然既ニ、此地ニ入寇シテ、其名ヲ屈辱スル者、アルニ至リ、竟ニ之カ防禦ノ

他ノ助因
ヲ論ス

開化ノ效
驗ヲ論ス

爲ニ、血ヲ濺キ、末後ノ一滴ヲ、落スニ至ルナリ
カノ諸部落ノ相爭フヤ、讎敵戰鬪、音ナラサルニ、至ラシムルノ偏尙、竟ニ
此愛國ノ情操ヲ、強クシテ、活潑歌マ、サラシムニ至ルハ、亦疑ヒナクシテ、
以テ、各人、一層其土地ト、密着セシメ、其財貨ト、生命トヲ、捐テ、以テ、其地
ヲ守ルノ、己ム可ラサルニ、至ラシムルナリ、又言語ノ異ナル、習氣風俗ノ
同シカラサル、是諸國ニ於テ、然ラサルヲ得サル者ニシテ、亦甚シク、國々
ヲ別チ、一層彼此ノ際ヲ廣クシ、以テ、其人民ヲシテ、一層密ニ、其土ニ繫着
シ、其自己ノ禮俗ヲ守ルニ、至ラシメタリ
上ノ諸原因ハ、皆愛國ノ情ヲ、發スルノ一タリ、然ルニ、開化ハ、此諸原因ノ
作用ヲ、稍減スルニ至ラシムルハ、疑ヒナシ、蓋シ、社會ノ、進歩スル度ニ、準
シテ、國々ノ相疑嫉シ、相讎敵スルコト減シ、戰爭モ一層稀ニ起リ、各國ニ
テ、他ノ風習、法度、言語ヲ、一層能曉解スルニ至リ、又交互ノ利益ハ、伴象ニ

テ、方ヲ異ニスルモ、其實同一タルコトヲ知ルニ至ルナリ、故ニ開化教育ノ進動ハ、恰モ今日マテ、諸國ヲ離析シタル關障ヲ除キタルカ如ク、其功大イニシテ、カノ愛國ノ情ヲ活潑ナラシムルニ、歸シタル諸原因ノ響動ヲ弱ムルニ至ラサルヲ得サルコト、見ユ、是吾人、事實上ニテ、信スル所ナリ、カノ報國ノ愛、尤強ク開發スルハ、國ノ存立、猶夙キ時、其初メテ基ヲナシ、將ニ盛ナラムトスルノ際、又衰弱累々ノ危キニ濱スル會ニ在リ、此ノ如キ時ニ當テハ、財貨ヲ捐ルノ事、尤モ快勇以テ之ヲ爲シ、危害困艱ニ處スルノ道、尤モ容易以テ之ニ當リ、而テ生命ヲ棄ルコト尤モ自由ナリ、蓋シ此ノ如クナラサレハ、其國ノ基礎ヲ居ク、他道ナキ耳、然リ而テ其國、此ノ如ク、其實貨ト、生命トヲ以テ、之ヲ建テ、其幼稚ニ當リ、勵精以テ、之ヲ護シタル者、漸ク盛壯ニ至リ、強大ニ至リ、富實積ミ、疆域擴マリ、勢焰盛ニシテ、其周匝ノ諸國諸民ト、堂々タル交際ニ於テ、美名ヲ受ルニ至ル、然ル

國矜ヲ論
ス

ニ、此時ニ當リテハ、報國ノ情ノ民心ニ在ル者、其生長ト、歩ヲ同ウセスシテ、却テ減スルコト、見ユ、是此情ノ發達ニ、機會ヲ假スコト、一層稀ニ、一層緩ニ至レハナリ

然ルニ又、開化ニ因テ、愛國ノ情、減スト、雖此之ヲ制克スル一偏尙アルヲ、國矜ニ於テ見ルナリ、是即チ、其國ノ光榮強盛ニ因リ、殊ニハ、其歴史トノ浩大ナルニ因テ、提醒セラル、ノ情ニテ、英吉利、佛朗西ノ都人士、今日ニ在テ、唯其室家爐邊ヲ、愛スルヨリモ、一層自國ヲ守リ、自國ヲ愛シ、其耕耘スル地ヲ樂ミ、其自由ト、權利トヲ、保護スル所ノ、制度禮俗ニ、安ンスルナリ、其國ノ過去モ、斯民ニ委託セラレ、現在モ、斯民ニ委託セラレテ、此國民ノ命トシテ、其名譽ト、正經トハ、力ヲ盡シ、生ヲ捐テ、之ヲ執守スヘキニ當リ、徒ニ昨今ノ英吉利、佛朗西ニハ、非ス、數十百年來ノ英吉利、佛朗西ナリ、故ニ、其人民ハ、其帝國ノ盛ナルヲ懷ヒ、軍兵ノ功ヲ懷ヒ、其國旗ヲ、諸國

ニ飄カヘシテ、國武ヲ耀カシタル名將ヲ懷ヒ、哥羅味查理曼クロカス以來、亞弗勒アフラ、
ハローハロー、
哈羅德、勇王以降、世々王椅ニ儼然トシテ、其臣民ノ忠誠ヲ辱ウシタル君
王ヲ懷ヒ、又其邦ヲ今日ノ盛大ニ致シタル世々ノ祖先ヲ懷ヒ、以テ其國
今日ノ盛榮強大ノミナラス、又昔時ノ浩大昌盛ヲ保護シテ、其緒ヲ墜サ
ラシムルノ情ヲ興起スルナリ

吾人、此事ノ哲理ニ於テ、一層密ニ之ヲ講究スレハ、此論題ナル情ヲ直チ
ニ生スル源因中ニ伴生ノ本元、大イニ之カ發動ヲ助クルコトヲ發見ス
ヘシト、余ハ謂フナリ、蓋シ吾人、何レノ國ニテモ、其觀念ヲ立レハ、其國人
ノ歴史、貧富、德義ノ善惡ト、相連絡シ、又古今ヲ論セス、其歴史上ニ散見シ、
其域内ニ於テ、起リシ事ノ、歴史ニ關スル人ヲ懷ヒ、其枯骨ノ、其土ニ混シ
タルヲ、追思スルニ至ルナリ、其人ハ、既ニ己ニ消滅シテ、在ルナキモ、其丘
嶽ハ、依然トシテ存シ、其川河ハ、依然トシテ、同シ流路ニ注キ、其洋海ハ、依

其伴生ノ
理法ニ係
ハルヲ論
ス

同一本元
ノ室家ノ
愛ニ係ハ
ルヲ論ス

然トシテ、其古岸ニ濯キ、其蒼穹ハ、依然トシテ、其原野江湖ヲ覆フ等、總テ
此等ノ百事、并ニ天然ノ物體ト共ニ、カノ曾テ丘壑ノ間ニ棲ミ、海岸ニ沿
ヒテ、住セシ人民ノ史乘ニ於テ、其盛大ヲ致シ、勇武ヲ耀カシタル諸事ヲ、
連想伴思スルナリ、故ニ凡テ、山嶽ノ崔嵬ナル、河濱ノ浩蕩タル、巉巖ノ嵯
峨タル、巔峰皴崎ノ海濱ニ聳エタルハ、各、代現タル物體ニシテ、懷古ノ情
ヲ興起シ、其地ニ在リシ偉績大勳ヲ、追懷セシムルナリ、ソレ、此等ノ事ノ、
愛國ノ情ニ勢力ヲ増加スル、幾何ナルヘキ、是、一目瞭然タル者ナリ
又是ト同一ナル様法ニテ、伴生ノ同一本元ニ因テ、我自身ノ履歴ト、我カ
棲シ處、住シ國トヲ、連絡スルヲ以テ、其處ハ、殆ト我ト、同一體トナリ、我カ
兒タリシ時ノ室家ト、我カ生レシ國トヲ、愛スルハ、唯此曩時ノ我ヲ、愛ス
ルニテ、我カ履歴モ、爰ニ存シ、善ナリ、惡ナリ、我カ爲セシ事モ、爰ニ存スレ
ハナリ

固有ノ本
元タルヲ
論ス

此情淺カ
ルヘキ處
ニ殊ニ深
キヲ論ス

此情伴生ノ理法ニ因テ、提醒發揮セラル、コト疑ヒナシト雖也、然也、此情ノ品性ニ就テ觀レハ、余未タ、此理法ヲ視テ、其本源ト、做スコト能ハス、是吾人性中、固有預備ノ本元ニシテ、本能上ヨリ、胸懷ニ迸出シ、其本體少ク可ラサル者トシテ、社會ノ凡百狀態中、何レノ世ニテモ、何レノ處ニテモ、同一ニ顯ル、者ナリ、是亦、之ヲ喚起スルハ、教育ヲ期スルニモ非ス、又理性ト、省察トヨリ、之ヲ生スルニモ、非ルナリ、然也、同時ニ、理性ト、省察トノ、其發達強盛ニ、資スルハ、亦疑ヒナキナリ
カノ人性ヲ以テ、其學業トナシタル諸家ノ、視察ニ供シタルコト、甚タ屢ナルハ、愛國ノ情操ハ、氣候順和ニテ、土地肥沃ナル處ノ住民ニ、限リタルコトニ非スシテ、反テ、生育モ少ク、天然ノ風土モ、佳好ナラサル國ニテ、其國民ニ、至強ノ發達アルコト、屢ナリ、故ニ、荒野山谷ノ間、或ハ、礪确ノ地、或ハ、乾秃ノ野ニ、住ムノ人、其室家邦國ノ愛ヲ、表スルコト、地球上ノ他ノ部

是ヲ善意
ノ情款ヨ
リ、區別ス
ルヲ論ス

ニ、異ナルコトナシ、カノ山巒巖壑ノ間ニ住ム、瑞士ノ人民ノ若キ、カノ北寒線ノ外、一年ノ大半、恒ニ、凜冽暗黒ノ地ニ、住メル北冰洲ノ鴨斯基毛種ノ、憐ムヘキカ如キモ、皆此ノ如ク、加旃、酷虐ナル管轄下ニ在テ、未タ、踈暴ヲ免レサル心ニモ、天性ノ聲言ニ發スル所、家國ノ愛甚シキ者ハ、之ヲ聞クヲ得ヘク、加旃、乞兒モ、ノスタルシアト云フ病ノ、郷里ヲ懷フヨリ、死ニ至ルコト、アリト云ヘリ

第二篇 惡意ノ情款ヲ論ス

第一章 忿恨并ニ、其諸類、嫉妬、猜忌、報復

情款ハ、感性ノ中ニテモ、快樂痛苦ノ感動アルカ上ニ、又其物體ニ對シ親懇、若クハ、其反對タル感動ヲ、帶フト云フ態度アルニ因テ、之ヲ、他ノ諸形狀ヨリ、區別スルハ、既ニ前ニ論シタリ、而テ之ヲ、一ノ事例ニテハ、吾人、善意ト名ケ、他ノ事例ニテハ、惡意ノ情款ト名ク、然ルニ、善意ノ情款ハ、前篇

忿恨ハ類
名タルヲ
論ス

ニ論シタルヲ以テ、今ハ、惡意ノ情款ヲ述フヘシ
此情款ノ諸種ハ、忿恨ト云フ總名中ニ、包括セシメ、之ヲ以テ、凡テ此類ノ
根本トシテ、成ル者ナリト、視做スコトヲ得ヘシ、故ニ、嫉妬、猜忌、報復等ハ、
唯此普通ノ一本元ノ種々ニ變化シ、タル者トシテ、視ルヲ得ヘシ、善意ノ
諸情款ハ、凡テ、愛ノ諸形狀ニシテ、其物體ノ各種ニ、對シテ發動シ、其物體
ノ異ナルニ從ヒテ、變化スルカ如ク、惡意ノ情款モ、愛ト相反對シタル一
元ノ諸形狀ニシテ、即チ、厭惡ノ、同シク、物體ニ從ヒテ、變化スル者ナリ
惡意、即チ、忿怒スル感動ハ、亦善意ト同シク、其本元ニ於テハ、本能ニシテ、
吾人ノ性中ニ、其基礎アリ、且然ルヘキ境遇ニ臨ミテハ、直チニ、發出スル
コト、一般ナリトシ、其發達モ、夙歲ニ在リテ屢、カノ省察論辨ノ勢力ノ發
生ニ先タチテ顯ハレ、且又、或、界限ニ至ルマテハ、人ト禽獸ト、相通シテ、之
ヲ有スル者ナリ

是亦天性
ニ本ツク
ヲ論ス

然ルモ、道理
ノ發生管
束ニ供ス
ヘキヲ論
ス

然ルニ、吾人、之ヲ本能ナリト、名狀スレハトテ、能思慮シ、道理ニ照シテ、運
用スルニ、適セサル者ナリ、又、此ノ如ク、道理ト、合一ナラシムルコトハ、實
ニ稀ナリト、云フノ意ヲ、其中ニ含蓄セリトハ、絶テ謂フ可ラサルナリ、蓋
シ、理性思慮ハ、後ニ發動スレモ、本來、本能ノ教示スル所ヲ、制可確定スル
者ニテ、又一ニハ、本能ノ勸ムル所ヲ、壓住禁止シ得ル者ナリ、故ニ前ナル
時例ニテハ、情緒ナルモ、情款ナルモ、情欲ナルモ、其性質根元ニ於テ、本能
ノ元ニ非ルハ、莫シ、縱ヒ、唯本能ノ疆域ヨリ發シ、後ニハ、理性靈智ノ高キ
圈内ニ、進ムヘキ者ニナレモ、本ハ本能タルナリ、是ヲ以テ、初頭ハ、思慮ナ
クシテ、忽然タル衝動ヨリ、警突ニ、ナシタル事ヲ、今ハ、熟慮シテ、理ニ照シ
テ、做スナリ、蓋シ、本能ト、理性靈智トハ、互ニ別ナル者ナレモ、必ス交互ニ
相反スル者ナリト、謂フ可ラス、故ニ、其元ハ、二ツナリト雖モ、行、事ニ至リ
テハ、同一ニシテ、一タヒハ、本能ヨリシ、一タヒハ、理性ヨリスルコト、アル

ヘキナリ、カノ吾人ノ友人、若クハ親戚ニ對シテ、懷蓄スル愛情ノ若キハ、純然タル本能タルモ、亦密ニ道理ニ合シ、省察ノ事ニシテ、思慮シタル志ヨリ、發スル效驗タルカ如シ

或人ハ此ノ如キ本元ノ存在ヲ否定スルヲ論ス

忿恨ノ如キ本元、吾人ノ天性固有ニシテ、性分内ノ元行タリト謂フハ、或ハ著家ニテ、論案中ニ置キタル事ニテ、造物主、人ノ心腸中ニ、忿恨ノ本元ヲ、賦與シタルヘシト云フハ、神德ノ品性ヲ、講毀スル者ナリトセリ、神ハ、人ニ愛スルコトヲ命シ、惡ムコトヲハ命セス、故ニ其ノ極メテ禁スル所ヲ以テ、心ノ眞ノ性分中ニ、預備トシテ、賦與スルコト有ル可ラス、此ノ如キ本元ハ、畢竟、無益ニ屬スト、墨守セリ、是即チ、榮斯樓氏ノ、其道德哲學ノ著本ニ、取レル本說ナリ

此爭案ノ發端ヲ論ス

上ニ表シタル見解ニハ、甚タ力アルコト必セリ、然モ、吾人ノ問題トスル所ハ、吾人、先天ニ就テ、人ノ性ハ、此ノ如キ者ナリト定ムヘシト、謂フニモ

此ノ如キ

非ス、又此ノ如ク、ナラサルヲ得スト、謂フニモ非ス、唯其性ヲ、事實ニ徴スル所ノ如シト、謂フノミ、忿恨ノ如キ本元ハ、善キ性質ノ人ニ、必^〇須^〇ナリヤ否ヤト云フハ、今ノ問題ニ非ス、又造物主ノ、人性中ニ、此ノ如キ本元ヲ、賦與シタルハ、有ルヘキ事ナリヤ、否ヤト云フモ、今ノ問題ニ非ス、且又、此ノ如キ本元ノ、道德ニ關スル品性ハ、何如ツヤト云フモ、此問題ノ旨趣ニ非スシテ、唯人ノ性質中ニハ、本來、此ノ如キ元行アリヤ、否ヤト云フヲ、問題ノ主意ナリトス、今若果シテ、人性中ニ、此ノ如キ者アリトセハ、吾人ノ斷言ハ、造物主ノ、之ヲ賦與セルハ、或睿智ノ目的アルニ出タリ、又然ラサレハ、人生レテ、世界ニ出ル以上ハ、其性、既ニ造物主ノ意ノ、人ニ就テ欲スル所ヲ、正當ニ表出スル者ニ、非スシテ、一ノ道理ニ由テ、其本然ノ潔淨完全ヲ、失ヒタリト、此二路ノ一ニ、出テサルヲ、得サルナリ

今ツレ、一定ノ境遇ニ際シ、適當ノ機會アリテ、吾人ノ怒ヲ發スル感動ヲ、

本元ノ存
在ヲ論ス

百五十八
醒覺スル時ハ、此胸裏ニ、此一定ノ感動發旺スルハ、否定スヘキニ非ス、且
又、此感動ハ、其基礎ヲ、人ノ性中ニ有スルモ、否定ス可ラサルナリ、是吾人、
此怨恨ニ就テハ、他ノ情ノ固有生來ノ本元タルト、同一ノ明證ヲ有スル
所ニテ、其顯ル、ハ、此世界内、萬國ニ通シ、萬世ニ亘リ、社會ノ凡百態度中
ニテ、普通、且一致ナル者ナリ、而テ其發生ヤ、亦此生ノ夙期ニ在リテ、カノ
教育、若クハ、先例ヲ以テ、其存在ノ源由ト、スルノ前ニ在リ、唯理性ハ、其發
生ノ後ニ、之ヲ管束控勒シ、若クハ、之ヲ廢消シ得ルト雖、其本元ハ、之ヲ
放縱シ、若クハ、控勒スル前ニ存スルナリ、蓋シ、此情ヲ喚起スル機會、我ニ
受ケタル傷害禍惡ニ在ル時ハ、此感動、怨恨ノ名ヲ取リ、又他人、其不正ヲ
行ヒタル目的タレハ、其醒發スル感動ヲ名ケテ、一層本來ニ、之ヲ憤怒ト
云フ、故ニ、吾人ハ、我自己ノ不正ヲ知リテ、怨恨シ、他人ノ不正ヲ見テ、憤怒
ス、其本元ハ、何レニテモ、同一ニシテ、實ニ吾人ノ性中ノ一部タルコト、猶

惡意ト云
フ語ノ用
法、何如ヲ
論ス

恩惠ヲ受ケテ、感謝ヲ發シ、相愛スル人ノ悲愛ニ於テ、同感ヲ起スカ如シ、
此情款ノ一類ヲ、徵スル爲ニ、用井タル惡意ト云フ語ハ、酷々論駁ニ、屬ス
ヘキコトハ、自ラ解過セサルヲ得ス、是此論題ナル感動ト、上ニ論シタル
相反セル品性ノ感動ト、其間ノ差別ヲ、標示スル爲ニ、適當ナル語ノ缺ル
ニ因テ、其代用ニ、便利ナル語トシテ、習用スルニ至レリ、而テ、吾人、其一ヲ
善意ト呼フ故ニ、此一ヲ惡意ト呼フハ、唯比較上ヨリ、言フノミニテ、其情
ノミニ品性ニ於テ、少シモ、罪業タリト云フ意ヲ、含メルニ非ス、然シナカ
ラ、此語、不幸ニシテ、此ノ如ク、用井タル意味ヲ、含マヌコト、見エ、此ノ如
ク、徵セル情款ノ、道德ニ關スル品性ハ、問難ニ供シ、其品性ノ功用ニ就テ、
之ヲ論決スヘシシテ、論題ナル語ノ、彼此習用ニ因テ、定レリト見ル可ラ
サルナリ、此問題ハ、余將ニ、直チニ、講究ス可シト雖、此處ニテハ、特ニ先ッ
惡意、即チ、忿怒ノ感動ノ、發顯スル諸形狀ヲ、論スヘシトス

怨恨ノ性
ヲ論ス

此本元ノ
圖略ヲ論
ス

百六十
怨恨ハ、傷害ヲ受ケタリト、見タル時醒發スル感動ニテ、正シク、恩惠ヲ受ケタル時、醒發スル感動タル、感謝ノ反體ナリ、此後ノ事例ニテ、心腸裏ニ、一時ニ、其惠人ニ對シテ、愛敬ノ情ノ、發生スルカ如シ、前ノ事例ニテモ、一時ニ、亦、我ニ、不正ヲ、爲シタル人ニ對シテ、怨恨ノ感動、發生スルナリ、是本能上ノ情ニシテ、吾人、傷害ニ就テ、意識ヲ有スレハ、即チ直チニ又、怨恨ノ感動ニ就テ、意識ヲ有ス

人性ニ、此本元ヲ具スルノ圖略ハ、較著ナルコトニテ、是吾人ヲシテ、先見ノ達スル能ハサル、深慮ノ防ク能ハサル、不意ニ、起レル危害襲撃ヲ、防禦セシムルノ具ニシテ、若其襲撃ヲ受ル時ハ、即時ニ、發作ヲ要シ、速カニ、救援ヲ假ス者ナリ、此ノ如キ事例ニ、臨ミテハ、理性省察ノ事ハ、我カ救援ニ來ルモ、甚タ遅クシテ、若吾人、只管ニ、唯、理性省察ノ議ニ、委任スルノミナル時ハ、其評議、如何ニ賢智ニ屬スルモ、既ニ己ニ、傷害ヲ受ルニ至ルヘシ、

罪業ノ責
罰ニ必要
ナルヲ論
ス

故ニ、理性思慮ハ、其傷害ヨリ、我ヲ保護スレ、此機會ヲ失フナリ、是ヲ以テ、一層迅速ノ舉動ヲ、促カス者ヲ要シテ、譬ヘハ、警醒ナル看守人ノ、能戎裝シテ、危急ノ初頭發スルニ臨ミ、其急報鐘ヲ打チ、衛戍兵ノ進發ヲ、令スル如クナラムヲ要ス、是、吾人ノ有スル、怨恨ノ本元ナリ、且ツレ、若此本元ノ存スルコト、微リセハ、卑怯迂遠ノ計略、屢、正義、名譽、權利ノ旨趣ニ超エテ、旺盛ナルニ至リ、私欲ノ計略、吾人ヲ控制シテ、傷害ヲ蒙レル者ノ保護ト、侵攻者ノ責罰トニ於テ、自ラ危害ヲ冒カシテ、其間ニ居ルヲ妨クルニ至ルヘシ、故ニ、此本能ハ、理性、將ニ發作セムトスル前ニ、此ノ若キ事ニ於テ、我ヲ正義ニ置ク者ナリ

惡意ノ情款ハ、爰ノ論題ナル形狀ニテハ、少クモ、一定ノ度ニ、達スルマテハ、罪業ノ責罰ト、社會ノ保護トノ爲ニ、必要タリト見ニ、此情ナクシテ、吾人、他ノ邪行ヲ、我カ身ニ受ケスシテ、他人之ヲ蒙リタル時、之ヲ救援セム

トシテ、十分ナルカヲ盡シ、迅速ナル舉動ニ及フヘキカ、是疑フヘキ所ナリ、蓋シ、天ノ以テ、此ノ如キ危害ヲ、保護スル爲ニ、人ノ心胸中ニ、正義ノ固有性ヲ賦植シ、肆イマ、ニ蒙リタル不正傷害ニ就テ、怨惡ヲ發シ、其暴行者ニ對シ、速カニ忿恨ヲ發シ、以テ我ヲシテ、其事主ヲ睥出シテ、之ヲ責罰スルコトヲ、求メシメ、之カ爲ニ、他人慍恤ノ辨白ヲ止メ、我ヲ禁シテ、報復ノ拳打ヲ、行フニ至ラサシム、然レ、是唯、慈悲ノ微小短視ナル者ニテ、其罪業ト、罪人トノ憎惡ニ、猶不足ナル所アリ、是唯、仁愛ニテ、不幸ヲ相憐ムノ情、僅カニ顯ハレ、カノ社會至高ノ切要事項ニ、撞着シ、凡テ人ノ最モ受シ、最モ秘スル所ヲ、危險ニ擠スル者ヲ、正義ノ判決、正當ノ刑罰ヨリ、保庇スル所ナル耳、乃チ、其相憐ムノ情、強クシテ、眞ニ之ヲ惡ムニ至テハ、嚴厲ナル忿怒、反テ、無ニ眞實ノ慈悲タリ、神ハ、至大ノ慈悲心ヲ以テ、邪惡ヲ惡ムニ、嚴厲撓ムコトナキノ情ト、結合スル者ニシテ、是其至高至大ノ性質

過失ニ陷
リ易キヲ
論ス

過度ナル
忿恨ノ、勒
遏ヲ論ス

タリ、カノ經典ニ、比喩セル如ク、上帝ハ、愛ナリト、眞實ニ云ヘル如ク、亦同一ノ眞實ヲ以テ、我カ上帝ハ、燒燬スル火ナリト、肯定シ得ヘキナリ、然ルニ、論題ナル本元ノ、其用ニ供スルハ、吾人ノ急ニ、供スル天賦ノ至要タリト、視ルヘクシテ、又此本元ノ、過失ニ陷リ易キヲ以テ、之ヲ細心ニ懲窒スルヲ、要スルコトハ、知ラサル可ラス、殊ニ、其卒爾ニ發動スル、本能タルヲ以テ、身ノ傷害危害ヲ、受ルニ當テハ、吾人之ヲ、其極度ニ、致シ易キノ蔽アリテ、其時下ノ景況ニ應スル、適度ヲ越エテ、忿怒ヲ、肆イマ、ニ、スルコトアリ

其傷害、實地ナルト、想像ナルトニ拘ハラヌ、忿恨ノ過度ナルニハ、亦天然ニテ、之カ爲ニ、必要安全ナル控勒ヲ、設ケタリ、其憤怒、甚タシクシテ、露發ノ表象、他人ニモ、正シク、見エ得ル如キニ至テハ、諸人ノ同感ヲ失ヒ、激怒タニ、無カリセハ、諸人ノ同感、我カ方ニ屬スヘキ者、是ニ依テ以テ、吾カ甚

多怨惡スル人ノ爲トナリテ、諸人ノ同感彼ニ轉スルナリ、故ニ賢明深慮
 ノ人ハ、細心ニ此ノ如キ效驗ヲ避クルヲ以テ、此深慮ハ、其怒氣ニ強テ勒
 脚ヲ施スヘシ、又有徳ニテ、品性高キ情操アル人ニハ、猶他ノ羈勒アリテ、
 是亦、不相當ニ惡意ノ感動ヲ發スル上ニ、弱カラサル控御ヲナス、是即チ、
 自ラ辱シメ、自ラ卑クスルノ、感動ニテ、有徳ナル人ハ、己レ過度ノ忿怒ニ、
 至リタル後ハ、情欲ノ熾熱漸ク冷メ、靜カニ省察スル瞬時ニ至レハ、自ラ
 心ニ感スヘキ所ナリ、蓋シ、相當ナル疆域内ニ、發用シタルサヘモ、惡意ノ
 情款ハ、其本性ヨリシテ、痛苦ナル者ナリ、其傷害、若クハ、凌辱ヲ受ケタル
 時、初頭發スル情ノ、不快ナル性質タル耳ナラス、其脚下ニ繼キテ、之ト相
 伴フ欲願、即チ、其暴行者ヘ、報復トシテ、惡ヲ被ラシメムト、欲スル情モ、亦
 此心ヲ騷擾亂擦シテ、之ヲ念フ心ニモ、其念、一種ノ痛苦ヲ受クルナリ、是
 本來ナラス也、此情自己ノ責罰ト、名ケ得ヘシ

此感動ノ
 激發スル
 ハ何ニ本
 ツシカヲ
 論ス

故ニ、此感動ハ、其性質ニ於テ、培育ナキ生靈ナル者ニテ、自ラ管束スルニ
 モ、道理ト、教門トノ控勒ニモ、慣習セサル者タリ、是ヲ以テ却テ、其情欲ト
 ナリ、暴激過度ノ發動ヲ、ナスニ及ヒテハ、吾人自然ニ、道理教律ノ控勒ヲ、
 要スルナリ、一ハ、我カ自己ノ福祉ニ、傷カムコトヲ恐レ、一ハ、我カ自己ノ
 尊重徳量ヲ、顧ルノ意ヲ以テシ、一ハ、カノ世間衆口ノ、同感稱譽ヲ欲シテ、
 却テ、公論ノ爲ニ、我カ端正ナラサルヲ、譏ラレムコトヲ恐レ、縱ヒ、其激力
 ヲ、減スルニ至ラサルモ、少クモ、其表象ニ顯ハル、ヲ、壓住シテ、頗ル忿恨
 ノ感動ヲ、節スルニ至ルヘシ、是其齡、稍是非ヲ、辨別スルニ至リテ、自ラ體
 験ノ業課ヲ、歴タル者ニ在テハ、自然然ラサルヲ、得サルナリ、カノ小兒ハ、
 蹉跌シテ、其足ヲ撲シ石ニモ、怒ヲ發シ、意識ナキ器械ノ爲ニ、傷害ヲ受ケ
 タルモ、忿恨ヲ洩シ、又戎狄ハ、其肉裏ニ、貫キタル矢ヲ、抜キ取りテ、之ヲ裂
 爛碎粉スルニ至ル、故ニ、此本元ハ、道理省察ニ因テ、教エ、ラレタル者ニ非

スシテ、自然ノ本能タルコト疑ヒナシ、蓋シ直チニ其傷害ヲ受ケタル器
械ニ向ヒテ、様法ノ如何ニ拘ハラズ、其忿恨ヲ表スルハ、人々ノ第一初頭
ノ衝動ニシテ、其傷害ヲ受ケタル刻下ニ發シ、此ノ如キ思念ノ愚タルヲ、
省察スルニ暇アラサルナリ

忿恨ノ思
慮ニ出タ
ル形狀ヲ
論ス

其初頭ノ衝動經過シテ、漸ク省察ノ機會ヲ得ルニ及ヒテ、此本能上ノ忿
恨、漸ク消滅シ、而テ其情ハ、同一ナレトモ、思慮スル理性上ノ形狀ニ轉スル
ナリ、此ノ如ク情款トナリタル處ニテハ、其心ヲ周圍ニ廻ラシ、其傷害ノ
實ニ及フ處、幾何ナルヲ察シ、之ヲ救解スルノ良策ヲ思フ、此時ニ當テハ、
其邪害ヲ受ケタル物ニ就テ、意識アル主者ト、意識ナキ器物ト、故謀ニ屬
スル傷害ト、過失ナル傷害トヲ區別シ、又儘アリ得ル如ク、其事ノ偶然ナ
ルヲ知ル、此ノ如クナレハ、理性ニテ、其時下ノ景況ヲ、見解中ニ取り、其主
者ノ動機蓋シ然ルヘシト察シテ、準シテ以テ、其忿恨ヲ節スルニ至ルナ

思慮セル
忿恨ノ比
喩

リ
カノ復讐ノ法ハ、夷蠻ノ部落ニ行ハル、者ニシテ血ハ血ヲ要シ、命ハ命
ヲ要シ、硬斷固決ノ正義ニ依テ、酷刑ヲ嚴加ス、縱ヒ久シク實決セサルコ
ト、屢ナリト雖モ、必ス之ヲ要シ、年所ヲ歴ルト雖モ、遠方ニ在ルト雖モ、河
海ヲ隔ツト雖モ、曾テ其罪犯ヲ失フコトナシ、是本能上ノ忿恨ト、思慮上
ノ忿恨トヲ區別スルノ比喩トスルニ足レリ、開化諸國ノ間ニ於テハ、今
猶存スル所謂名譽律武人名譽ヲ洩スヲ裁判スル律法曰耳曼名譽ノ若
會議等是ナリ比武決闘ヲ判スル亦此ニ屬ス、若
キモ、同一本元ノ例トスヘシ

勃多列爾
諸氏ノ指
表ヲ舉ク

此情ノ本能上ト、思慮上トノ差別ハ、勃多列爾パットレルノ指表セル所、尤モ明亮ナ
リトス、是他ノ著者ノ假定セル如ク、勃氏ニ淵源セルニ非ルコト、明カナ
レトモ、從來諸家ノミナラス、古昔ノ哲家ト雖モ、之ヲ表章セルニ及ハサリ
シハ、殊ニ著明ニシテ、實ニ切要ナル差別ニシテ、且又此別獨リ此一情款

此一本元ノ變性ヲ論ス

ニ、殊ニ種別ナル耳ナラス、余既ニ云ヒシ如ク、諸感性ニ凡テ相通スル者ナリ

忌嫉ノ性質ヲ論ス

惡意ノ情款ニハ、一定ノ變性アルコト、確實ニシテ、是玆ノ連絡ニ於テ、表章一過スルヲ要ス、余カ指ス所ハ、尋常忌嫉、嫉妬、報復トシテ、知ル所ノ諸情ニテ、此等皆唯、相通スル同一本元ノ、諸形狀タルノミ、是唯此情ヲ喚起スル、境遇ノ諸種ナルト、物體ノ差異アルトニ從ヒテ、變化アルノミ、忌嫉ハ、忿恨ノ一形狀ニシテ、他人我ヨリモ、幸福多ク、或ハ成功多ク、或ハ稱譽ヲ受ケ、或ハ推尊ヲ受ル時ニ、我カ心腸ニ、生發スルコト、極メテ屢、且容易ナル者ナリ、其幸福ナル人、我カ伴友タリ、其生活モ、我カ等輩タル中ヨリ出テ、其運命ニテ得ル所ノ、名譽、貴重若クハ富榮、權勢モ、我ヲシテ、企テハ及ハシムヘキ者タル時ニ、特ニ此事例アリ、故ニ、余以謂フニ、其人ノ地位、固ヨリ遙カニ、我ニ超エタル時ハ、吾人、曾テ之ヲ忌嫉スルコトナ

嫉妬ノ性質ヲ論ス

シ、是ヲ以テ、農夫、其國ノ公侯ヲ忌嫉セス、乞人、國王ヲ忌嫉セスシテ、唯其同輩ノ農夫ト、同輩ノ乞人トニ於テ、其茅舍ノ、我ヨリ温カナルト、其襤褸ノ服、我ノ如ク、襤褸ナラサルトヲ、忌嫉スルナリ、是脆弱狹隘ナル情欲ニテ、其情、卑劣賤汚、總テ高尚寬大ナル事ノ、反對タリ、嫉妬ハ、惡意情款ノ一形狀ニテ、カノ男女ノ間ニ、存スル愛戀ニノミ、限レリト、謂フニハ非レ、殊ニ一層多ク、此關係ヨリ、發シ、他ニ競争スル者アリト、假想スルヨリ、發スル者タリ、是惡意ノ情款中ニモ、最モ苦楚ナル者ニテ、若全然發動スルニ及ヒテハ、人性ノ至強至盛ナル、本元ノ一ナリ、而テ、此情欲ノ奇特ナルハ、其猜疑怨恨スル目的ハ、同時ニ又、我カ心腸ニ、深ク鍾愛スル目的ニテ、時トシテハ、其尊奉スル所タリ、而テ此情欲ノ強力ト、激烈トハ、其愛情ノ誠實熱炎ノ度ニ、準スル者ナリ、阿邪拉魯トセルロ詩篇ニ於テ、人性中ノ、此癖根ノ發動開張セルヲ、仔細ニ繪畫シテ、甲削斯カウシウニ於テ、嫉

報復ノ性質ヲ論ス

妬ト相通セル情愛ノ照像ヲ見ルナリ

報復ハ、怨恨ノ一形狀ニテ、其最モ思慮セル所ニ出テ、謀リテ、之ヲ施行ニ發スルニ至ル、是其罪業ト、傷害トノ拒防ニ於テスルニ非ス、又且、正義ノ目的ヲ主トスルニ非ス、唯惡ム人ニ對シテ、徒ニ己レカ意ヲ快ウスル耳、是其形狀タル、既ニ此ノ如ク、又此ノ如キ動機ヨリ、發スルヲ以テ、常ニ其度ノ過甚ニ失シ、其品性モ、毒害タリ、是暗黒ナル情欲ニシテ、之ヲ蓄匿スル心腸ヲ、辱カシムルコト、社會ノ害タルヨリモ甚シ、之ヲ稱譽セムト、欲スルモ、一モ、之ニ對償スヘキ品性ナシ、是固ヨリ、高雅寬恕ノ標徴ニモ非ス、然ラハトテ、壯烈勇剛ナル精神ヨリ、出ルニ非ス、故ニ、之ヲ勇武ノ所行ト、ナス可ラスシテ、寧ロ、恐懼ノ餘ニ出ツト、謂フヘシ、故ニ、之ヲ行フハ必ス、秘謀密計ヲ以テ、不法ノ策ニ依ルヲ、常トシ、正明稱譽スヘキ計策ヲ以テ、公然之ヲ行フヲ羞チ、且ツ厭フ者ナリ、是惡鬼ノ胸中ニ、絶エス旺スヘシ

此情ノ變性タルヲ論ス

ト、假想スルニ、堪エタル情欲ト、密ニ相隣比スル者ナリ

余既ニ、忌嫉、嫉妬、報復ヲ以テ、怨恨ト云フ、普通ノ一本、即チ、激發スル偏尙ノ、變化シテ、諸種ノ形狀ヲ、取ル者トシテ、之ヲ論シタリ、然ルニ、此諸形狀ニハ、皆切要ナル一形象アリテ、是ヲ以テ、其由テ生スル所ノ、幹元ヨリ、異ナリトス、其怨恨ナル幹元ハ、吾人ノ性ニ本ツシト、雖用、之ヲ發スルハ、或ハ、本能上ヨリシ、或ハ、思慮上ヨリスルコト、既ニ、論述シタルカ如シ、然ルニ、此諸形狀ハ、余謂フニ、必ス、思慮ノ元行ヲ、稍含ム者ニテ、之ヲ選執スルニ、堪エタルナリ、故ニ、此情款ハ、一定ノ景況ニ處シ、吾人ノ性ノ、偏尙ニ因テ、此感動ノ發スル所ト、其由テ來ル本元ノ、吾人ノ性中ニ存スル所ト、此二ツニ就テハ、之ヲ自然ノ性ニテ、固有ノ一元行ナリト、謂フヘシト、雖用、既ニ發スルニ至テハ、其本元ノ如ク、或ハ、本能上ヨリ、發スルニ非スシテ、反テ必ス、意思、省察、思慮、選擇ノ運用ヲ、含蓄セリト、見ユルナリ

惡意ノ情
款ノ道德
ニ關スル
品性ヲ論
ス

此篇ニテノ論題ナル感動ノ種類ハ其品性道德ニ合ヘリヤ而テ若合ヘ
ルコト有リトセハ如何ナル所ナリヤト云フハ極メテ論辨ヲ費シタル
疑問ナリ恐ラクハ此問題ハ其本來ニテハ心理ノ學ヨリモ寧ロ道德ノ
學ニ屬スヘキ事ナレト云フ余茲ノ連絡ニテ之ヲ表章スルコト無ケレバ通
過スルコト能ハス茲ニ最後ニ論シタル忌嫉嫉妬報復ト云フ惡意ノ情
ノ諸形狀ニ就テノミハ疑フヘキコトナシ之ヲ發スルハ既ニ述ルカ如
ク少シク省察選擇ノ運用ヲ含蓄ス故ニ其運用ハ本能ニ非ス有意ニ屬
スレハ之ヲ管束スルニ堪ユヘキ者ナリ是ヲ以テ之ヲ道理ノ嚴正ナル
管轄ニ屬シ恒ニ吾人ノ躬行ヲ指揮スル高キ諸規ヲ以テ之ヲ束縛屈折
スルニ非ソハ吾人責黜ヲ免レス其形質ト度量トニ於テ之ヲ縱イマ
ニスルハ視テ以テ擯斥スルニ足レリトス是カノ智慮深キ一理ヲ以テ
人性ニ賦與セル忿恨ノ一元ノ顛倒セル者ニテ其偏尙ハ過惡ニ出サル

單素ナル
忿恨ヲ論
ス

コト莫ク而テ唯過惡ニシテ其善アルヲ見ス此諸語ノ本來全ク惡意ナ
リトス
忿恨ノ初元其單素合當ナル者ニ至テハ其運用純然タル本能タルヨリ
モ寧ロ有意思慮ニ屬シ中ニ省察理性ノ運用ヲ含蓄スレハ凡テ此等諸
種心性ノ作用ト共ニ稍德義ノ品性ニ合スルアリト謂フヘシ故ニ其該
當ナル疆界内ヲ出テスシテ發スルコト機ニ中レハ是固ヨリ一徳トナ
スヘク唯其疆界ヲ越エ過度ニ失シ其境遇之ヲ要セサル時ニ發スレハ
惡徳トナル耳
茲ノ問題ハ本來忿恨ノ一形狀純然本能ニシテ理性省察力ノ運用ヲ兼
子サル者ニ係ハル即チ此ノ如キ情モ嚴密ニ名狀シテ德義ノ經ニ合フ
品性アリヤト言フコトナリ人ノ行爲凡テ自ラ其責ニ任スヘキ者ハ唯
其理性ニ本ケル有爲ノ動作ニシテ之ヲ爲スト爲サハルトハ全ク其人

本能タル
忿恨ヲ論
ス

ノ自ラ擇ム所ニ任スヘキ事ニ於テノミ其責ニ任スヘシト謂フコト、然タル正義ノ本則ニシテ、人間普通ノ理會ト、一致スルコト、見エタリ、然ルニ今、純然タル本能上ノ事ハ、此ノ如キ品性ヲ具セサルコト、明カナリ、然ルニ余今、的然不正横虐ヲ被リタル時、余カ胸中ニ生スル忿恨ノ感動ヲ、壓伏スルコトハ、余カ力ノ能フ所ニテ、余能此ノ如キ感動ヲ胸裏ニ匿スコトヲ拒ミ、余能之ヲ擠壓シテ、其上ニ超然タルヲ得ヘシ、然レ其感動ハ、固ヨリ本能ニシテ、余其初頭醒發シテ、衝動スル所ハ、之ヲ防クコト、能ハサルナリ、故ニ、余ハ唯、外科醫ノ剪刀ニテ、切斷ヲ受ル時ニ、我カ筋維ノ無意ニシテ、収縮スルヲ努力シテ、拒ム耳

余以謂フニ、方今、一般ニ、性理家ノ主張セル見解ハ、大率左ノ如シ、オナハム阿巴威氏曰ク、本能上ノ忿恨ハ、絶テ、道義ニ合スル品性アルコト無シ、道義ニ合セル品性ハ、忿恨ニテモ、獨リ有意ノ形狀ニノミニ、歸スヘシト、是ト同一

阿巴威來
德札拉墨
耳諸氏ノ
見解ヲ論

ス

義ニテ、他ノ情款、并ニ、一般ノ感性ヲ論シ、凡テ諸情、共ニ、純然タル本能ヨリ、發スル者ハ、絶テ、道德ニ合フ品性ヲ具スル者ニ、非ストセリ

學士來德ハ、人心能動勢力論中ニ、左ノ語ヲ載セタリ、曰ク、意ノ關セサル事ニ於テハ、何事ニテモ、之ヲ、德義ニ合セリトモ、德義ニ背ケリトモ、正シク、名狀ス可ラサルナリト、凡テ文明ナル國ニ於テ、刑法裁判所ノ慣習ハ、皆此本規ニ本ケリト、其言ニ曰ク、若一國ニ於テ、一裁判權アリテ、一人ヲ罪アリトシ、之ヲ、刑罰ニ處セムトスルニ方リ、其罪タル、其國人舉リテ、究竟ニ、無意ヨリ、發シタル事ナリトセハ、則チ、滿世界、皆其國ヲ、譴責シテ、正義ノ元規本則ヲ、知ラサルノ國トセム耳ト

チャルメル學士札拉墨耳ハ、茲ノ論題ナル道理ヲ以テ、人間道德上ノ辨別中、元始普通ノ一理ト、見ムト欲セリ、曰ク、人ノ辨別ノ、通俗タル耳ナラス、普通ニ、涉ル所ヲ觀レハ、依テ以テ、道德學ノ眞實ナル元理ハ、茲ニ存スルヲ、知ルナ

リ、而テ、其辨別ノ、通俗タル耳ナラス、普通タリト、確定スヘキ者ノ中ニ就テ、其第一ハ、有意ニ屬セサルノ事ハ、道德ト、不道德トヲ、論スヘキ無シト、辨決スル事ナリト

又曰ク、是ヲ以テ、其行事之ヲ、道德ニ徴シテ、或ハ、善ニスヘキ事タリトシ、或ハ、罪スヘキ事トシテ、正シク、之ヲ、辨決ノ目的ト、ナサムト欲セハ、其事ヲ行フニ方リ、意ノ許諾アリテ、共ニ經行シタル者、タラサルヲ得ス、故ニ、其事タル、必ス執意ノ結果ナラサルヲ、得スシテ、苟モ執意ヲ、兼ルニ非レハ、其德義タルカ爲ニ、之ヲ譽メムト欲スルモ、其罪業タルカ爲ニ、之ヲ譏ラムト欲スルモ、其場圈内ニ、在ラサルコト、明カナリ、是ヲ以テ、其行事タル、誠ニ無意ノ事タラハ、道德ニ於テ、其是非ヲ、論スヘキ者タラサルハ、猶手腕上動脈ノ遲速、道德ヲ以テ、論ス可ラサルカ如シト、(道德性理學稿本第五篇、情ノ道德論ヲ見ヨ)

欲ノ一般ノ品性ヲ論ス

第三部 欲ヲ論ス

第一篇 欲ノ情狀并ニ彙類ヲ論ス

吾人、自ラ享ル所ノ物ヲ愛シ、而テ、享テ愛スル所ノ物、既ニ現存セサル時、若シハ、猶現存スレバ、將來必ス亡スヘシト、視タル時ハ、其物、欲ノ目的トナルナリ、此中、後ノ事例ハ、蓋シ、其欲スル所ノ物ヨリモ、寧ロ、其愛スル目的ノ、續テ止マサルニ在ルヲ、一層本來ナリトス、之ヲ嚴密ニ言ヘハ、吾人、欲スル所ノ物ハ、唯其物佳好ニシテ、快樂ニ供スヘシト、雖モ、未タ我カ有タラサル所ニ存スルナリ、故ニ、欲ノ目的ハ、我自ラ、現實ニ、稍其樂ヲ享ケ、體驗ニテ、其估價如何ヲ、知リタル物ナルコト、一層屢ナリ、然レ、我カ自己ノ體驗ヨリモ、他ノ道ニテ、其物ノ貴重ヲ、知ルコトモ、亦鮮カラスシテ、吾人之ヲ、視察ヨリ、又、他人ノ證言ヨリ、探リ、又一分ハ、想像ヨリモ、取ルコトアリ、此ノ如キ時ハ、蓋シ、其物タル、曾テ自ラ、現實ニ、之ヲ享ケタルコト無

キモ、佳好ニシテ、快樂ニ供スヘシト、世ニ稱シ、若クハ、自ラ假想スル所ノ物モ、亦欲ノ目的トナルナリ、故ニ、吾人ノ富ト、權勢トニ於ケルハ、我カ有トナリテ、之カ樂ミヲ享ケサル前ニ、既ニ久シク、之ヲ欲スルナリ、カノ吾人ハ、猶地球上ニ、香花ノ旅客タレハ、未タ曾テ、甚タ、遼遠ナル國ヲ見タルコト無シト、雖、未來ニテ、公義ノ人ヲ待スル祺福ハ、欲ノ中ニテモ、格別一定セル目的タリ、然、此ノ如キ假想ニ、出タル事例ニテサヘモ、縱ヒ同一物ナラス、正猶其物ニ就テ、彷彿ニハ、體驗ニ、享ケタルコトアリ、其眞ニ、富ト、權勢トニ依テ、被ムル利益ニ、比スレハ、其度量、極メテ些少ナルモ、稍體驗ニ根サスハ、明カニシテ、カノ今日、我カ享ル幸福モ、未來ノ一層盛ナル福分ヲ、想像中ニ、生セシムルコト、疑ヒ無シ、故ニ、吾人ノ欲ノ基礎ヲ、立ツル者ハ、過去、現在ニ、享ケタル佳好ヲ、此心ニ、旺現セシムルニ、非ルコト莫ク、若吾人ヲシテ、曾テ其一點モ、享ケタルコト、無テシメハ、亦其一點

感性ノ理法ヲ論ス

モ、欲スルコト、無カルハ、キカ、是疑フヘキ所ナリ、然ラハ、則チ、感性ノ一、大、理法ハ、情ノ諸種類ノ、交互ニ、相旺相スル、次序ト、關係トニ、就テハ、左ノ如クニ、説クコトヲ得ヘシ、曰ク、我享ケ、我愛シ、而テ、我欲スルナリ、而テ、其反對ハ、我苦シ、我厭ヒ、而テ、我憎惡ヲ、生スルナリ、是即チ、心ノ、運用ノ、次序理法タルコトハ、タミリン達美論ノ、哲學課本中ニ、能ク示セル所ニテ、其前ニハ、シフ猶弗魯哇モ、之ヲ論セリ

欲ノ状態ヲ論ス

欲ハ、單純ニテ、限局ナキ、感動ナリ、唯其見ルヘキ状態ト、依テ起ル所ノ機會トヲ、名狀シ得ヘキ耳、而テ、此状態ト、機會トハ、既ニ語リシ二個ノ事情ニテ、一ハ、其快樂ニ、供スヘキ物體ニ、於テ、以前、少シニテモ、其樂ミヲ、享ケタル事ト、現在ニ、其物體ノ在ラサルカ、又ハ、此後在ラサルヘシト、觀定メタル時トナリ、故ニ、此二様ノ約束タニ、備ハシ、我ノ欲、一時ニ、心中ニ、發動ス、而テ、其欲ノ度量ハ、其以前ニ、享ケタル淺深ト、我カ指目スル物ノ、我

欲ノ反對
タル厭惡
ヲ論ス

カ心ニ醒發スル情款ノ強弱トニ準スルナリ
欲ノ反對ハ厭惡ニテ其物體ヲ快樂ナリト視ス不快樂ナリト視善ナリ
ト視ス惡ナリト視テ生スル感動ナリ是亦欲ノ如ク少シニテモ經驗ニ
本ツク者ニテ稍現實若クハ想像上ヨリ苦ヲ生シ其意ノ存スル中ハ其
物ヲ不快憎惡ノ目的トシ縱ヒ目前ニ存セサルモ將來ニ現形スヘキ物
ナリト視タル所コテ厭惡ノ目的トナル故ニ厭惡ト并ニ其反對タル好
欲トハ其基礎ヲ過去ニ居エテ其目的ヲ未來ニ見ル者ナリ
吾人ノ厭惡ハ情中ノ一種別ナル種類トシテ別段ニ之ヲ論明スルハ要
セサル所タルヘシ何トナレハ是皆唯欲ノ反對タルコト許多ニ居レハ
ナリ猶生ヲ欲シ幸福ヲ欲スルノ欲アレハ是ニ對稱スル勞苦ヲ惡ミ死
ヲ惡ムノ厭惡アルカ如シ其他ノ欲ニ就テモ然ル者ナリ
欲ノ性ニ就テ見レハ其他猶表示スヘキ事アリ欲ニハ必ス一ツノ物ア

欲ハ必ス

情ノ先
ツ者アル
ヲ論ス

リテ此物快樂ニ供スヘク而テ今現ニ存セサルノ意アリ又欲ニハ其今
現存セサル物ニ就テ前時嘗テ少シクモ其樂ミヲ享ケ或ハ然ラサルモ
稍其存スル所アルヲ知り且我カ缺乏ヲ補足スルニ足ルヲ知ルノ意ア
リ是欲ノ由テ生スル基礎ナレ也然レ其欲此現存セサル物ヲ只ニ知リ
智力ニテ觀シテ再ヒ我カ意思想像中ニ現ハレタルヨリ直チニ發生ス
ル者ニ非スシテ必ス先ツ其意思知覺ヨリ多少ノ情緒情款ヲ提醒シ其
情ニ亞テ欲生シ其情ヨリ發スルナリ故ニ以前余カ愉悅セシ物ヲ只知
覺シタル耳コテハ直チニ余カ心ニ其物ノ欲ヲ自然ニ發生セスシテ情
緒情款アリテ始メテ之ヲ發シ情ヨリ欲ハ生スルナリ
吾人ノ欲ハ他ノ情緒情款ニ比シテ一層永久ニ引ク者ナリト見エ依テ
以テ或ハ此一種ノ感動ヲ他ノ感動ヨリ區別スル品性トシテ觀ル者ア
レ也蓋シ恐ラクハ是甚シク欲ノ性ニ關スルコトニ非スシテ其欲スル

欲ノ永久
ナルヲ論
ス

所ノ物ハ必ス我カ前ニ在ラサル物ナルニ其物ヲ得サル間ハ之ヲ欲スルノ欲必ス陸續トシテ間斷ナク旺スト云フ事實ニ係ハルナリ故ニ我カ欲ノ既ニ發シテ一定シタル時ハ速カニ必ス之ヲ飽足スヘキ者タラシメハ欲ト雖モ心ノ他ノ形狀ヨリ一層永久ニ存スルコト莫カルヘシ且又爰ニ表章スヘキハ欲ト云フ者其性質ニ於テ心ニ發作ヲ命スル發條ニシテ起動力タリ故ニ是若無二ノ源田タラサルモ必ス心ノ發作スル首因タルコト明カニシテ此心ヲ事ノ舉行ニ促カシ勸ムル者ナリ故ニ形體并ニ心意ノ能力ニ一様法ヲ以テ欲ノ管轄ニ屬セリ心ノ靈智ノミニテ事ノ舉行ニ導ク者ニ非ス又情ノミニテモ斯ニ導ク者ニ非ス愠ニ情以テ此心ヲ攪動シ此欲ヲ提醒スルニ至ル耳而テ欲ハ一定ノ物得ヘクシテ未ダ得サル所ニ此心ヲ定メ心ト體トヲ促カシテ兩ツナカラ欲スレモ未ダ得サル目的ニ達スヘク進發セシムル者ナリ

欲ハ起動力タルヲ論ス

欲ノ彙類ヲ論ス

吾人ノ欲ハ其目的ニ從ヒテ類別スルヲ得ヘシ而テ其目的ハ二種類ナリトス一ハ形體ノ性質ニ屬シ一ハ形體ヨリモ寧ロ心ノ要求ニ關スル者ナリ故ニ肉體上ト理性上トノ二種トスヘク而テ肉體ノ欲ハ其源ヲ人ノ形體ノ資質ニ取り理性ノ欲ハ其源ヲ形體ヨリモ此心ノ性質要求ニ取ルナリ肉體欲ノ一類中ニハ飲食ノ欲男女ノ欲陳力ノ欲休憩ノ欲其他何ニテモ言ハハ肉體獸性ノ資質要求ニ適當スル者ナリ理性欲ノ一類中ニテ尤著シキ者ハ幸福ノ欲知識ノ欲權勢ノ欲倫交ノ欲他ヨリ敬重ヲ受ルノ欲ナリ

此欲トノ連絡ニ於テ又カノ情ヲ講究スヘシ是尋常希望恐懼ト名クル者ニテ前ニ余カ感性ノ分解中ニ述ヘシカ如ク此心ノ發動ノ殊別ナル本元様法トスルヨリモ寧ロ欲ノ變形ナリトシテ觀ルヘキ者ナリ

第二篇 形體ノ資質ヨリ生スル諸欲ヲ論ス

嗜欲ノ性
ヲ欲中他
ノ諸形狀
ト比較シ
テ論ス

此語ノ意
曖昧ナル

形體ノ資質ヨリ生スル諸欲ハ尋常嗜欲ト名ケ心意ノ性ニ本ツク諸欲
ヨリ之ヲ區別シタリ然ルニカノ哲學諸家ニ在テハ之ヲ欲中ニ列スル
ヲ必トセサル者アレハ是皆本來欲ノ一種ナリトス是皆或一物ヲ良好
ナリト觀其眞ニ然ルト假想ニ出ルトヲ問ハス以テ我カ體ノ急需ニ供
スルコ足レリト做シ未タ現ニ有セサルコト能ハサル時生スル所ノ
感動ナリ其物ヲ現ニ有セサルコト因テ以テ渴望ヲ起シ其渴望カノ饑渴
ノ如ク唯筋肉維ノ感覺コノミ屬セス總テ心ヲ動カスニ至レハ純然タ
ル欲ナリ是斯ニ述ヘタル所ニ就テ觀テ他ノ諸欲ト異ナル所ハ心ノ急
需ヨリモ形體ノ性ト其急需ヨリ發生スト云フニ在リ然ル此故ヲ以テ
心ノ情狀ヲ異ニシ心裏ノ現象ヲ生スルコト鮮キニ非ルナリ
嗜欲ト云語ハ曖昧ニテ時トシテハ唯筋肉維并ニ神經維ノ情狀タル饑
渴等ノ如キ形體ノ不平ナル感覺マテヲ徵シ又時シテハ其情狀ヨリ發

ヲ論ス

尤切要ナ
ル者ノ枚
舉并ニ各
ノ完成ス
ヘキ目的
ヲ論ス

シ本來欲ト呼フヘキ心ノ情狀ヲモ指セリ性理學ニテ論スヘキハ此後
ノ所ニノミ在リテ前ノ所ハ生理學ノ域内ニ在ルナリ
余カ今指ス欲ハ其一類中ニ諸種アリ總テ直チニ形體中ノ諸種ノ急需
ニ係ハリ而テ是ヨリシテ發スル諸嗜欲ヲ包含セリ其中尤切要ナル者
ハ飲食ノ欲男女ノ欲是ニ又陳力ノ欲休憩ノ欲ヲ加ヘ得ヘシ人ノ形體
ノ性ハ此欲ノ基礎ヲ居エタル如キ者ニテ是皆我カ血氣ノ性ニ屬シテ
生々ノ家道ヲ成ス爲ニ至切要ノ部分タリ是皆直接若クハ媒接ニ於テ
其一個體ニ在ルト其種屬全體ニ在ルトヲ論セス生々延長ニ資スル者
ニテ嗜欲即チ名稱ヲ撰ヒテ之ヲ唱ブレハ肉體欲ト云フ者ハ各自種別
ノ目的アリテ之ヲ完好ナラシメムト欲シ以テ其普通ノ一目的ヲ達セ
シムル者ナリ故ニ飲食ノ欲ハ一個體ノ生ト力トヲ保全延長スルコト
ヲ期シ形體上ニ於テ陸續經過スル消耗ヲ充補スル者トシ筋維上陳力

此本元ノ
切要タル
ヲ論ス

休憩ノ欲ハ、亦同一普通ノ謀圖ヨリ出テ而テ、男女ノ欲ハ、種屬全體ヲ保
全延長ナラシムルヲ、其目的トナスナリ

此諸欲ノ各自ハ、唯其完成スヘキ種別ノ目的ヲ有スル耳ナラス、吾人ノ
見ル所ニテハ、此ノ如クナラサレハ、完成スヘキ道ナキ、一目的アリ、理性
ハ、此形體ヲ榮養スル爲ニ、飲食ヲ取ルノ便利、又我カ疲労シタル力源ヲ、
更新スル爲ニ、陳力ノ間歇ニ於テ、休憩スルノ便利ヲ告知シ得ヘシト雖
モ、然モ、天ヨリ我ニ賦與シタル欲ノ在ル有リテ、以テ實ニ其發足ヲ求メ
シム、若吾人血氣ノ體ヲ管束スル所ノ理法ヲ擅マ、ニ超過スルコト有
レハ、此欲直チニ理性ヲ促カシテ、我ニ省察セシムルコト微リセハ、カノ
人間事務ノ繁劇ナルニ當リ、幾ハツカソレ吾人ヲシテ適宜ニ形體ヲ保
護スルコトヲ忘レ、要スル所ノ食物、要スル所ノ休憩、要スル所ノ筋維ノ
陳力ヲ廢スルニ至ラシメサラムヤ、若嗜欲ノ急需、促ス所アリテ、理性爲

ニ之ヲ指揮スルコト微リセハ、其形體ノ要スル所、食物、休憩、并ニ筋維ノ
屈伸ニテ、充補スル所ノ者ニ於テ、其度量ヲ制シ、其形質ヲ定メ、其比例ヲ
酌量スルニ當リ、幾ハツカソレ吾人ノ辨決ヲ誤ルコト、無ラムヤ、是他ノ
獸性欲ニ於ルモ、亦均シク然ル者ナリ、故ニ、此諸欲ハ、皆生々ノ家道ニ於
テ、動機ヲ生スル爲ニ、少ク可ラサル者ニシテ、其動機ハ、他ノ道ヲ以テ、存
ス可ラス、故ニ亦依テ以テ、他道ニテ得可ラサル效用ヲ、成スナリ、故ニ、余
カ指ス所ノ本元ハ、形體ノ急需ニ係ハリ、人獸ヲ通シテ、一般ニ須要ナル
所ナレハ、之ヲ切要ノ瑣々タル者トシテ、視ル可ラスシテ、反テ、至高ナル
切要貴重ノ者トスヘシ、故ニ是ヲ適宜ニ貴重スルハ、固ヨリ、吾人至高ナ
ル福履ニ、少ク可ラサル者ニシテ、之ヲ慢ニシ、之ヲ過ルハ、自己直チニ其
實責ヲ被ル者ナリ

吾人肉體ノ性ヲ辱カシムルコト有レハ、是自己ヲ辱カシメ、且天ノ我ニ、

賦與スル性ヲ辱カシムルナリ之ヲ輕忽ニスルハ是皇天ノ睿明仁慈ヲ
輕蔑スルナリ故コカノ寶玉ヲ愛スル者ニシテ之ヲ藏スル匣櫃ヲ輕ン
スルハ豈智慧アリテ道理ヲ知ルノ部分ナラムヤ若其匣櫃ヲシテ貴重
スルニ足サラシムルモ其用ヲ爲スニ於テ豈貴ナラスト謂ハムヤ況ヤ
是固ヨリ奇巧美妙ヲ極メタル稀世ノ工手ノ作メルヲヤ

嗜欲ハ其性ニ於テ本體ヨリ私欲ナリト視ル可ラス是皆實ニ吾人自己
身體上ノ急需ニ係ハル是凡テ吾人ノ諸欲并ニ少シクハ凡テ吾人ノ感
性モ亦皆此ノ如キ者ナリ然ルニ適宜ナル界限内ニ之ヲ行フハ他人ノ
正義幸福ト相忤スルコト無ク寧ロ此ノ如キ效用ヲ促進スヘシトス故
ニ此語ノ本來ノ意味ニハ非レモ私欲ノ偏癖タルニ非ス此諸欲ノ至極
ノ正鵠ハ其人ヲシテ此饜足ニ依テ享樂ニ一定ノ總計ヲ獲セシムルニ
非スシテ此享樂ニ依テ他ノ道ニテハ達ス可ラサルノ一目的ヲ獲セシ

私欲ナラ
サルヲ論
ス

危殆ナル
偏尙ヲ論
ス

ムル爲ナリ故ニ是皆吾人ノ性ニ稟テ固有スル者タリト定ムヘクシテ
私欲ニテ慣習ヨリ得タル偏癖ト爲サハルヲ勝レリトス
然レ余亦決シテ忽略ス可ラサル事實アリ肉體上ノ諸欲ハ之ヲ放肆ニ
シテ此心ニ頗ル管束ヲ得ルニ至レハ危殆ナル偏尙ニシテ是ガ爲ニ慎
重シテ之ヲ界限内ニ控勒スルコトヲ要スルナリ是皆過失ニ陥リ易キ
者ニテ若他ノ一層高キ躬行ノ諸本元ヨリ上ニ位シテ盛旺スルノ難ア
ル時又若此諸欲服從控御ヲ免カレ己主ト爲リテ人ヲ管轄スルニ至ル
時ハ人ヲシテ獸畜ノ水平マテ沈没セシム此時ニ方テハ凡ソ日ノ照ス
地球上ニ於テ觀テ以テ慘怛悲哀スヘキ者此人ヨリ甚シキハ莫ク理性
靈智ノ才能ヲ以テ賦セラレタル心ニシテ自己ノ卑劣ナル欲ノ爲ニ奴
隸タレハナリ凡ソ奴隸ノ中此ノ如キ汚辱ナル奴隸ナク是復舊ノ望ヲ
絶ツ者ナリ此時ニ當テハ極メテ懇篤ナル努力モ至善ナル志望モ至切

人性ノ奇ナル理法ヲ論ス

ナル決斷モ之ヲ爲シテ無益ニ屬スルコト殊ニ屢ニシテ此心其自己ノ偏癖ト爭ヒ其自己ノ壞敗シタル慣性ト闘フト雖モ既ニ其目的ヲ失ヒ其管制ス可ラサル怖ルヘキ急流ノ中ニ漂蕩シ去ラル是ニ於テヤ其嗜欲ハ遂ニ控勒ヲ脱シ猶カノ帆モナク舵モナキ船ノ如何トモ爲ル勢力無キカ如ク旋颯ノ難ニ依テ迅速ニ減縮スル颯心ニ埋没スルコト至ル吾人ノ活動ノ本元ハ練磨ニ依テ愈強力ヲ得ルト雖モ其本元ヨリ供スル所ノ苦樂ヲ受ルノ度ハ反復ニ依テ減スルコト是人性ノ理法タリト見ユ是士低瓦的氏ノ明カニ説カレタル所ニテ此理法ヨリシテ肉性欲ハ就レニテモ久シク過度ニ耽リタル時ハ本本此ノ如キ沈溺ヨリ饜足ヲ得タリト雖モ竟ニハ依テ以テ快樂トスルニ足ラサルニ至ルト云フコトヲ生スルナリ此ノ如クナレハ其欲ノミハ甚シク增長シテ陸續トシテ其要求ヲ増スノミ蓋シ凡ソ此心ノ情狀窮苦慘怛是ヨリ甚シキ者

慣習ノ嗜欲ヲ論ス

ハ莫カルハシ此ノ如ク欲ノ爲ニ壓搾セラレタル心ハ猶歡樂ノ杯ヲ舉テ最後ニ辛苦ナル滓滴ヲ飲ムカ如シ是猶健啖流飲長夜ノ宴ニ於テ反復シテ限極ナキカ如シ是ニ至リテハ一瞬時間ト雖モ之カ饜足ヲナスノ術ナキニ至ル其愚モ亦甚シ真ニ妖魔ノ性ト謂フヘシ憐ムヘキノ甚シキアリカノ醉漢饜饜子嫖客ハ此本元ノ的然タル例ナリ爰ニ至ルマテ余カ話シタル天然ノ嗜欲ハ形體ノ性ニ木ツク者タリ而テ之ニ加ヘテ一ノ嗜欲アリ是人爲又慣習セル欲トシテ視ルヘキ者ニテ即チ野莽ト開化ノ國トヲ論セス彼カ如ク廣布シ殆ト普通ニ盛ナルニ至リタルカノ麻醉衝動ノ諸種并ニ催醉ノ飲料是ナリ

第三篇 心意ノ資質ヨリ生スル諸欲ヲ論ス

第一章 幸福ヲ願フノ欲

形體ノ性ニ根サスヨリモ寧口心意ニ其基本ヲ立ル諸欲ノ種類中ニテ

自愛ト云